

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床栄養学	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Nutrition	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	獣医師免許取得後、勤務医として小動物臨床に従事ののち、現在は理学療法、食事指導、運動療法などのリハビリ診療を主に行っている。				
授業の概要・目的					
栄養(食餌)は生命維持に必要なだけでなく、健康に過ごすためにも重要なものである。また、食餌内容によって管理できる疾患も多い。現在は様々なペットフードが普及しているため、各個体の健康管理のためには食餌や栄養に関する正しい知識をもって、各個体、状態に合ったフードを選択しなければならない。動物医療に携わる者として、食餌を選択する飼育者に正しい指導ができる必要がある。本授業では栄養素やペットフードに関する基礎知識、疾患と食餌の関係について習得、理解することを目的とする。					
到達目標					
飼い主に食餌の選び方、与え方を説明できるようになる。各個体に食餌が合っているか評価ができるようになる。疾患に対する食餌療法について飼い主に説明、アドバイスができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	栄養の役割とバランスについて 動物(主に犬猫)の食性について	16	体格のチェックと体重管理 肥満		
2	消化・吸収・排泄物について 腸内細菌について	17	消化器疾患と食餌		
3	栄養素の分類 栄養素各論1(ビタミン及びミネラル)	18	食物アレルギーと食餌		
4	栄養素各論2(炭水化物)	19	皮膚疾患、糖尿病と食餌		
5	栄養素各論3(タンパク質・脂質)	20	下部尿路疾患と食餌		
6	栄養素各論4(水) エネルギー量の計算	21	慢性腎臓病と食餌		
7	ライフステージ別の食餌管理(成長期 維持期 老齢期)	22	心疾患、肝疾患と食餌		
8	ライフステージ別の食餌管理(避妊去勢手術との関係 妊娠) 様々な給餌法	23	その他の疾患と食餌(癌 甲状腺 痴呆 関節疾患)		
9	ペットフードとは(製造法、分類、工夫 など)	24	症例検討(様々な状態、状況における飼い主へのアドバイス)		
10	ペットフードの表示を読み解く	25	強制給餌 経口以外の栄養補給法		
11	ペットフードの選択方法	26	食べてはいけないもの、注意が必要なもの サプリメント		
12	嗜好性をあげる方法 フードの切り替え方法 飼い主へのアドバイス	27	手作り食について		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	配布資料、授業内容を自身でまとめる(レポートとしての提出あり) 授業内容の復習(小テストでの確認)				
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布				
参考書	動物栄養学 日本動物看護職教会認定試験教本 (Inter Zoo) / 小動物の臨床栄養学 (Mark Morris Institute) / 基本からよくわかる犬と猫の栄養管理 (Inter Zoo) その他講義内で適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験、レポート提出、出席率、授業態度を合わせて評価。最高100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	救急・飼い主対応	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床検査学実習	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名		開講期間	通年	必選区分	必修
	Practice of Animal Clinical Examination I	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	小動物を中心とした臨床獣医師として、多数の動物病院での診療に従事。				
授業の概要・目的	動物病院では、動物の健康状態の把握や疾病の診断を行うために様々な検体検査・生理機能検査が実施される。これらの検査が正確かつ確実に行われなかった場合、診断の遅延、検体の頻回採取などの患者動物への危険が生じることとなる。また、検体の不完全な取り扱い、検査者自身の健康被害へとつながる可能性をはらんでいる。さらに、各々の検査の目的や意義は飼い主への説明の際にも必要不可欠な知識である。本講義では、1学年時に学んだ内容も踏まえ、検査の意義をより深く理解すると共に、検査を安全・確実に行えるようになることを目的とする				
到達目標					
授業計画(テーマ・内容)					
1	フィジカルアセスメントについて理解する。	16	凝固系検査・クロスマッチのについて理解する。		
2	便検査について修得する。	17	細胞診・組織診・骨髓診について理解する。		
3	外注検査に関して・内分泌疾患に関する検査について修得する。	18	超音波検査について理解・修得する。		
4	尿検査について修得する。	19	神経学的検査について実施手技を修得する。		
5	遺伝子検査の概要・検査の感度と特異度、採尿法について修得する。	20	眼科検査について実施手技を理解する。		
6	血液検査(CBC・血液塗沫)について修得する。	21	CT・MRI検査について理解・修得する。		
7	血液検査(生化学検査までルーチンで行う)について修得する。	22	聴診について理解・修得する。		
8	血液検査(血液塗沫の鏡検)について修得する。	23	心電図検査について理解・修得する。		
9	皮膚科検査・耳科検査について修得する。	24	内視鏡検査・そのほか特殊検査について修得する。		
10	微生物検査について修得する。	25	猫の保定と採血について修得する。		
11	レントゲン検査の保定について修得する。	26	総合復習+麻酔中の検査(CPR中の評価も含む)について修得する。		
12	レントゲンの評価法について理解する。	27	後期試験		
13	繁殖生理について理解する。	28	後期振り返り		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	総まとめ①疾患と血液検査の変化について理解する。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	総まとめ②飼い主への説明を行い、検査内容をより実地に即し修得する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	講義中にテキストとなる資料を配布します。				
参考書	動物看護コアテキスト改訂版①～⑥（ファームプレス） / 動物看護実習テキスト（インターズー） / イラストでみる犬の病気・猫の病気（講談社）				
評価方法・基準	実技試験・筆記試験・出席率から総合的に評価を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物外科看護学実習	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Animal Surgery Nursing	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	大阪どうぶつ夜間急病センター 獣医師				
授業の概要・目的	まず外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。さらには、それらの準備や管理に加えて、麻酔準備や麻酔監視、助手としての手術の補助、救命救急など学んだ知識の実践力を修得する。これらの目的を果たすためには総合的な看護学への理解が求められるため、これまでの基礎的な科目の知識を整理し、外科に関連させた実践力として身につけられるよう、適宜復習も織り交ぜながら進めていく。				
到達目標	実践力を身につけるとはいえ、実習のみであらゆる疾患やリスクを抱える動物の外科、麻酔について理解することは困難である。ただしそれらの症例に臨む上でも、解剖学と生理学の知識を基礎とした術前準備、術前管理という理解が重要になる。動物たちの状態を常に観察し、その上でどのような看護が必要となるのかを説明、分類できるような思考能力を身につけることを目標とする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーションにより外科看護学の概要を理解する。 実習に参加する犬と猫の総合健康診断を行い、保定および基礎的臨床検査の復習を行う。	16	動物看護計画の策定について理解する。		
2	外科手術の準備において必要な小型犬、大型犬、猫の保定法を修得する。	17	周術期の動物に対する痛みの評価について理解する。		
3	術着とドレープの準備について理解する。 術中のモニターについて理解する。 静脈採血と動脈採血の違いについて理解する。	18	入院時の動物の管理法について修得する。		
4	各手術器具の名称を整理し、その用途を修得する。 術後に着用する腹帯の作成方法を修得する。	19	入院時の衛生管理について理解する。		
5	エキゾチックアニマル(哺乳類および鳥類)の保定について修得する。	20	栄養チューブ設置の準備や流動食の調整を修得する。		
6	術前の手洗い法を修得する。 術着とグローブの着用方法を修得する。 検査や処置に使用するウレタンマットの作成法を修得する。	21	周術期に起こりうる緊急対応について理解する。		
7	輸液剤の準備について復習し、理解を深める。 手術に必要な薬剤の役割を理解し、その調整法などを修得する。 静脈留置処置、気管挿管の準備について復習し、理解を深める。	22	ASA分類に基づいた麻酔リスクについて理解する。		
8	麻酔薬について理解する。 麻酔機器の使用法を修得する。	23	歯石除去の手技とその際の麻酔法について修得する。		
9	具体的な麻酔管理法を理解する。 ガイドラインに基づいた心肺蘇生法を修得する。	24	去勢手術時の助手の具体的手技について修得する。		
10	不妊手術の術式について理解する。 術中の麻酔記録、看護記録の記入法を修得する。	25	去勢手術を実施し、周術期の実践的な動きを修得する。		
11	犬と猫への鎮静処置の手順を修得し、その際の注意点について理解する。	26	避妊手術時の助手の具体的手技について理解する。		
12	術前準備、麻酔法、術中モニタリングなどについて再度整理し理解を深める。	27	避妊手術を実施し、周術期の実践的な動きを修得する。		
13	生体への麻酔処置を行い、周術期の実践的な動きを修得する。	28	抜糸の準備と手技について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。 生体への麻酔処置に必要な実践的な準備、注意点を理解する。	30	後期学習内容の振り返りを行う。 術後の家族のインフォームドコンセントについて理解する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	配布する資料を用いて毎回の授業内容を自宅で復習する。				
教科書・テキスト	動物看護実習テキスト 動物看護師要請専修学校教科書作成委員会 編 (EDUWARD Press)				
参考書	同上				
評価方法・基準	筆記試験および実技試験をともに100点満点で実施し、より点数の高いものを採用する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物薬理学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Pharmacology	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師として、臨床医療に長年従事				
授業の概要・目的	臨床の現場では欠かすことのできない薬物治療について、薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用や、代表的な薬物の作用、副作用を理解し、その必要性や、適応とされる病態、投薬時の注意点などについて知識を深める。				
到達目標	臨床の現場で使用される薬物の特性を学び、投薬前後での病態の変化にいち早く気づけるようになり、また、飼い主への服薬指導が的確に行えるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	薬物の基本知識(薬物治療の概念・薬理作用)について理解する。	16	神経系に作用する薬物(鎮痛薬・鎮静薬)について理解する。		
2	薬物の基本知識(薬物動態)について理解する。	17	神経系に作用する薬物(抗けいれん薬・問題行動治療薬)について理解する。		
3	薬物の有害作用(副作用・中毒作用・薬物アレルギー・薬物依存・耐性)について理解する。	18	呼吸器系に作用する薬物(鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬)について理解する。		
4	薬効に影響を与える因子について理解する。	19	循環器・泌尿器系に作用する薬物(血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬)について理解する。		
5	薬物の取り扱い(薬物の剤形の違い・投与方法)について理解する。	20	消化器に作用する薬物(制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬)について理解する。		
6	薬物の分類や法規を学び、毒薬・劇薬・麻薬などの取り扱い方を理解する。	21	代謝・内分泌に作用する薬物(糖尿病治療薬・甲状腺治療薬)について理解する。		
7	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	22	代謝・内分泌に作用する薬物(ステロイドホルモン)について理解する。		
8	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	23	血液・免疫系に作用する薬物(抗貧血薬・抗炎症薬)について理解する。		
9	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	24	血液・免疫系に作用する薬物(免疫抑制薬)について理解する。		
10	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	25	化学療法薬(抗菌薬)について理解する。		
11	神経系に作用する薬物(全身麻酔薬)について理解する。	26	化学療法薬(抗真菌薬)について理解する。		
12	神経系に作用する薬物(局所麻酔薬)について理解する。	27	化学療法薬(駆虫薬・殺虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。		
13	寄生虫に作用する薬物(原虫・蠕虫・衛生動物)について理解する。	28	化学療法薬(抗腫瘍薬)について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人との調和	開講学科	動物医療科		
開講科目名	伴侶動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Companion Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	みなせ動物病院開業獣医師 京都府乙訓郡を中心に、犬猫ならびにエキゾチックアニマルを中心とした臨床に従事				
授業の概要・目的	エキゾチックアニマルはペットとして飼われている歴史が浅く、飼育に関して不明な点が多い生物では繁殖させたり寿命を全うさせたりするどころか、長期飼育さえ困難なものもいる。栄養学的なことや感染症など、飼育のための必要最低限な情報も不明な種は多い。そのため基礎的な知識の習得や設備投資を怠った状態で飼育開始するケースも見られる。こうしたことから動物病院などの現場へ就職を目指す学生は正しい知識を身につけてそれを伝えることができるようになる必要がある。本開講科目では動物病院に来院することが多いと考えられるエキゾチックアニマルを中心にそれら動物の生態・生理・飼育・疾病等について習得する。				
到達目標	エキゾチックアニマルの分類ができ、生態・飼育について飼い主に説明できるようになる。また、診察補助、入院した動物の管理ができるように生理学的特徴、疾病について理解する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	エキゾチックアニマルの概要について理解する。 ハムスターの形態・生理について理解する。	16	フェレットの形態・生理について理解する。		
2	ハムスターの飼育・疾病について理解する。 ハムスターの保定方法を習得する。	17	フェレットの特徴・飼育・疾病について理解する。		
3	マウス・ラットの形態・生理疾病について理解する。	18	鳥の分類・形態・生理について理解する。		
4	シマリスの形態・生理・飼育について理解する。	19	鳥の飼育について理解する。		
5	プレーリードッグの形態・生理・飼育について理解する。	20	鳥の診療・疾病について理解する。		
6	モルモットの形態・生理・飼育・疾病について理解する。	21	鳥の疾病について理解する。 小鳥の保定方法について実習する。		
7	チンチラの形態・生理・飼育・疾病について理解する。	22	ハリネズミの生態・生理・飼育・疾病について理解する。		
8	爬虫類の分類について理解する。 カメの飼育・疾病について理解する。	23	ミニブタの生態・飼育について理解する。		
9	グリーンイグアナの基礎知識・疾病について理解する。	24	ミニブタの疾病について理解する。 デグーの生態・生理について理解する。		
10	ウサギの形態・生理について理解する。	25	デグーの疾病について理解する。		
11	ウサギの飼育について理解する。	26	フクロモモンガの形態・生理について理解する。		
12	ウサギの疾病について理解する。	27	フクロモモンガの疾病について理解する。		
13	前期学習の動物の重要事項を復習する。	28	後期学習の動物の重要事項を復習する。		
14	前期学習内容の総括を行う。 ウサギの食餌管理について理解する。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	ウサギの保定・強制給餌 ウサギの重要事項のまとめ	30	ウサギ・フェレットの疾病、手術等について理解する。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト④（ファームプレス）				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。ただし、筆記試験の点数が50～59点の場合は出席率80%以上であれば60点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物医療科		
開講科目名	産業動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Commercial Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。				
授業の概要・目的	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。				
到達目標	家畜の種類と特徴について知る。主要家畜(馬、牛、綿羊、山羊、豚、鶏)の飼養管理法について知る。日本の畜産業の実際について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	産業動物の獣医学上の位置付けについて知る。	16			
2	動物の身体について復習を行う。	17			
3	牛の解剖と生理について理解する。	18			
4	牛の主な疾患について理解する。	19			
5	豚の解剖と生理について理解する。	20			
6	豚の主な疾患について理解する。	21			
7	馬の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	22			
8	綿羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	23			
9	山羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	24			
10	鶏の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	25			
11	魚類、ジビエなどについて理解する。	26			
12	栄養学としての産業動物について理解する。	27			
13	中毒について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物医療科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Open Campus	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		関連法規		開講学科	動物医療科		
開講科目名		動物医療関連法規		開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名		Veterinary Laws and Regulations		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
認定動物看護師試験の範囲について学ぶと共に、動物看護師及び飼い主としても人や動物と向き合う上で必要な法律について学ぶ。							
到達目標							
・狂犬病予防法や動物愛護法、獣医師法などの各種法律の概要について理解できるようになる。 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み			16	動物愛護法(4)動物虐待の定義、罰則		
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要、狂犬病清浄国について			17	動物愛護法(5)周辺の生活環境の保全など		
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など口			18	動物愛護法(6)動物取扱業の概要 その1口		
4	狂犬病予防法(3) 対象動物、輸入禁止動物など口			19	動物愛護法(7)動物取扱業の概要 その2口		
5	狂犬病予防法(4) 飼い主と行政の義務、罰則など口			20	動物愛護法(8)動物取扱業の概要 その3口		
6	獣医師法(1) 獣医師法の概要、飼育動物の範囲			21	ペットフード安全法(1) 法の概要、ペットフードの範囲		
7	獣医師法(2) 獣医師の義務と権利 無診察診療の禁止など			22	ペットフード安全法(2) 表示義務など		
8	獣医師法(3) 獣医師の届出義務、罰則など			23	愛玩動物看護師法(1) 法の概要		
9	獣医療法(1) 獣医療法の概要、開院時の届出など			24	愛玩動物看護師法(2) 愛玩動物看護師の役割など		
10	獣医療法(2)獣医療分野における広告規制など			25	身体障害者補助犬法、家畜伝染病予防法		
11	動物愛護法(1) 動物愛護法の制定背景、法律の概要			26	廃棄物処理法、感染症法など		
12	動物愛護法(2)目的、基本原則、動物愛護週間など			27	外来生物法、ワシントン条約、鳥獣保護法		
13	動物愛護法(3)飼い主の責務、犬猫の引取りなど			28	薬機法、民法など		
14	前期学習内容の総括			29	後期学習内容の総括		
15	前期学習内容の振り返り			30	後期学習内容の振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業中に書き留めたメモなどからノートを作成する					
教科書・テキスト		なし。					
参考書		動物看護コアテキスト① (ファームプレス)					
評価方法・基準		評価の割合は、筆記試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	健康の管理	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床栄養学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Clinical Nutrition	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
栄養(食餌)は生命維持に必要なだけでなく、健康に過ごすためにも重要なものである。また、食餌内容によって管理できる疾患も多い。現在は様々なペットフードが普及しているため、各個体の健康管理のためには食餌や栄養に関する正しい知識をもって、各個体、状態に合ったフードを選択しなければならない。動物医療に携わる者として、食餌を選択する飼育者に正しい指導ができる必要がある。本授業では栄養素やペットフードに関する基礎知識、疾患と食餌の関係について習得、理解することを目的とする。					
到達目標					
飼い主に食餌の選び方、与え方を説明できるようになる。各個体に食餌が合っているか評価ができるようになる。疾患に対する食餌療法について飼い主に説明、アドバイスができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	栄養の役割とバランスについて 動物(主に犬猫)の食性について	16	体格のチェックと体重管理 肥満		
2	消化・吸収・排泄物について 腸内細菌について	17	消化器疾患と食餌		
3	栄養素の分類 栄養素各論1(ビタミン及びミネラル)	18	食物アレルギーと食餌		
4	栄養素各論2(炭水化物)	19	皮膚疾患、糖尿病と食餌		
5	栄養素各論3(タンパク質・脂質)	20	下部尿路疾患と食餌		
6	栄養素各論4(水) エネルギー量の計算	21	慢性腎臓病と食餌		
7	ライフステージ別の食餌管理(成長期 維持期 高齢期)	22	心疾患、肝疾患と食餌		
8	ライフステージ別の食餌管理(避妊去勢手術との関係 妊娠) 様々な給餌法	23	その他の疾患と食餌(癌 甲状腺 痴呆 関節疾患)		
9	ペットフードとは(製造法、分類、工夫 など)	24	症例検討(様々な状態、状況における飼い主へのアドバイス)		
10	ペットフードの表示を読み解く	25	強制給餌 経口以外の栄養補給法		
11	ペットフードの選択方法	26	食べてはいけないもの、注意が必要なもの サプリメント		
12	嗜好性をあげる方法 フードの切り替え方法 飼い主へのアドバイス	27	手作り食について		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	配布資料、授業内容を自身でまとめる(レポートとしての提出あり) 授業内容の復習(小テストでの確認)				
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布				
参考書	動物栄養学 日本動物看護職教会認定試験教本 (Inter Zoo) / 小動物の臨床栄養学 (Mark Morris Institute) / 基本からよくわかる犬と猫の栄養管理 (Inter Zoo) その他講義内で適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験、レポート提出、出席率、授業態度を合わせて評価。最高100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物外科看護学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Surgery Nursing	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	犬や猫の幼齢期・高齢期特有の健康管理や看護方法を理解・熟知することは、動物看護師が獣医療の場面で獣医師をサポートしながら、動物のライフステージに合わせた入院中の環境作り・食事管理・精神的なケア・飼い主へのアドバイスを行う上で不可欠なものである。幼齢期では身体的・精神的な著しい成長が見られるが、その中でも新生仔期の哺育技術や、成長期の社会化に合わせた対応方法を学ぶことは、幼齢動物が健全に成長し看護を行うために重要な知識となる。また、高齢期では長寿化・高齢化の影響から起こる疾患に合わせた看護や介護、終末期のケアを、高齢動物や飼い主が体力的・精神的に負担を減らしながら行うことができるよう介助するための知識や技術が必要となる。動物病院での診察補助・入院管理・飼い主の在宅看護の場面で、幼齢・高齢動物の特徴に合わせた看護の知識・技術を理解する。				
到達目標	犬や猫の生涯のうち幼齢期と老齢期という対極にあるライフステージの基本知識を学び、動物病院での診察補助・動物の取り扱い・入院管理・飼い主とのコミュニケーションに応用する。幼齢期・高齢期特有の注意すべき病態やケア方法を学び、動物の異常に気づくための知識を習得する。入院管理や在宅看護に生かす高齢期の看護・介護の仕方や終末期のサポート方法を理解する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	犬や猫の出生から看取りまでの一連のライフステージを理解する。	16	高齢犬・猫が抱える痛みとケアについて理解する。		
2	犬と猫の幼齢期の特徴に合わせた体の取り扱い・健康チェックの仕方・衛生管理を理解する。	17	高齢犬の心臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
3	犬の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・技術を理解・習得する。	18	高齢犬・高齢猫の腎臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
4	子犬期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方を理解し、実践する。	19	高齢犬・高齢猫の腫瘍疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
5	猫の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・哺育技術を理解・習得する。	20	高齢犬・猫の介護が必要な体の状態・疾患・障害を説明できる。		
6	子猫期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方(離乳食)を理解し、実践する。	21	高齢犬・猫の認知機能不全症候群の症状や進行を抑えるための対策を説明できる。		
7	幼齢犬・幼齢猫によくある病態・疾患を理解し、受け入れから入院管理まで理解する。	22	高齢犬・猫の食事内容の特徴を理解し、食事の介助方法を実践できる。介護に役立つグッズの活用方法を理解する。(犬4)		
8	犬と猫の老化(体の変化)について学び、老化によって起こる日常生活の変化を説明できるようになる。	23	高齢犬・猫の介護方法(歩行・排泄の介助)と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。(犬4)		
9	高齢犬・猫の体の取り扱い方や、整えるべき基本的な飼育環境・入院環境について理解する。	24	寝たきりの高齢犬・猫の介護方法と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。		
10	高齢犬・猫の老化する体に合わせた入院中のお手入れ方法・健康管理・健康チェックの仕方を理解する。	25	幼齢動物・高齢動物のエマージェンシーや急変が起こりやすい場面と看護について理解する。		
11	高齢犬・猫の予防医療とよくある病気を知り説明できるようになる。	26	犬や猫の終末期ケアと安楽死について理解する。		
12	高齢犬・猫の在宅看護が必要になるよくある疾患と看護方法を理解する。	27	犬や猫の終末期に直面した飼い主へのサポートや遺族ケアについて理解する。		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に行う理解度を深めるための小テストでの復習を行う。授業内容のメモや実習内容を振り返ってノートの作成を行う。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①～⑥ (ファームプレス)				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、授業中に行う小テスト10%、課題10%、出席率10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物感染症学	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infectio	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	代替療法(ナチュラルケア・ホリスティックケア)についての理解を深め、自分に何が出来る事、また飼主さまに提案出来る事を考え、オーナーへのサービスの一環として、説明実践出来る様な知識と技術を修得する。				
到達目標	代替療法であるペットマッサージや犬の食事・ペットアロマに対して、オーナー様への適切なアドバイスやサービスを出来る様になる。 また自身のスキルの一つとして、出来る範囲でケースに応じたナチュラルケアを活用出来る様になる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	代替療法(ナチュラルケア・ホリスティックケア)とは	16	ペットアロマ・英式と仏式の違い		
2	ペットマッサージ・西洋医学と東洋医学の違いと融合	17	ペットアロマ・体質判断		
3	ペットマッサージ・東洋医学の考え方とツボ	18	ペットアロマ・精油の選び方、取扱上の注意点		
4	ペットマッサージ・マッサージに必要な骨格、筋肉に関する知識	19	ペットアロマ・基材の種類と使い分け		
5	ペットマッサージ・効果と注意点	20	犬の食事・犬にとっての理想の食事は何か		
6	ペットマッサージ・基本手技	21	犬の食事・東洋医学的な体質判断と食材について		
7	ペットマッサージ・リンパマッサージについて	22	犬の食事・ペットフード安全法・ペットフードの表示		
8	ペットマッサージ・リンパマッサージの実践	23	犬の食事・ペットフードの表示・ペットフードの選び方		
9	ペットマッサージ・症状別ツボの活用法1	24	犬の食事・犬の栄養バランスと手作り食		
10	ペットマッサージ・症状別ツボの活用法2	25	犬の食事・手作り食の食材の特徴と選び方		
11	ペットマッサージ・年代別応用	26	犬の食事・カロリー計算・レシピを考える		
12	シニアケアについて	27	犬の食事・犬の手作り食・よくある疑問や留意点		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時書き留めるノートをもとに整理しまとめ、適宜与える課題などに備える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	授業内で適宜紹介する				
評価方法・基準	筆記試験、実技試験、出席日数率の平均値で評価する。最高100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		卒業研究		開講学科	動物医療科		
開講科目名		卒業研究		開講年度	2022	配当年次	2
				開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名		Graduation Study		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
卒業研究作成に必要な基本的なノウハウについて習得する。同時に、各自もしくは各グループのテーマの決定とそれに伴う情報収集を行う。卒業研究のレベルアップとして、実験計画法もしくは研究法といった方法論と卒業研究に必要なデータの処理についても学習する。科学性と客観性に重点を置き、レポートとは異なるあくまでも論文形式であることを強調する。ただし、内容的には動物看護の枠組みの中での実学的なわかりやすいかつ質の向上を目標にした研究・実践報告としたい。							
到達目標							
チームアプローチを目標に科学的視点から客観的に分析できる能力を身につけることを目標とする。卒業研究を通して、実践的な作業能力とデータ分析の仕方、問題意識を具体的な調査に反映するスキル、仮説演繹的思考力を高めることを目標とする。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	卒業研究レポートの位置づけとどのように研究レポートを書き進めていくかの基本的考え方について理解する。			16	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
2	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。			17	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
3	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。			18	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
4	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。			19	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
5	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。			20	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
6	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。			21	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第3回中間発表を行う。		
7	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。第1回中間発表を行う。			22	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
8	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。			23	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
9	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。			24	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第4回中間発表を行う。		
10	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。			25	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
11	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。			26	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
12	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。			27	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
13	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。第2回中間発表を行う。			28	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
14	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。			29	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
15	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。			30	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業までの1週間、研究グループ内での情報収集、予備調査・実験、本調査・実験、データの収集と分析を行う。(授業内で随時確認)					
教科書・テキスト		卒業研究論文作成マニュアル(竹花作成)					
参考書		研究テーマごとの論文					
評価方法・基準		評価の割合は卒業研究中間発表及び学科内最終発表、卒業研究制作の評価70%、授業内評価10%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	動物・入院管理	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床看護学各論	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Itemized Theory of Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	主に犬と猫によくみられる疾患についての正しい知識(疾病の概要・症状・原因・検査・治療等)を学び、それを基礎にして動物看護師として、よりよい看護計画を作成することができるようになることを目的とする				
到達目標	①主に犬猫の色々な疾患に対する正しい知識の習得を第一の目標とする。 ②疾患についての正しい知識を基礎に、それぞれの症例に合わせた最良の看護計画を作成し、それを実践できるようにする。 ③愛玩動物看護師国家試験に合格出来るレベルの知識を身に着ける				
授業計画(テーマ・内容)					
1	①1年間の授業についてのガイダンス ②循環器系の機能形態学復習	16	①泌尿器系の機能形態学復習 ②泌尿器系疾患 総論 (症状 ・ 検査などについて)		
2	循環器系疾患 総論 (症状 ・ 検査 などについて)	17	泌尿器系疾患 各論 (上部尿路 ・ 下部尿路の疾患)		
3	循環器系疾患 各論 ① (急性循環不全 ・ 僧帽弁閉鎖不全症)	18	①生殖器系の機能形態学復習 ②生殖器系疾患 総論 (症状 ・ 検査 などについて)		
4	循環器系疾患 各論 ② (心筋症 ・ F症)	19	生殖器系疾患 各論 (オスの生殖器系疾患 ・ メスの生殖器系疾患)		
5	循環器系疾患 各論 ③ (胎子循環と先天性心疾患)	20	①泌尿生殖器系疾患総括(小テスト) ②神経系の機能形態学復習		
6	①循環器系疾患総括(小テスト) ②呼吸器系の機能形態学復習	21	①神経系疾患 総論 (症状 ・ 検査などについて) ②神経系疾患 各論 ①(脳の疾患)		
7	①呼吸器系疾患 総論 (症状 ・ 検査 などについて) ②呼吸器系疾患 各論 ① (胸膜滲出 ・ 上部気道の疾患)	22	神経系疾患 各論 ② (脊髄疾患)		
8	呼吸器系疾患 各論 ② (下部気道の疾患)	23	①神経系疾患総括(小テスト) ②内分泌系の機能形態学復習 ③内分泌系疾患 総論 (症状 ・ 検査などについて)		
9	①呼吸器系疾患総括(小テスト) ②消化器系の機能形態学復習	24	内分泌系疾患 各論 ① (甲状腺 ・ 副腎の疾患)		
10	①消化器系疾患 総論 (症状 ・ 検査 などについて) ②消化器系疾患 各論 ① (口腔 ・ 食道 ・ 胃 ・ 腸管の疾患)	25	内分泌系疾患 各論 ② (下垂体 ・ 上皮正体 ・ 膵臓の疾患)		
11	消化器系疾患 各論 ② (肝臓 ・ 膵臓の疾患)	26	①内分泌系疾患総括(小テスト) ②眼球とその付属組織の機能形態学復習 ③眼科疾患 総論 (症状 ・ 検査などについて)		
12	①消化器系疾患総括(小テスト) ②運動器系の機能形態学復習	27	眼科疾患 各論 (角膜疾患 ・ 水晶体疾患 ・ 網膜疾患など)		
13	①運動器系疾患 総論 (症状 ・ 検査 などについて) ②運動器系疾患 各論 ① (骨折 ・ 関節周囲の疾患)	28	①血液・免疫系疾患 総論 (血球と免疫細胞についての復習) ②血液・免疫系疾患 各論 (貧血 ・ 自己免疫疾患など)		
14	運動器系疾患 各論 ② (靱帯の疾患 ・ 骨腫瘍 ・ 関節炎)	29	①皮膚の機能形態学復習 ②皮膚科疾患 総論 (色々な皮膚病巣について) ③皮膚科疾患 各論 (細菌性皮膚疾患 ・ アレルギー性皮膚疾患など)		
15	①運動器系疾患総括(小テスト) ②前期授業内容の総括	30	①眼科疾患・血液免疫疾患・皮膚科疾患総括(小テスト) ②後期授業内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業前に各自でテキストの内容を確認し、毎回の授業に臨むこと。またさらに授業終了後はテキストをもう一度確認して、学んだ知識の定着をすることが望ましい。				
教科書・テキスト	作成したオリジナルのテキスト(プリント)を使用する。				
参考書	イラストでみる犬の病気 (講談社) / イラストでみる猫の病気 (講談社)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験60%、授業内小テスト20%、出席率及び授業態度20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物の体の構造・機能	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物繁殖学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal(Dog)Breeding	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する。				
到達目標	繁殖に関わるしくみを理解し、正しい繁殖と新生児の管理の知識と技術を伝えることができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	繁殖とは 繁殖の際に考えるポイント	16			
2	繁殖季節と発情周期 動物の性周期	17			
3	犬と猫の生殖器とその特徴	18			
4	犬の繁殖生理① 犬の性周期について	19			
5	犬の繁殖生理② 繁殖に関わるホルモン	20			
6	犬の繁殖生理③ 交配適期と膣スメア検査	21			
7	猫の繁殖生理 猫の性周期	22			
8	交配様式と妊娠診断	23			
9	妊娠中の健康管理	24			
10	分娩と介助	25			
11	新生仔のケア	26			
12	遺伝とは① 遺伝の基礎知識	27			
13	遺伝とは② 遺伝性疾患	28			
14	遺伝とは③ 毛色遺伝子	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト(ファームプレス)				
参考書	認定動物看護師教育コアカリキュラム準拠 (エデュワードプレス)・愛玩動物看護師の教科書 (緑書房)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床検査学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Clinical Examination	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	看護を行うためには、数多くの知識と多角的な視点が必要であり、また、それらを統合し考える能力も必要となる。 本科目では様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、検査や治療に関する基本的な知識を習得・整理したうえで、罹患動物に対する検査・治療・入院それぞれの安全と安楽を守るための思考回路を確立する。				
到達目標	罹患した動物の安全・安楽を考えた看護の具体策を発案できる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	各疾病の動物看護師としての視点、アセスメント方法について理解する。	16	運動・神経機能障害(それぞれの症状の特徴)とは何か理解する。		
2	循環機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	17	運動・神経機能障害の代表的な疾患の確認を行う。検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。		
3	循環器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	18	運動・神経機能障害における看護の観察項目と具体策について考える。		
4	循環器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	19	リハビリテーションの目的・種類・効果について理解する。		
5	循環器疾患の動物の看護目標と観察項目について学ぶ。	20	排泄機能障害とは何か、多飲多尿を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。		
6	循環器疾患の看護の具体策について考える。	21	多飲多尿の動物に対する看護の具体策について考える。		
7	呼吸機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	22	下痢・便秘を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。		
8	呼吸器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	23	下痢・便秘の動物に対する看護の具体策について考える。		
9	呼吸器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	24	繁殖機能障害とは何か理解する。繁殖に関する基礎知識の確認を行う。		
10	呼吸器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	25	潜在精巣・前立腺肥大・子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の疾病機序・治療について理解する。		
11	消化機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	26	子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の看護について理解する。		
12	消化器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	27	胆がん動物における看護の留意点について理解する。		
13	消化器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	28	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の疾病機序・治療について理解する。		
14	消化器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	29	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の看護の具体策について考える。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	前回の授業の予告に伴い、1年次に学習した内容から関連個所の予習を行う。 授業終了後には自信を持って説明できない箇所に関して、次回に質問ができるようにノートをまとめる。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥(ファームプレス)				
参考書	臨床動物看護学 各論(インターズー)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率10%、積極性20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物医療科		
開講科目名	実験動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Experimental Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。				
到達目標	実験動物の基礎について知る。実験動物の制御(コントロール)と疾患モデル動物について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	実験動物とは何か(1)を理解する。	16			
2	実験動物とは何か(2)を理解する。	17			
3	実験動物とは何か(3)を理解する。	18			
4	小動物とは何かを理解する。	19			
5	小動物の主な種類について理解する。	20			
6	小動物の特徴について理解する。	21			
7	中動物とは何かを理解する。	22			
8	中動物の主な種類について理解する。	23			
9	中動物の特徴について理解する。	24			
10	大動物とは何かを理解する。	25			
11	大動物の主な種類について理解する。	26			
12	大動物の特徴について理解する。	27			
13	SPFなど特別な飼育法について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物・入院管理	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物臨床看護学総論	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Integrated Animal Clinical Nursing	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	コミュニケーション能力を上げ、受付でのオーナー様対応を実践形式で学び習得し、働きやすい人間関係を構築できるようになる。また、衛生管理や顧客管理についても学ぶ。				
到達目標	院内でのスムーズなコミュニケーションと、明るく落ち着いたオーナー様対応ができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物病院の現場、動物看護師の働きについて把握する。院内コミュニケーションの重要性とチーム医療について理解する。	16	待ち時間に対するクレーム対応を習得する。		
2	身だしなみについて学ぶ。衛生管理①(感染とは何か、院内清掃について)を理解する。	17	診療費に対するクレーム対応を習得する。		
3	衛生管理②(洗浄、消毒、滅菌、手洗いについて)を理解する。	18	治療や看護対応へのクレーム対応を習得する。		
4	受付業務、カルテ(顧客)管理について理解する。	19	受付・電話対応(接客)へのクレーム対応を習得する。		
5	受付(来院時:初診、再診、予防、病気、吠える犬、大型犬、猫)の対応を習得する。(ロールプレイング)	20	入院看護記録の必要性和書き方について理解し、習得する。		
6	受付(会計時:ワクチン接種、予防(ノミ、ダニ、フィラリア)後、薬の説明)を習得する。(ロールプレイング)	21	入院患者の面会対応を習得する。		
7	電話対応①フード・薬の注文、予防についての問合せ、業者対応を習得する。(ロールプレイング)	22	慢性疾患に対してのグリーフケアを習得する。		
8	電話対応②病気、手術(避妊、去勢、その他疾患)の問合せについて習得する。(ロールプレイング)	23	術後または麻酔下検査後状態悪化した場合のグリーフケアを習得する。		
9	ワクチン接種時、消化器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	24	癌患者に対してのグリーフケアを習得する。		
10	泌尿器疾患、皮膚疾患(皮膚・耳)についての問診を習得する。(ロールプレイング)	25	急死、突然死に対してのグリーフケアを習得する。		
11	神経疾患、眼科疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	26	犬猫の避妊去勢のメリット・デメリットについて飼主様へ説明できるようになる。		
12	整形疾患、口腔疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	27	犬猫のワクチン接種についての説明、ワクチン接種後の注意事項の説明をスムーズにできるようになる。		
13	循環器疾患、呼吸器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	28	ノミ・ダニ予防を飼主様へ推奨し、スポットタイプの予防薬については使用方法の指導ができるようになる。		
14	疾患を予測しながらの問診を練習し、実際に行う現場での問診を習得する。	29	フィラリア予防について分かりやすく説明できるようになる。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑤ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は口頭試問50%、出席率25%、授業態度25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		ドッグトレーニング		開講学科		ペットビジネス科		
開講科目名		家庭犬トレーニング		開講年度		2022	配当年次	1
開講科目英名		Home Dog Training		開講期間		通年	必選区分	必修
				授業形態		講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名								
実務経験概要		K9クラブ愛媛3年勤務、K9クラブ大阪11年勤務						
授業の概要・目的		K9クラブ大阪のトレーニングに基づいて、服従訓練の基礎を学ぶ。 観察眼を養うことで、動物の気持ちや体調の変化にいち早く気付くスキルを身に付ける。 オーストラリア式の訓練方法で指示は英語。色でクラス分けをし、各クラスで規定の課題があり、テストに合格したら昇格する。 青組のテストを合格すると、修了書を授与する。 上のクラスになるにつれ課題の難易度がアップし、課題数が増える。 白: ヒール、シット、コントロール、シットステイ ピンク: 白の課題+スタンド 黄色: ピンクの課題+ダウン、イグザミネーション、スタンドステイ、ダウンステイ 青: 黄色の課題+フィニッシュ、リコール、ウィービング 赤: 青の課題の精度アップ、オフリード						
到達目標		赤組になることが目標。犬のレベルに関わらず初めて教えるにはどうするかを学ぶ。 赤組になったらオフリードの訓練を始める。 担当犬の性格や素質を考慮しながらトレーニングを進めていく技術を身に付ける。						
授業計画(テーマ・内容)								
1	挨拶、自己紹介、担当犬決め、犬と遊ぶ、トレーニングの説明			16	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
2	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(白の課題、テスト)			17	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
3	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(ピンクの課題、テスト)			18	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
4	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色の課題、テスト)			19	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
5	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色 & 青の課題、テスト)			20	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
6	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(黄色 & 青の課題、テスト)			21	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
7	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)			22	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
8	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)			23	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
9	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青の課題、テスト)			24	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
10	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			25	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
11	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			26	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
12	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			27	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
13	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			28	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
14	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			29	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			
15	K9クラブ大阪のトレーニングの課題(青 & 赤の課題、テスト)			30	1年間の振り返り、総まとめ、表彰			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。						
教科書・テキスト		なし						
参考書		WHO's THE BOSS? ワンちゃん、君のボスは誰？						
評価方法・基準		出席率、授業態度、トレーニング技術等授業中の様子や態度を主に評価する 加藤、竹田でそれぞれ採点をし、二人の合計点数の平均値を点数とする						
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。						

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	グルーミング演習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	theory og grooming	開講期間	通年	必選区分	選択必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	ノースウェルチャコにてトリマーとして勤務 ドッグショー業界でも活躍				
授業の概要・目的					
トリマーになるための基礎知識をつける。犬種ごとのトリミングを理解する理論と実習を関連付ける。					
到達目標					
犬種に合わせたグルーミングでの対応ができるようになる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	導入教育グルーミングの各作業の内容	16	ブードルのスタイルティディバカットの理解		
2	骨格のしくみと犬の取り扱い クリッピングの必要性	17	ブードルの顔バリエーション		
3	ドールでの犬のブラッシング基礎の取得	18	長毛種のはさみで仕上げるショートカット		
4	中短毛、長毛種犬の足の形づくりを理解する	19	グルーミングドールでのリボン付け		
5	ポメラニアンのベーシックカットについて理解する	20	リボンづくり		
6	長毛種の顔のカット・ヨーキーの耳バリカンを理解する	21	グルーミングドールでのりぼんづけ		
7	ポメラニアンをくまさん風にするサマーカットを理解	22	ポメラニアンを柴犬風・ライオンカットの理解		
8	ドールのブラッシング	23	ブードルのフラット・コンプレックスパターンを理解		
9	ブードルのスタンダードを理解する	24	2体目のドールブラッシング最終仕上げ 1体目カット仕上げ		
10	クリッパーによるサマーカットを理解する	25	イラストでのブードルスタンダードに基づいた形作り		
11	ブードルのスタイルケネルクリップを理解する	26	ドールコンテストに向けてのケネルの復習		
12	B級検定筆記試験にむけての対策	27	ドールコンテストに向けての復習仕上げ		
13	B級実技の模擬練習として1人1頭ベーシック	28	ドールコンテスト		
14	前期のまとめ 筆記試験	29	B級実技試験 1人1頭 110分ベーシック		
15	前期学習内容の総括を行う	30	筆記テスト 1年間の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える				
教科書・テキスト	グルーミング理論テキスト・プリント				
参考書	なし。				
評価方法・基準	試験と出席日数に基づく				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	猫学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンキャット	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Companion Cat	開講期間	通年	必選区分	選択必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的					
伴侶動物の中でも主に猫に関して、歴史や品種、飼育管理法、動物の生態について学ぶ。					
到達目標					
猫の飼い主に、解りやすく正しい知識を伝えるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	コミュニケーションとは？を理解する。正しい挨拶・自己紹介が出来るようになる。	16			
2	基本的対話スキル「話す」の重要性を理解する。	17			
3	基本的対話スキル「聴く」の重要性を理解する。	18			
4	グループでの会話の基本と心がけを学ぶ。自己表現の仕方を学ぶ。	19			
5	ビジネスにおける表現技術「交渉」について学ぶ。	20			
6	ビジネスにおける表現技術「説得」について学ぶ。	21			
7	アンガーマネジメント「怒りの感情」について理解する。	22			
8	社会的スキル「挨拶・敬語・電話応対」について学ぶ。	23			
9	社会的スキル「接客・訪問・謝罪」について学ぶ。	24			
10	ビジネス文書「手紙・メール」が作成できるようになる。	25			
11	サービスの心得、サービスの基本要素について理解する。	26			
12	サービス環境、プロセスについて考え理解する。	27			
13	接客ロールプレイング。サービスをする側、される側それぞれの立場を理解し、行動できるようになる。	28			
14	コミュニケーションの必要性やサービスマインドについての総括。	29			
15	前期学習内容の振り返り。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	CFA公認猫種スタンダード訳本				
参考書	「猫の教科書」				
評価方法・基準	筆記試験・課題提出物・出席率にて総合評価。最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルケア	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	食餌と栄養	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Diet and Nutrition for Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	獣医学科を卒業ののち、複数の動物病院にて臨床獣医師として、犬猫の一般診療に従事 現在はリハビリテーションや生活指導を中心として小動物臨床に関わる				
授業の概要・目的					
伴侶動物(ペット)が健康に過ごすために、食餌の管理は欠かせない大事な要素である。様々な種類のペットフードの他、手作り食など選択肢が多くあり、どれを選択するべきか迷うことも多い。各個体にあった食餌を選び、健康を管理していくためにはフードおよび栄養、疾患との関連などの知識が必要となる。本講義では犬および猫の食事管理のための栄養学的な基礎知識を理解し、適切な食餌の選択、管理方法、簡単な身体検査による体の状態を知る方法などについて学ぶ					
到達目標					
身体検査やチェックにより動物の健康状態を推察できる。また各々の健康状態、ライフステージにあった食餌とはどのようなものかを理解し、適切なアドバイスをすることができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	栄養とは 犬および猫の食性と栄養バランス	16			
2	6大栄養素について	17			
3	動物における消化と吸収の仕組み 腸内細菌について	18			
4	身体検査とチェックポイント(BCS 便のチェック など)	19			
5	動物のライフステージ と 必要な栄養	20			
6	ペットフードと手作り食の違い	21			
7	犬および猫に与えてはいけない食材	22			
8	ペットフードの分類(形態 機能) と 表示	23			
9	必要カロリー、給餌量の決定方法 給餌方法とフードの切り替え方	24			
10	動物における肥満と減量	25			
11	食物アレルギーとは 食物アレルギーにおける食餌管理	26			
12	食事管理ができる疾患(糖尿病 尿石症 腎臓・肝臓・心臓 疾患 等)	27			
13	まとめ	28			
14	学習内容の総括	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	適宜 レポート、まとめなどの課題を与える ノートなどを元に内容を復習する(適宜確認を行う)				
教科書・テキスト	なし				
参考書	適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度、提出物の合計点で最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	警察犬トレーニング I	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Police Dog Training I	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	警察犬訓練所で5年実務経験を積んだのち家庭犬訓練士、警察犬訓練士の資格を取得。 独立開業し警察犬訓練所を11年運営し現在も警察犬訓練士として活動中				
授業の概要・目的					

犬は体のサイズのバラエティーがとても豊富で活発な大型犬と小型犬では必要なスキルが大きく違う。トレーナーに限らず、トリマーや、動物看護師など犬の仕事に就く際に大型犬に触れる機会が多い。体重が2～3キロ程度の小型犬では容易にコントロールできることが体重が40キロ～50キロの大型犬では難易度が跳ね上がる。そのため将来犬の仕事に就く為には大型犬に慣れていることが求められる。また警察犬の訓練は犬の本能を利用しているため他の仕事に従事している犬や一般家庭犬にも通じるトレーニング理論が存在する。本開講科目では警察犬訓練所に在籍している主に訓練済みの大型犬を使用し、そのコントロールを習得する。講義では警察犬の特殊な能力はどのような本能や習性、心理から得ることが出来るのか理解する。具体的な訓練方法を理解する。

到達目標			
------	--	--	--

警察犬訓練所に在籍している訓練済みの大型犬を使用しコントロールを取れるようになる。犬の本能、心理、習性について記述できるようになる。具体的な訓練方法を説明できるようになる。

授業計画(テーマ・内容)			
1	警察犬種について理解する/訓練道具の使用方法を理解する	16	しつけと訓練の関係を理解する/リードの有無でのコントロールの違いを理解する
2	犬の性格タイプについて理解する/リードを正しく持てるようになる	17	トイレトレーニングを説明できるようになる/クランクコースを脚側行進でできるようになる
3	本能について理解する/停座させれるようになる	18	ボディコントロールを説明できるようになる/リード無しの停座ができるようになる
4	心理について理解する/伏臥させれるようになる	19	ハウストレーニングについて説明できるようになる/リード無し停座で待たすことができるようになる
5	犬体各部の名称を理解する/立止させれるようになる	20	吠え声のコントロールを説明できるようになる/リード無しで脚側行進ができるようになる
6	骨の名称を理解する/停座で待たすことができるようになる	21	リーダーウォークを説明できるようになる/指示された行動を犬に取らすことができるようになる
7	歯の働きについて理解する/伏臥で待たせることができるようになる	22	集中力とモチベーションの関係を理解する/声符のかけ方を理解する
8	犬の成長について理解する/脚側停座が出来るようになる	23	停座の教え方を説明できるようになる/誘惑にかからずに犬をコントロールできるようになる
9	社会化期と訓練期を理解する/アイコンタクトが取れるようになる	24	伏臥の教え方を説明できるようになる/褒めと叱りの関係を理解する
10	血統書について理解する/招呼ができるようになる	25	立止の教え方を説明できるようになる/正しく褒めれるようになる
11	優性遺伝と劣性遺伝について理解する/モチベーションの効果的な使い方を理解する	26	脚側停座、行進の教え方を説明できるようになる/正しく叱れるようになる
12	ワクチンと社会化の関係を理解する/脚側行進で歩けるようになる	27	物品持来の教え方を説明できるようになる/高い表現力を求められるようになる
13	犬の繁殖について理解する/訓練中の感情表現について理解する	28	障害飛越の教え方を説明できるようになる/緊張感のある中で行えるようになる
14	前期内容のまとめ	29	後期内容のまとめ
15	前期内容の振り返り	30	後期内容の振り返り

授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業内で質問を予告し、次の授業で答えさせる
教科書・テキスト	無し
参考書	無し
評価方法・基準	筆記試験33%実技試験33%出席率33%で評価する。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	飼育飼養管理	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	犬の飼育飼養管理	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Breeding Management of Dog	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	犬のトレーニング施設アニマルファンシアーズクラブ(AFC)で4年半トレーニングについて学び、独立。14年間、家庭犬しつけインストラクターとして基本的なしつけ、アジリティ、フリースタイルや訪問レッスンなどを行う。				
授業の概要・目的					
犬を扱う上で環境整備や健康管理、観察力を身に付けることは必須					
到達目標					
健康チェックやお手入れをする意味を理解し、一人で一頭を仕上げるレベルになること。また犬を管理するリスクマネジメントをプロと同じ目線で行えるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業に必要な物品、トイレの作り方、クレーとの掃除の仕方などを覚える。	16	一人でお手入れをする。①ブラッシング		
2	カラーの付け方、調整方法、リードの持ち方を理解する。	17	一人でお手入れをする。②歯磨き		
3	クレートから犬を出し入れする時に気を付ける事、ハンドリングを理解する。	18	一人でお手入れをする。③目の周りのお手入れ		
4	犬のサインを理解する(カーミングシグナル、ボディランゲージ、鼻先管理)	19	一人でお手入れをする。④爪切り		
5	トレーニング道具を知る(トリーツ、ハーネス、ジェントル、知育玩具、おもちゃ、ビターアップルなど) 犬を飼うということ、距離感を理解する。	20	簡単なハンドリングを実践する。①ヒーリング		
6	犬の触り方、アプローチ方法を理解する。お手入れにおける犬の身体のしくみについて理解する。	21	簡単なハンドリングを実践する。②誘導を使った動き(トリック)		
7	お手入れを嫌がらない犬にするためにするべきことを理解する。(身体のどこでも触れるようになる。抱っこ)	22	簡単なハンドリングを実践する。③動きながらトリックを入れる		
8	お手入れ道具について知る。お手入れの必要性を」理解する。	23	アジリティ①ジャンプの教え方の理解し、実践する。		
9	ブラッシング方法を理解する。	24	アジリティ②連続ジャンプ		
10	歯磨き方法を理解する。	25	アジリティ③トンネルの教え方の理解し、実践する。		
11	ブラッシング、歯磨き方法をより深く学ぶ。	26	アジリティ④カーブトンネル		
12	目と目の周りのお手入れについて理解する。	27	アジリティ⑤ジャンプとトンネルの組み合わせ		
13	耳のお手入れについて理解する。	28	アジリティ⑥ジャンプとトンネルの組み合わせ		
14	爪切り方法の理解。(爪切りまでの導入)	29	アジリティ⑦シーケンス		
15	爪切り方法の理解。(爪切りまでの導入)	30	アジリティ⑧シーケンス		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は実技試験60%、出席率40%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	補助犬トレーニングⅠ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Assistance Dog TrainingⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的					
身体障害者補助犬をとりまく環境、介助犬がどのような役割をになっているのか基本的な知識を習得する。トレーニングにおいては「犬」という生き物を理解していくうえで基本となる人間の理解とは異なること、犬の物事も理解の仕方、関係の持ち方を体験する。					
到達目標					
犬にモノというモチベーターというもの、罰を用いずに犬との関係を持つことを目指すことで犬のトレーニングの積み上げ方の難しさを経験し、「ほめ」のタイミングを習得する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業について	16	後期担当犬決め		
2	介助犬デモンストレーション	17	課題きめ 介助動作 フードも使用可能		
3	道具の使い方について	18	訓練計画をたてる		
4	犬をさわってみよう 前週学習した内容の実技	19	訓練計画にもとづき訓練 フードの選び方		
5	担当犬決め 自分が第一印象で決めてみる	20	訓練計画にもとづき訓練 フードの使い方		
6	自分たちで犬をだしてみよう ハウスの出し入れ、カラーサイズ合わせ	21	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について①		
7	課題きめ 前期残り6コマで何が教えられるか考えてみる、計画	22	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について②		
8	犬をふりむかせてみよう 犬の興味の取り方 フードは使わず	23	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 意識して		
9	ほめてみよう フードを使わずに犬に喜びを伝えてみる	24	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 無意識に		
10	コマンドを与えてみよう 犬の興味を引きコマンドをさせてみる。ほめる	25	訓練計画にもとづき訓練 介助犬として到達点の理解		
11	計画を振り返り、再考	26	訓練計画にもとづき訓練 計画再考し訓練の取捨選択		
12	課題トレーニング①	27	訓練計画にもとづき訓練 訓練		
13	課題トレーニング②	28	訓練計画にもとづき訓練 後期復習		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	振り返り	30	年間振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	事前に訓練課題を明らかにしてくる 事後は訓練の見直し 用意する訓練シートに必ず記入する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率45%通常点10%実技テスト45%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	陽性強化	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Dog Training	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	38年石田イヌネコ病院にて動物看護師・家庭犬インストラクターを行う				
授業の概要・目的					
人と動物(犬)との絆を大切に考え、動物福祉を考えた家庭犬のしつけ方を伝える					
到達目標					
社会人としての大切なご挨拶、人前で話すことを含め、トレーニングの知識を身に付ける					
授業計画(テーマ・内容)					
1	陽性強化とは、実技グループ分け、自己紹介	16	トレーニングタイプ、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
2	犬とはなにか？リードとカラーの説明、強化子、アイコンタクト(体をさわる・ほめ方)	17	4つのD、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
3	ボディランゲージ、ハンドマグネット、ハンドターゲット	18	Yes、ほめ言葉、アツ、指示語(手にフードなし)、シット、ダウン、ヒール、OK		
4	犬のストレス、おいで	19	シェパード(人、犬)、クリッカー		
5	犬との生活、おすわり→OK	20	トリック		
6	ハンドシグナル、ふせ→OK(指示語)	21	遠隔トレーニング		
7	散歩を楽しく、一緒に歩く	22	家庭犬マナーチャレンジ(JAHA)		
8	イスを使用してアジリティ	23	優良家庭犬テスト		
9	ヒールポジション	24	優良家庭犬テスト		
10	ケージトレーニング(お留守番トレーニング)、立って	25	フリースタイル		
11	トイレトレーニング、ごほうびの後出し	26	パピークラス		
12	マットトレーニング、ごほうびの後出し	27	フリースタイルorトリック発表		
13	前期実技まとめ予習	28	後期実技まとめ予習		
14	前期実技まとめ	29	後期実技まとめ		
15	前期振り返り復習	30	後期振り返り復習		
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	テリー先生				
参考書					
評価方法・基準	実技100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	基礎獣医	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Basic Veterinary Medicine	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	45(3)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。また現在、往診専用クリニックの設立準備中。				
授業の概要・目的	犬の身体を解剖学・生物学的に理解し、また主な疾患の知識を得ることによって安心・安全なトレーニングに臨めるようにする。また必須とされる予防や基本的な症状への対応法を覚えること。				
到達目標	獣医内科・外科ほか各科疾患はもとより病原性微生物(感染症)や食餌、また現場で絡む関連法規に至るまでの知識を持つことにより、飼い主様からの信頼が高まるようになること。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスと身体について(マクロ視)	16	頭蓋と眼科		
2	身体について(ミクロ視)	17	耳鼻咽喉科		
3	狂犬病	18	歯牙科		
4	病原性微生物ならびに混合ワクチンについて	19	呼吸器科		
5	薬学について、病理学について	20	泌尿器科		
6	栄養学とフード、サプリメントについて	21	皮膚科		
7	寄生虫総論と血液検査	22	皮膚科		
8	画像検査	23	生殖器科		
9	消化器科	24	泌尿器科		
10	消化器科	25	整形外科		
11	循環器科	26	神経科		
12	循環器科	27	乳腺腫瘍、ヘルニアなど		
13	情報伝達(神経、内分泌、サイトカイン)	28	東洋医学、処方食など		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	全期振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	イラストでみる犬の病気(講談社)				
評価方法・基準	評価は筆記試験100%(最高100)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	キャットグルーミング演習	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Cat Grooming	開講期間	通年	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的	犬と違う猫のグルーミングを学ぶ				
到達目標	犬と猫のグルーミングの違い、保定、飼い主とのコミュニケーションを習得する				
授業計画(テーマ・内容)					
1	猫のシャンプーの流れを細かく説明する	16	1名で1頭をグルーミング(縫れの取り方)		
2	学校の猫をモデルグルーミングする	17	1名で1頭をグルーミング(縫れの取り方)		
3	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)①	18	1名で1頭をグルーミング(尾の脂の取り方)		
4	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)②	19	1名で1頭をグルーミング(尾の脂の取り方)		
5	2名で1頭をグルーミング(爪切り・耳掃除のチェック)③	20	1名で1頭をグルーミング(重曹の使い方)		
6	2名で1頭をグルーミング(ゲープの使い方)	21	1名で1頭をグルーミング(重曹の使い方)		
7	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)①	22	1名で2頭をグルーミング(爪の間の脂分の取り方)		
8	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)②	23	1名で2頭をグルーミング(爪の間の脂分の取り方)		
9	1名で1頭をグルーミング(泡の状態を手の感覚で感じるようになる)③	24	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)①		
10	1名で1頭をグルーミング(濯ぎの状態を目・手で感じるようになる)①	25	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)②		
11	1名で1頭をグルーミング(濯ぎの状態を目・手で感じるようになる)②	26	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)③		
12	1名で1頭をグルーミング(保定)①	27	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)④		
13	1名で1頭をグルーミング(保定)②	28	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)⑤		
14	1名で1頭をグルーミング(ノート提出)①	29	講師のチェックなしで最後まで仕上げる		
15	1名で1頭をグルーミング・総括・振り返り	30	総括・振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業ノートまとめの提出				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	授業の評価は課題試験の成績、出席点、復習問題実施提出などを含む平常点で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	トリミング演習Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of GroomingⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	150(10)
講師名					
実務経験概要	専門学校卒業後、ペットショップでトリマーとして勤務。 平成25年～ 関西で数多く出店する大型ペットショップにトリマーとして勤務。現在に至る。				
授業の概要・目的					
飼い主様の要望に応えつつ、短時間でグルーミングができるようになることを目標に技術、犬のコントロール、心構え、知識を身に付ける					
到達目標					
ECOグルーミング検定A級合格 就職時に必要な犬種のトリミング技術を身に付ける					
授業計画(テーマ・内容)					
1	技術レベルの確認。二人で1頭仕上げる	16	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる①		
2	業界研修に向けてベーシック強化	17	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる②		
3	業界研修に向けてベーシック強化と時間短縮	18	A級検定合格に向けて、120分でカットを仕上げる③		
4	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる①	19	一人で1頭2コマ半で仕上げる		
5	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる②	20	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ①		
6	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる③	21	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ②		
7	A級検定合格に向けて、ベーシックを90分で仕上げる④	22	A級検定合格に向けて、さらなるスピードアップ③		
8	ミニチュアシュナウザーのモデルグルーミング	23	A級検定		
9	様々な犬種のトリミング技術を覚える①	24	就職に向けて効率アップと時間時間①		
10	様々な犬種のトリミング技術を覚える②	25	ビションフリーゼのモデルグルーミング		
11	様々な犬種のトリミング技術を覚える③	26	就職に向けて効率アップと時間時間②		
12	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける①	27	就職へ向けて各技術をより短時間でこなせるようになる③		
13	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける②	28	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す①		
14	総括・授業内評価・スピード、手際、コントロール意欲	29	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す②		
15	様々な犬種のトリミング技術を身に付ける③	30	短時間でのグルーミングと仕上がりの美しさを目指す③		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモをもとに、グルーミングノートを作成する				
教科書・テキスト	JESCグルーミングテキスト				
参考書	JKC全犬種標準書				
評価方法・基準	授業内評価 出席率、技術、手際、学習意欲、授業への取り組み方、提出物、授業準備や掃除などで評価。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	家庭犬インストラクター	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	JAHA家庭犬しつけ方インストラクター 犬のしつけ方教室、犬の幼稚園POP DOG代表				
授業の概要・目的					
褒めてしつけるトレーニング方法によって基本的なしつけを学ぶ。					
到達目標					
「JAHA」家庭犬マナーチャレンジテストを通して飼い主と愛犬がともに幸せに暮らしていくことを学ぶ。					
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	オリエンテーション	16	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 診察台		
3・4	マナーチャレンジテストについて	17	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 歯のお手入れ		
5・6	マナーチャレンジテスト家庭内マナー ブラッシング	18	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 健康チェック		
7・8	マナーチャレンジテスト家庭内マナー 足拭き	19	マナーチャレンジテストの実技		
9・10	マナーチャレンジテスト家庭内マナー おいで	20	マナーチャレンジテストの実技		
11・12	マナーチャレンジテスト家庭内マナー 足下でのふせ・まて	21	マナーチャレンジテストの実技		
13・14	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 他犬とのすれ違い	22	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
15・16	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 扉の出入り	23	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
17・18	マナーチャレンジテストお散歩のマナー 他の人とのあいさつ	24	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
19・20	マナーチャレンジテストお散歩のマナー リードをたるませでの散歩	25	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
21・22	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー ハウス	26	マナーチャレンジテスト発表会の練習		
23・24	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー 飼い主に集中	27	マナーチャレンジテスト		
25・26	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー おすわり・まて	28	発表会練習		
27・28	マナーチャレンジテスト旅行・おでかけのマナー 社会化	29	発表会練習		
29・30	マナーチャレンジテスト動物病院マナー 犬を預ける	30	発表会		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	毎回飼い主さまへのノートをコピーして提出				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	授業内評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	介助犬トレーニング	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Service Dog Training	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。 JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的					
介助犬を中心に身体障害者補助犬についてのトレーニングをまなぶ。一般のトレーニングとことなり、社会において法の下で活動をする犬の社会的責任を理解し、その責任を全うできる犬をトレーニングするスキルと知識を身に着ける。					
到達目標					
介助犬をトレーニングするうえで、使用者の障害や環境に合わせたその人に必要な項目を見出し、その項目のトレーニング計画を自ら立てることができる					
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	道具などの準備物授業内容について	31・32	介助犬デモストレーションを見て動作ポイントを知る		
3・4	年間通しての担当犬決め	33・34	介助動作1項目を選び、計画を立てる		
5・6	担当犬の性質・課題の見極め	35・36	計画を立てた通り担当犬でためす		
7・8	課題に対してのトレーニング計画	37・38	トレーニング計画再考		
9・10	講師指導の下、トレーニング計画見直し	39・40	課題のゴールを理解する/車いすで基本トレーニング		
11・12	基本トレーニング（座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼）計画の下行ってみる①	41・42	課題を犬の視点で考える/車いすで基本トレーニング		
13・14	基本トレーニング（座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼）計画の下行ってみる①	43・44	動作をおしえるための「ほめ」のポイント/車いすで基本トレーニング		
15・16	トレーニング計画再考	45・46	トレーニングのステップアップの仕方について/車いすで基本トレーニング		
17・18	座れ、、、1視符1声符で行う	47・48	犬の自信のつけ方について/車いすで基本トレーニング		
19・20	伏せ、、、上記に同じ	49・50	動作確認/車いすで基本トレーニング		
21・22	まで、、、伏せ、座れ各々10分以上キープ	51・52	通年課題を車いすでおこなう		
23・24	脚側歩行、常歩で直進できる	53・54	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ内容考察		
25・26	上記4項目復習	55・56	引継ぎりハーサル		
27・28	前期まとめ	57・58	後期まとめ		
29・30	前期の振り返り	59・60	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	毎回のトレーニング計画の振り返り、計画のたてなおし、課題を明らかにして授業にのぞむ				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率40％通常点40％実技20％				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		IT		開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名		コンピュータ演習 I		開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名		Practice of Computer I		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
現在はICTの時代といわれ、通信技術を活用したコミュニケーションの発展は非常に目覚しく、多くの企業・職業分野だけではなく、一般家庭においても利用することが当たり前となっている。このような状況の中で、ICTを活用する能力を習得することの重要性は年々高くなっており、社会に出る前に習得していることが望ましい。本開講科目では、Word/Excelの基礎的な操作方法、さらに、インターネットを利用する上でのモラルやマナーを身につけ、学生生活だけでなく社会に出て必要とされる情報活用能力を修得する。							
到達目標							
インターネット/SNSのメリットデメリットを理解し、適切に利用できるようになる。 Wordを活用して、ビジネス文書や表現力のある文書が作成できるようになる。 Excelを活用して、関数やグラフを使った資料が作成できるようになる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	インターネットガイダンス インターネットを利用する上での注意点、COMポータルの使い方、理解度テスト			16	Excel Excelの基本操作		
2	Word Wordの基本操作			17	Excel 数式の作成		
3	Word 文書の編集			18	Excel 表の編集		
4	Word 表現力のある文書作成			19	Excel グラフ作成		
5	Word 図形の応用			20	Excel 印刷		
6	Word 表の作成			21	Excel さまざまな練習問題に取り組む		
7	Word さまざまな練習問題に取り組む			22	Excel課題作成 習得した機能を使って課題を作成する		
8	Word課題作成 習得した機能を使って課題を作成する			23	Excel ワークシートの操作		
9	Word Wordの便利な機能			24	Excel いろいろな関数		
10	Word SmartArtグラフィック			25	Excel データベース機能		
11	Word 文書をサポートする機能			26	Excel Excelの便利な機能		
12	Word その他の機能			27	Excel Excelの活用		
13	Word さまざまな練習問題に取り組む			28	Excel さまざまな練習問題に取り組む		
14	Word課題作成 前期に習得した機能を使って課題を作成する			29	Excel課題作成 後期に習得した機能を使って課題を作成する		
15	前期学習内容の総括を行う			30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適宜指示					
教科書・テキスト		Word2019/Excel2019(滋慶出版)					
参考書		なし					
評価方法・基準		評価の割合は、実技課題60%、出席点30%、平常点10%とし、最高評価点数を100とする。					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Open Campus	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
毎年1回開催される学園祭を通じ、企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。					
到達目標					
イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Sports Festa	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の準備等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。					
到達目標					
スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につなげるように記録を残す	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	エコ教養Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Human StudyⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	将来や学校生活においての目標を明確にし、目指す職業に就くための人間力を養い、社会で通用する社会人基礎力を身に着ける。学校生活をスムーズに送るための人間関係構築、スケジュール管理、業界への理解を深めるため、イベントの準備から運営、グループワークを通してのディスカッションやコミュニケーション能力の向上、制作の創意工夫や自ら考える力をつける。業界で最低限必要な犬の知識を学ぶ。				
到達目標	学生自ら、(時間・スケジュール管理、健康管理、計画性など)あらゆる面において自己管理ができるようになる。クラスでの活動やイベントの取り組みを通して、人間関係を学び、精神的な成長を育んだり協調性を知り、社会で対応できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	学校のルール、スケジュール説明、自己紹介、キャリアサポートアンケート	16	後期スケジュール確認、前期成績について		
2	特別講義①イベントについて	17	学園祭について① 話し合い、決めごと		
3	イベント参加	18	コミュニケーション技法 コンセンサスゲーム、グループワーク		
4	イベント参加の振り返り 犬種クイズ①	19	学園祭について② 話し合い、決めごと、制作物		
5	世界環境DAY、SDGsについて考える。	20	コミュニケーション技法② コンセンサスゲーム、グループワーク		
6	スポーツフェスタについて① 話し合い、決めごと	21	特別講義④災害救助犬		
7	スポーツフェスタについて② 話し合い、決めごと、制作物	22	コミュニケーションスキルアップ検定		
8	校外実習について	23	ホスピタリティコーディネーター養成講座②		
9	試験・補習・単位取得についてのガイダンス 犬種クイズ②	24	We are ECO① 概要説明		
10	特別講義②グレイグ・マレー氏	25	We are ECO② 話し合い、決めごと		
11	特別講義③アニマルセラピー	26	We are ECO③ 準備・練習、今年1年を振り返って		
12	ホスピタリティコーディネーター養成講座① 犬種クイズ③	27	We are ECO④ 準備・練習		
13	ホスピタリティコーディネーター養成講座② 犬種クイズ④	28	ホスピタリティコーディネーター養成講座③		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	後期振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜レポート・課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	ホスピタリティコーディネーター教本				
評価方法・基準	出席率90%、提出物・イベント出席含む授業態度10%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コミュニケーションスキル	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Communication Skills	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	コミュニケーションスキルアップ検定合格に照準をおき、ブレ社会人として恥ずかしくない態度・考え方・行動ができるようにします。 まず、コミュニケーションの大切さを認識し、① 自分の存在を認めてもらう ② 相手とのコミュニケーションの第一歩をスムーズにできるようにしていきます。また、サービスマインドを通して、相手(顧客)の立場を考えたサービスを学習し、社会に出て職業人になることを視野に入れステップアップし職業人として、表現力が問われる「伝える仕事」をこなせるように、自己表現スキルも学びます。就職に向けて社会人になるにあたっての意識の向上を図ります。社会が求める人材を認識し、基本姿勢を体感を通しての学びとし、効果的なコミュニケーションの方法を体系的に理解します。				
到達目標					
サービスマインドを通して、相手(顧客)の立場を考えたサービスを学習します。また、社会に出て職業人になることを視野に入れステップアップします。職業人として、表現力が問われる「伝える仕事」をこなせるように、自己表現スキルも学びます。就職に向けて社会人になるにあたっての意識の向上を図ります。また、社会が求める人材を認識し、基本姿勢を体感を通しての学びとします。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション・3章 社会的ルールの適用について。また、自己表現ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える	16	5章 サービスマインドとは？を学ぶ 3章 自己表現 人間関係を円滑にする表現技術＝伝達の大切さを改めて学ぶ		
2	2章 基本的対話 グループの大切さ・課題の仕方を学ぶ	17	3章 自己表現 人間関係を円滑にする表現技術＝上手な頼み方・上手な断り方を学ぶ		
3	1章コミュニケーションの定義2章基本的対話スキルとは何かを学ぶ	18	3章 自己表現＝自己主張の大切さを学ぶ		
4	4章社会的スキル 社会的スキルとは？言葉遣い(敬語の使い方)実際の言葉遣いにふれ、正しい言葉遣いを学ぶ	19	3章自己表現＝仕事の上で必要とされる表現技術・プレゼンテーションの基本を学ぶ		
5	4章社会的スキル 言葉遣いテスト／間違いやすい表現／クッション言葉・コミュニケーションを円滑にするための手法を学ぶ	20	3章自己表現＝「交渉」「説得」→アプローチの方法・アンガーマネジメントを学ぶ		
6	4章社会的スキル (前回の続きスピーチ)言葉で伝える＝伝達の大切さを学ぶ	21	問題に親しみ、コミュニケーションスキルアップ検定合格への繋ぎにする		
7	4章社会的スキル 言語的表現の中でのいろいろなCASE＝伝達＝電話対応の基本・対応の基本を学ぶ	22	キャリアプランを考える＝自己分析ワークをしながら、ポイントの整理と自分について考える		
8	4章社会的スキル 文書作成 基本的なフォーム・メール・ファックスの効用・文書を学ぶ ～その1	23	自己分析ワークをしながら、ポイントの整理と自己PRに書き方を学ぶ		
9	4章社会的スキル ITリテラシー～実際のインターネット使用上の注意点をシートで学ぶ	24	自己分析・自己理解＝自分自身について考える		
10	5章サービスマインド CSIについて＝CASE問題を解きながら実際のコミュニケーションを学ぶ	25	ブレ社会人としてマナーを身につける Case study 場面別ことば遣い①		
11	5章サービスマインド サービスマインドとは？サービスの基本について学ぶ	26	ブレ社会人としてマナーを身につけるCase study 場面別ことば遣い②		
12	3章 自己表現 授業開始時の振り返り、ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える事を学ぶ ～ その1	27	ブレ社会人としてマナーを身につける 慶弔①		
13	3章 自己表現 授業開始時の振り返り学び、ワークを通してクラス全員と交流する。自分らしさを表現し相手に伝える事を学ぶ ～その2	28	ブレ社会人としてマナーを身につける 慶弔②		
14	まとめ 対策・解説を行う＝前期学習の学びを確認する	29	まとめ 対策・解説 後期学習内容の総括を行う＝1年間の学びを確認をする		
15	前期学習内容の総括を行い後期に繋げる	30	年間学習内容の総括を行い、2年生次の学びに繋げる		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業の中でのワークシート・課題の完成により、各自学習のまとめをする				
教科書・テキスト	コミュニケーションスキルアップ検定(滋慶教育科学研究所)・Life Style(株式会社慈慶教育事業部出版)				
参考書	入社1年目ビジネスマナーの教科書				
評価方法・基準	評価の割合・筆記試験70%＋平常点20%＋課題点10%＝最高評価点数100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ドッグビジネス I	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Dog Bussiness I	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	犬のプロとして大切なことは、犬の知識および技術を持つことだけではなく、時にはその知識や技術を正しく飼い主に伝える必要がある。とくにトレーナーはインストラクターとしての能力も必要とされ、このスキルを身に付けていないと誤った指導により飼い主と愛犬の暮らしを悪い方向に導いてしまうこともある。 この授業では、自身の持つ知識や技術を正しく伝えさらに飼い主と愛犬の関係をよくするスキルを、「ドッグスポーツ「エクストリーム」の体験イベントの製作と進行を通じて身に付けることを目的とする。				
到達目標	飼い主に対して分かりやすく正確に、感じよくドッグトレーニングを指導できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業の目的を案内。イベント日の発表。 エクストリームのプロモーション動画視聴・インストラクターの動画視聴。	16			
2	インストラクターとしての注意点。呼吸法。話し方。言葉選び。	17			
3	エクストリームの練習方法の解説。	18			
4	チーム決め。チームごとの役割分担決め。ブログ①執筆。	19			
5	担当機材の台本を仕上げる。ブログ②執筆。	20			
6	台本を持った状態で一度機材の前で実践し、台本を修正) ブログ③執筆。	21			
7	インストラクターの立稽古(立ち姿、ジェスチャーなどの確認) ブログ④執筆。	22			
8	インストラクターの立稽古(障害物ごと。台本を極力見ずに) ブログ⑤執筆。	23			
9	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑥執筆。	24			
10	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑦執筆。	25			
11	最終チェック(仕上げ) ブログ⑧執筆。	26			
12	イベント本番	27			
13	イベント本番	28			
14	イベント本番	29			
15	イベント本番	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	基礎点50点、イベント本番の完成度をグループごとに30点満点で採点(欠席0点)。 提出物未提出は減点。各々の準備や当日の積極性により最大20点の加点あり。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	犬学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンドッグ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Companion Dog	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	本講義については犬については約2万年前から人と人の密接な関係を続けてきた。その犬の性質を深く知る必要がある、講義では犬の問題行動の種類、犬の扱い方、繁殖の方法と犬の育て方、犬の関係で起きるトラブルの解決方法、犬の行動心理を詳しく知識を深め、犬の関係のトラブルの問題、法律解決方法、また犬種200種を学び、その個別の特性や特徴、成り立ちなどを知識を深める。講義の中では犬の観察力を高めるために鉛筆画デッサンの講義も行う。				
到達目標	犬と言う動物をしっかりと知り理解する、犬種は200以上の暗記、その為に犬種カードを作成する。犬の基本的な扱い方をしっかりとマスターする。デッサンについては最低一枚は犬のデッサンを完成させる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義の概要と講義の到達目標などの理解を深める。	16	犬の長命と人と犬との比較などを詳しく理解を深める。		
2	犬が行う仕事の種類、犬と人との歴史について深く知る。	17	犬種第6(大きな声と優れた嗅覚の猟犬)について深く知る。		
3	血統書の詳しい味方その役割、その問題点についても深く学ぶ。デッサンの方法と観察する意味の理解を深める。	18	新たに犬を飼う人へのアドバイスを詳しく学ぶ。		
4	問題駆動の種類を深く知る 種類が多いため二回に分けて詳しく理解を深める。	19	犬種第7(獲物を探し出しその位置を正確に示す)について深く知る。		
5	犬種第一G(家畜の群れを誘導・保護する犬)について深く知る。問題行動の種類を深く知る。	20	飼い主と非飼い主の違いはどこにあるのか、違いを理解し知識を深める。		
6	犬のトラブルについて法律的な知識を深める、多方面に渡すために二回に分けて講義を行う。	21	犬種第8(鳥類猟犬)について深く知る。		
7	犬種第2G(番犬、警護、作業犬)について深く知る。犬のトラブルについて法律的な知識を深める。	22	ペットロスは大きな問題の一つである。飼い主の心に寄り添えるためにはどうしたらよいのかそれらをしっかりと共有し理解を深める。		
8	犬の繁殖について ①繁殖の方法論について詳しく知識を深める。	23	犬種第9(家庭犬、愛玩犬)について深く知る。		
9	犬種第3G(穴の中に住む小動物を狩る猟犬)について深く知る。犬の繁殖について②母犬の管理について詳しく知識を深める。	24	犬のトレーニングの原理原則を学びトレーニングの本質にも理解する。		
10	犬の繁殖について ③子犬の育て方と訓育の方法論について詳しく知識を深める。	25	犬種第10G(優れた視覚と獲物を追跡する犬)について深く知る。		
11	犬種第4G(地面に穴に住む動物を狩る猟犬)について深く知る。犬と近い狼について詳しく知識を深める。	26	犬の行動心理を三回に分けて行う。①行動の基本的な役割、条件付けの基本などの知識を深める。		
12	犬の体調管理と健康管理についてその方法論を詳しく知り理解を深める。	27	犬の行動心理を学ぶ。 ②弁別と生得成について詳しく学ぶ。		
13	犬種第5G(日本犬を含む原始的な犬)について深く知る。	28	犬の行動心理を学ぶ。 ③学習の基本的な考え方を詳しく学ぶ。		
14	犬種第1G～第5Gまでの統括を行う。	29	犬種第6G～第10		
15	前期学習内容の統括を行う。	30	後期学習の統括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	犬種カードは講義内では作成することは難しい、犬種の個別の解説を行い宿題としてカード作りの課題を出す。				
教科書・テキスト	とくになし				
参考書	犬種スタンダード図鑑				
評価方法・基準	講義後レポートを提出、評価は提出レポートと期末テスト内レポートで評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	進級研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	進級研究	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Promotion Study	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	1年間かけて修得した技術や知識の集大成として進級研究に取り組み進級制作展で発表する。				
到達目標	1年間の学習成果をパワーポイントやポスターなどを用いて説明できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1・2	進級研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16			
3・4	進級研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17			
5・6	進級研究の進め方 テーマの決定、発表までの流れやスケジュールリングの確認	18			
7・8	発表内容の制作と練習①	19			
9・10	発表内容の制作と練習②	20			
11・12	発表内容の制作と練習③	21			
13・14	発表内容の制作と練習④	22			
15・16	発表内容の制作と練習⑤	23			
17・18	卒業進級制作展リハーサル・準備	24			
19・20	卒業進級制作展リハーサル	25			
21・22	卒業進級制作展参加	26			
23・24	卒業進級制作展参加	27			
25・26	卒業進級制作展参加	28			
27・28	卒業進級制作展参加	29			
29・30	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜レポート・課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		IT	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	パワーポイント		開講年度	2022	配当年次	2
			開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Power Point		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的		ネットワークを介した様々なコミュニケーションツールが普及し、便利に利用され身近な存在となっているが、反面、トラブルも多発している。安全な利用をするために、情報モラルの意識を高め、ビジネススキルで必要とされるアプリケーションソフトウェアの操作を習得し、作業の効率化を図りITスキルの向上、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。 ・Microsoft Office Power Point では、図表などの各特長を理解し、研究成果のプレゼンテーションを行い自己表現力を身につける。 ・学生間で話し合いグループワークを行うことによりディスカッション能力を高める。				
到達目標		・情報を取捨選択しネットワーク活用技術能力を修得することを目指す。 ・Microsoft Office Power Pointの操作技術を修得し研究成果の資料作成と発表を行うと共にプレゼンテーション技法に加え表現力を身につけることを目標とする。				
授業計画(テーマ・内容)						
1	ネットワーク情報に関する法律や規制などの概要について理解する。		16	プレゼンテーションの目的に応じ、データ収集、構成をまとめ、入念な準備を行うことを理解する。		
2	Power Pointの基本操作とプレゼンテーションを理解する。		17	プレゼンテーションの結論を先か後にするかの戦略を練り、ポイントを絞り視覚的に理解できる表現を目指すことができるようになる。		
3	図形・イラスト・写真の挿入し、表現力のあるプレゼンテーション作成を行うことができるようになる。		18	リハーサルの実施、時間配分、質疑応答の回答方法や対策を行い、不安点を解決し、言葉づかいなどプレゼンテーションテクニックを身につけることができるようになる。		
4	表を効率よく作成し、スライド内の情報を効果的に区切ることができるようになる。		19	リハーサルによる反省点を踏まえ、話しのスピード、非単語である無意味な発声、表情などプレゼンテーションチェックの評価をすることができるようになる。		
5	グラフを挿入し、グラフと表のリンクを理解し、構成要素を変更を行い、視覚的に表現できるようになる。		20	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディーランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
6	スライドマスタを利用し、プレゼンテーション全体のデザインを一括して管理できることを理解する。 特殊効果の設定		21	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディーランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
7	プレゼンテーションの目的を明確にし、伝達事項について、要点を正確に考察する。		22	プレゼンテーションの実践により、マナー、姿勢、視線などボディーランゲージの要素を理解し、発表者の心得や話し方を身につけることができるようになる。発表者のフィードバックを行い、客観的なアドバイスができるようになる。		
8	データの収集と分析を行い、図表などを適切に使用し訴求力のあるプレゼンテーションを作成することができるようになる。		23	プレゼンテーションの実践により、聴衆者のフィードバックを確認し、構成の見直し、修正を行い、理解を深めることができる。		
9	Smart Art グラフィックを活用し文字列を図式化することによりデザイン性のあるプレゼンテーションを作成することができるようになる。		24	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
10	図形描画(オートシェイプ)など特殊効果を追加し、インパクトのあるプレゼンテーション作成を行い構成を整えることができる。		25	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
11	印刷配布の資料を作成し発表の準備を行い、リハーサルを実行し、時間配分の調整を行うことができるようになる。		26	研究内容をまとめたノートを基に、指定のファイルサイズにオリジナルレポートを作成する。後期試験に該当する。		
12	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。		27	研究内容をノートにまとめ、情報の整理、レイアウト、配色を考え、図表などの視覚により効果的であることを理解する。		
13	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。		28	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
14	学習した内容による発表とフィードバック、実技試験に該当する。		29	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
15	前期学習内容の総括を行う。		30	アプリケーションソフトウェア全般の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業内容の各節目で適宜課題を実施し定着を図る。				
教科書・テキスト		COMPUTER BASIC for windows POWER POINT 2019				
参考書						
評価方法・基準		評価の割合は実技試験70%、出席率(受講態度含む)20%、課題10%で最高評価点数を100とする。				
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	IT	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	パワーポイント	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	PowerPoint	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。					
到達目標					
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。また、職場において業務を効率化するためのITリーダーとなり、助言を出来るようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	PowerPoint① プレゼンテーションの概要を知る。基本操作が出来るようになる。	16	卒業研究① 卒業研究内容についてのレビュー 研究内容について、把握し、他に向けて説明が出来るようになる。		
2	PowerPoint② スライドへの図形・イラスト・写真の挿入が出来るようになる。	17	卒業研究② 卒業研究内容についてのレビュー 研究内容について、把握し、他に向けて説明が出来るようになる。		
3	PowerPoint③ スライドへの表やグラフ、Smartアートの挿入が出来るようになる。	18	卒業研究③ 卒業研究発表に向けての準備のため、データの集計方法などについて理解する。Excelのピボットテーブルを体感し、使えるようになる。		
4	PowerPoint④ スライドへアニメーション/画面切り替えなどの特殊効果を設定出来るようになる。	19	卒業研究④ 卒業研究発表に向けての準備のため、PowerPointと他のアプリケーション(WordやExcel)との連携方法を学び、出来るようになる。		
5	PowerPoint⑤ プレゼンテーションの実行方法を身に付け、発表者としてのスキルアップにつなげる。また、発表者用資料の作成方法を知る。	20	卒業研究⑤ 卒業研究発表に向けての準備のため、プレゼンテーションの種類・実施の流れ・方法や注意点を再度学習し、出来るようになる。		
6	PowerPoint⑥ 効率の良いスライドの追加方法や共通の変更の設定が出来るようなる。	21	卒業研究⑥ 卒業研究発表に向けて、データの収集や分担などを明確にし、各メンバーが、協力し、一つのプロジェクト達成へ向けて動けるようになる。		
7	PowerPoint⑦ メールの使用方法。課題1の作成とメールでの提出が出来るようになる。	22	卒業研究⑦ 卒業研究発表に向けて、スライド内容や発表内容について、お互いの意見を校閲機能を使って、効率よく話し合う事が出来るようになる。		
8	PowerPoint⑧ 課題1の作成とPowerPoint利用の 迷子犬・猫のポスター 作製に取り組み、PowerPointのスライドだけではない利用が出来るようになる。	23	卒業研究⑧ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
9	PowerPoint⑨ 課題2作成のため、デザインシートの作成が出来るようになる。	24	卒業研究⑨ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
10	PowerPoint⑩ 課題2作成のため、情報収集方法と著作権について学び、適切に情報収集が出来るようになる。	25	卒業研究⑩ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
11	PowerPoint⑪ 課題2作成と発表 発表者以外は、他の発表者への 評価シート を作成する。	26	卒業研究⑪ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
12	PowerPoint⑫ 課題2作成と発表 発表者以外は、他の発表者への評価シートを作成する。	27	卒業研究⑫ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
13	PowerPoint⑬ 発表後の他の評価を参考に、課題2を修正し、再度発表する。 発表者以外は、再度評価シートに追記する。	28	卒業研究⑬ グループでの発表練習を、実施し、プレゼンテーションを体感し、出来るようになる。		
14	PowerPoint⑭ 発表後の他の評価を参考に、課題2を修正し、再度発表する。 発表者以外は、再度評価シートに追記する。	29	卒業研究⑭ 卒業研究発表のレポートを作成・提出する。また、卒業研究に取り組むことにより、学んだことを作文にして提出する。		
15	PowerPoint⑮ WordへExportする方法を学び、出来るようになる。その Exportファイル を提出する。	30	卒業研究⑮ 卒業研究発表のレポートを作成・提出する。また、卒業研究に取り組むことにより、学んだことを作文にして提出する。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜、課題を与える。評価基準に含める。				
教科書・テキスト	PowerPoint2019テキスト(貸出)				
参考書					
評価方法・基準	・出席評価 20% ・提出物 70% ・取り組み 10%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修選択
開講科目英名	Open Campus	授業形態	演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	年間約100日開催されるオープンキャンパスの学生スタッフして、来校者への接客・接遇を通じてホスピタリティを学び社会人として必要な顧客創造を身につける				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修選択
開講科目英名	Sports Festa	授業形態	演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の準備等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。					
到達目標					
スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につなげるように記録を残す	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	エコ教養Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Human StudyⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	目標を明確にし、目指す職業に就きそこで活躍するための人間力、社会人基礎力にさらに磨きをかける。学校生活をスムーズに送るための人間関係構築、スケジュール管理、業界への理解を深めるため、イベントの準備から運営、グループワークを通してのディスカッションやコミュニケーション能力の向上、ホスピタリティを学ぶ。制作の創意工夫や自ら考える力をつけ、自主的に行動するくせを付ける。				
到達目標	学生自ら、(時間・スケジュール管理、健康管理、計画性など)あらゆる面において自己管理ができるようになる。クラスでの活動やイベントの取り組みを通して、人間関係を学び、精神的な成長を育んだり協調性を知り、社会で対応できるようになる。指示通り動くだけでなく、自ら先を見越して積極的に行動できるようになる。他人に対して、相手の立場に立ち思いやりを持った言動がとれる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	クラスオリエンテーション スケジュールリング(就職 等)	16	後期スケジュール確認、卒業制作について		
2	仕事(経営・利益・顧客満足)をする意義を知る	17	社会人基礎力を学ぶ①(チームワーク力)役割を理解し貢献する		
3	イベント企画(グループワーク)	18	学園祭準備①		
4	イベント企画(プレゼンテーション)	19	学園祭準備②		
5	イベント企画・実践に向けて	20	学園祭準備③		
6	アニマルコーディネーター練習問題①	21	社会人基礎力を学ぶ②(働きかけ力)仲間の協力を得る		
7	アニマルコーディネーター練習問題②	22	社会人基礎力を学ぶ③(発想力)ひらめき、柔らかく頭		
8	アニマルコーディネーター模擬試験	23	卒業研究発表会準備 方向性、発表内容確認		
9	スポーツフェスタ役割決め、出場種目等打ち合わせ	24	卒業研究発表会準備 内容確認①		
10	アニマルコーディネーター検定	25	卒業研究発表会準備 内容確認②		
11	卒業研究①取り組みの説明、グループ決め	26	卒業研究発表会準備 発表練習①		
12	卒業研究②グループでテーマ検討	27	卒業研究発表会準備 発表練習②		
13	卒業研究③研究の進め方、スケジュール提出	28	卒業後の心得① 社会人としての基礎		
14	前期まとめ	29	卒業後の心得② 業界における自分自身の役割		
15	前期振り返り	30	総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中や、事後学習として適宜課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率80%、提出物・イベント参加レポート20%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	プレゼンテーション	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	手話・点字	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Sign Language & Braille	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	聴覚障害者、視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである「手話」「点字」の基本的な使い方、表現を習得し、補助犬ユーザーになりうる視覚障がい者・聴覚障がい者に寄り添える人材を目指す。 聴覚障害者、視覚障害者の生活上の困難な面やそれぞれの歴史についても学ぶ。				
到達目標	・手話であいさつ、自己紹介、簡単な会話ができるようになる ・点字を理解し、少しでも読み書きできるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	点字 基本修得① 点字の基本を習得する。点字で50音書きができるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	16			
2	点字 基本修得② 点字で濁点・特殊音など書けるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	17			
3	点字 基本修得③ 点字で数字・ローマ字が書けるようになる。 盲導犬ユーザーの手引き	18			
4	点字 高度を取得する お店のメニューを点字で打つ。 盲導犬ユーザーの手引き	19			
5	点字 高度を取得する カラオケの歌詞を点字で打つ。 盲導犬ユーザーの手引き	20			
6	点字 高度を取得する 点字で自分の名刺を作る。 盲導犬ユーザーの手引き	21			
7	点字まとめ	22			
8	手話 自己紹介をしてみる。 名前の表し方・色々な名前の表現をしる。	23			
9	手話 あいさつの覚える。あいさつと家族の表し方を理解する。	24			
10	手話 数字や時間の表現を覚える。 数の表し方・誕生日や時間の表し方を理解する。	25			
11	手話 趣味のことを話そう。趣味を工夫して表現してみる。	26			
12	手話 行きたい場所の表現を覚えよう。 都道府県、出身地の表し方を理解する。	27			
13	手話 自己紹介のまとめ 手話表現力の確認。	28			
14	手話 自分の名前や出身地、趣味の表し方を理解し、 クラスメイトの前で発表する。	29			
15	手話まとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中や、事後学習として適宜課題を与える				
教科書・テキスト	今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ドッグビジネスⅡ	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Dog BussinessⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	犬のプロとして大切なことは、犬の知識および技術を持つことだけではなく、時にはその知識や技術を正しく飼い主に伝える必要がある。とくにトレーナーはインストラクターとしての能力も必要とされ、このスキルを身に付けていないと誤った指導により飼い主と愛犬の暮らしを悪い方向に導いてしまうこともある。 この授業では、自身の持つ知識や技術を正しく伝えさらに飼い主と愛犬の関係をよくするスキルを、「ドッグスポーツ「エクストリーム」の体験イベントの製作と進行を通じて身に付けることを目的とする。				
到達目標	飼い主に対して分かりやすく正確に、感じよくドッグトレーニングを指導できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業の目的を案内。イベント日の発表。 エクストリームのプロモーション動画視聴・インストラクターの動画視聴。	16			
2	インストラクターとしての注意点。呼吸法。話し方。言葉選び。	17			
3	エクストリームの練習方法の解説。	18			
4	チーム決め。チームごとの役割分担決め。ブログ①執筆。	19			
5	担当機材の台本を仕上げる。ブログ②執筆。	20			
6	台本を持った状態で一度機材の前で実践し、台本を修正) ブログ③執筆。	21			
7	インストラクターの立稽古(立ち姿、ジェスチャーなどの確認) ブログ④執筆。	22			
8	インストラクターの立稽古(障害物ごと。台本を極力見ずに) ブログ⑤執筆。	23			
9	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑥執筆。	24			
10	インストラクターの立稽古(グループごと通しで) ブログ⑦執筆。	25			
11	最終チェック(仕上げ) ブログ⑧執筆。	26			
12	イベント本番	27			
13	イベント本番	28			
14	イベント本番	29			
15	イベント本番	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	基礎点50点、イベント本番の完成度をグループごとに30点満点で採点(欠席0点)。 提出物未提出は減点。各回の準備や当日の積極性により最大20点の加点あり。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研修	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	業界研修	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Business internship	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	卒業年度に学生が目指す業界の企業またはそれに準ずる組織・施設・個人等(以下企業という)で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標の前に、社会人とは何かを実際の現場で学ぶことを目的としている。				
到達目標	①学生の業界へのイメージと現実とのギャップを軽減させる。 ②実際の業界現場での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを学ぶ。 ③社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学ぶ。 ④自らの「キャリア」をデザインできる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション:業界研修(インターンシップ)の重要性、参加基準	16			
2	具体的に研修先を考える前に、ECO業界の業種、職種についての理解を深める	17			
3	業界研修(インターンシップ)先の選定方法について	18			
4	業界研修希望届の記入方法、提出時期と全体の流れについて	19			
5	業界研修前の心構え、コミュニケーション、SNSについて	20			
6	インターンシップにあたっての履歴書について	21			
7	業界研修先決定後の事前訪問や事前連絡について	22			
8	業界研修(実習)中における職務、気を付けるべきこと(1週目)	23			
9	業界研修(実習)中における職務、気を付けるべきこと(2週目)	24			
10	業界研修終了直前での職務や気を付けること、自己アピール	25			
11	業界研修終了後に(研修先へ)すべきこと、その意義	26			
12	2週間の振り返り。業界研修日報のまとめ。報告書の作成	27			
13	クラスでの終了報告会の準備と、報告会	28			
14	クラスでの終了報告会	29			
15	まとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜支持を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	特になし				
評価方法・基準	満点を100点とする(出席率50%、レポート課題50%)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	卒業研究	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	卒業研究	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Graduation Study	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	2年間で身に付けた技術や知識を卒業研究・論文として発表し、まとめる力を付ける 自分の考えを人に伝えるコミュニケーション力をつける				
到達目標	卒業研究発表にて自身の取り組んだ活動や学びを発表できるようになる。 2年間の学びを振り返り論文としてまとめることができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	卒業研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16			
2	卒業研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17			
3	卒業研究の進め方 発表までの流れやスケジューリングの確認	18			
4	テーマ決め① 今まで学んだ事を総括して深掘したテーマをディスカッションで探す	19			
5	テーマ決め② 過去に発表されたり、研究された事例をPCで検索する	20			
6	実践学習① 自分のテーマに沿って仮説と実証実験スタート	21			
7	実践学習② 途中経過の報告とアドバイス	22			
8	実践学習③ 前回のアドバイスを受けて改良したものの発表・報告	23			
9	実践学習④ 前回のアドバイスを受けて改良したものの発表	24			
10	まとめ 卒業研究の発表に向けてまとめ作業	25			
11	発表準備 PCのパワーポイント作成	26			
12	発表事前準備 発表リハーサル・最終チェック	27			
13	卒業研究発表	28			
14	卒業研究発表ふりかえり	29			
15	卒業研究発表についてまとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜支持を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版				
評価方法・基準	卒業研究課題の発表・論文				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋活動	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Marine Activity	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
水生生物のフィールド調査方法や実験方法について学ぶ。フィールド調査で野外に行くときは、通常授業日と振り替え土曜日に調査を行うことがある。					
到達目標					
2年時に行う卒業研究に必要な研究方法の知識や考察方法の基礎を学び、卒業研究時に必要なスキルを習得することを目標とする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	【授業概略の紹介】これから1年間に渡って学ぶ海洋活動の内容を説明。	16	【魚類種の同定法1】魚類鰭の名称と役割について説明。		
2	【河川調査法1】河川の水質調査方法について説明。	17	【魚類種の同定法2】魚類鰭の鰭式による種の同定法について説明。		
3	【河川調査法2】淀川に生息する天然記念物のイタセンバラを例として、河川の魚類調査方法について説明。	18	【魚類種の同定法3】魚類鰭の鰭式による種の同定法の続き。		
4	【河川調査法3】淀川の城北公園あるワンドにおいて、水質調査と魚類調査を実施する。	19	【魚類の外部形態1】魚類外部形態の測定項目について説明。		
5	【河川調査法4】淀川調査で調べた結果のデータをまとめ、解析を行う。	20	【魚類の外部形態2】魚類外部形態の測定項目の続き。		
6	【水質1】水質(pH・DO・NH ₄ ・NO ₂ ・NO ₃)について学び、水質の評価する方法を理解する。	21	【魚類の外部形態3】外部形態の差異から種を同定する方法について説明。		
7	【水質2】魚飼育のときに用いている濾過槽の中での水質浄化のしくみを理解する。	22	【魚類の外部形態4】外部形態の差異から種を同定する方法について説明。		
8	【水質3】濾過槽の中での水質浄化の続き。	23	【魚類の外部形態5】魚類検索図鑑を用いた魚種の検索方法について説明。		
9	【水質4】自然の河川や海での水質浄化のしくみを理解する。	24	【魚類の内部構造6】魚類の骨格について説明。		
10	【水質5】海水の塩分濃度と比重の関係を理解する。	25	【魚類の内部構造7】魚類の内蔵について説明。		
11	【水質6】海水の塩分濃度が海洋生物に及ぼす影響について理解する。	26	【魚類の年齢査定】鱗および耳石から年齢を調べる方法について説明。		
12	【磯生物調査1】磯生物の生物学的特性について説明。	27	【魚類のスケッチ1】点描画によるスケッチの方法を説明。		
13	【磯生物調査2】磯生物の調査法について説明。	28	【魚類のスケッチ2】点描画の作成		
14	【磯生物調査3】長松自然海浜にて磯生物調査を実施。	29	【魚類のスケッチ3】点描画の続き		
15	【磯生物調査4】調査したデータをまとめ、解析を行う。	30	1年間の総括授業を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	調査実習を行うときは、事前に調査場所の状況(地形・気象条件・潮汐など)を自分で調べる。調査後は、調査結果のデータをまとめるだけでなく、文献などを調べ、今まで報告された結果と自分の結果を比較し、自分の結果に対して考察を行うこと。				
教科書・テキスト	テキストなし。随時資料を配布する。				
参考書	なし				
評価方法・基準	調査した結果をまとめたレポートの提出および筆記試験を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋哺乳類 I	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Marine Mammal Science I	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	専門：比較認知心理学、行動生態学、海洋哺乳類学、アニマル・トレーニング&ケア。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、海洋生物研究所海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではハンドウイルカの言語理解能力、空間認知の研究に携わる。帰国後は沖縄海洋研究所およびあわしまマリnpark(旧淡島マリnpark)で飼育顧問、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会の国際会議などで動物の飼育・トレーニング・福祉に積極的に動物の認知能力を取り入れる啓蒙活動を推し進めている。				
授業の概要・目的					
本講義の対象種である海洋哺乳類は、日本近海にも多数生息し、水族館やホエールウォッチング、ドルフィンスイムなどでも身近な存在であり、様々な地域で重要な観光資源となっている。しかしながら、近年、野生動物の観光利用は厳しい立場に立たされつつある。また、人間活動などが原因で、過去に生息数を大きく減少したために保護を必要とする種や、絶滅してしまった種が存在する。こうした現状において、将来、水族館やホエールウォッチングの現場などを含め、野生動物と関わる職種への就職を目指す学生は、対象動物に対する知識を身につけ、一般客へそれを伝えられるようになる必要がある。本開講科目では、海洋哺乳類の分類、進化、体の構造、生理といった基礎情報に加え、生態、社会、行動、認知などについて習得する。また、保全や飼育に対する世論についても知識を深める。					
到達目標					
水族館飼育員およびウォッチングガイドなどに必要な海洋哺乳類の基礎生態を説明できるようになる。具体的には、分類、進化および水中適応について概説できるようになる。また代表的な種について、分布、食性、繁殖、成長および社会などについて解説できるようになる。生息状況が悪化した海洋哺乳類を中心に、その原因や保全について論じることができるようになる。人と鯨類の関わりの歴史や飼育などの観光利用に関する現状を説明できるとともに、それらについて自分の考えを述べることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	分類、系統、学名の概要について理解する	16	鯨類の餌と採餌生態について説明できるようになる		
2	鯨類の進化について概説できるようになる	17	鯨脚類・海牛類などの餌と摂餌生態について説明できるようになる		
3	ヒゲジラの分類について概説できるようになる	18	海洋哺乳類の生殖(生殖器、生殖腺、排卵、妊娠)について理解する		
4	ハクジラの分類について概説できるようになる	19	ハクジラの生活史と社会(ネズミイルカ科、アカボウクジラ科など)について説明できるようになる		
5	鯨脚類の進化・分類について概説できるようになる	20	ハクジラの生活史と社会(ハンドウイルカなど)について説明できるようになる		
6	海牛類の進化・分類について概説できるようになる	21	ハクジラの生活史と社会(マッコウクジラ、ゴンドウ、シャチなど)について説明できるようになる		
7	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(外部形態、各部位の役割、計測)について理解する	22	鯨脚類などの生活史と社会について説明できるようになる		
8	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(皮膚、体温調整、体色)について理解する	23	海洋哺乳類の生活史と社会の特徴を概説できるようになる		
9	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(脳、嗅覚、触覚)について理解する	24	社会的知性の概説と海洋哺乳類との関係について理解する		
10	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(眼、視覚)について理解する	25	海洋哺乳類(主にハンドウイルカ)の社会行動について概説ができるようになる		
11	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(耳、聴覚、鳴音)について理解する	26	海洋哺乳類(主にハンドウイルカ)の認知について概説ができるようになる		
12	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(コミュニケーション、エコーロケーション)について理解する	27	海洋哺乳類における化学汚染、生息数の減少と保全について自分の考えが述べられるようになる		
13	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(骨格、筋肉、遊泳)について理解する	28	捕鯨の歴史と現状について自分の考えを述べることができるようになる		
14	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(循環、呼吸器、消化器など)について理解する	29	水族館やホエールウォッチングと海洋哺乳類の関わりと将来のあり方について自分の考えが述べられるようになる		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内容を整理し覚えておく。疑問点があれば書き出し、質問する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	イルカ概論 日本近海産小型鯨類の生態と保全 粕谷俊雄 著 東海大学出版 / 鯨類学 村山 司 著 東海大学出版 / その他講義中に紹介する。				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	水生生物飼育管理Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Aquatic Animas and Plants RearingⅠ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテンツにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。				
授業の概要・目的					
淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する基礎知識・魚病に関する知識・水草育成に関する知識・魚種別で異なる飼育管理知識等を自作のテキストを用いて学習し、演習で各器具・各機材の取り扱い方法を習得し、更に飼育・レイアウトの技術向上を図る。淡水水生生物の飼育管理を行うための基礎知識及び技術の習得。様々な手法に応用できる基礎知識及び技術の習得。様々なアクシデント(病気や水質変化、飼育器具のトラブル等)に対応できる知識と技術を習得する。					
到達目標					
淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1.2	年間授業進行スケジュール:自己紹介。1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。自作テキスト資料配布。実習室の説明。	31.32	淡水魚の病気と治療:感染性の病気と非感染性の病気について。生体選択発注。		
3.4	淡水観賞魚の概要:淡水観賞魚の生息地、流通、淡水観賞魚商業養殖について。各個人水槽配布、設置。	33.34	淡水魚の病気と治療:病気の種類(ウイルス・細菌・寄生虫)について。生体導入。		
5.6	淡水観賞魚の分類:観賞用淡水魚の分類、学名について。各個人水槽水作り。	35.36	淡水魚の病気と治療:病種別治療法①。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
7.8	淡水水生生物飼育に必要な器材:水槽に関する知識(ガラス水槽)。生体選択発注。	37.38	淡水魚の病気と治療:病種別治療法②。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
9.1	淡水水生生物飼育に必要な器材水槽に関する知識(アクリル水槽)。生体導入。	39.4	淡水魚の病気と治療:薬使用時の注意点・塩の効能について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
11.12	淡水水生生物飼育に必要な器材:濾過フィルター・濾過材に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	41.42	水草の育成法:二酸化炭素(CO ₂)について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
13.14	淡水水生生物飼育に必要な器材:濾過バクテリア・底砂に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	43.44	水草の育成法:照明について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
15.16	淡水水生生物飼育に必要な器材:照明器具・保温器具に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	45.46	水草の育成法:底床・濾過フィルター・肥料について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
17.18	淡水水生生物飼育に必要な器材:その他設備、備品に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	47.48	水草の育成法:夏と冬の管理について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
19.2	水槽の設置・立ち上げ・生体導入:水槽設置時の注意点、水作り、温度合わせと水合わせ。各個人水槽管理実施、適宣説明。	49.5	藻類各種の発生原因と種類別対処法:珪藻類・糸状藻類。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
21.22	濾過フィルターの仕組みについて:水槽飼育と自然界との違いについて。各個人水槽管理実施、適宣説明。	51.52	藻類各種の発生原因と種類別対処法:ヒゲ状藻類・藍藻・アオコ。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
23.24	水質検査の必要性:pH(ピーエイチ)・NO ₂ (亜硝酸)・NH ₃ /NH ₄ ⁺ (アンモニアとアンモニウムイオン)について。各個人水槽管理実施、適宣説明。	53.54	有害な生物の駆除:巻貝やプラナリアなどの発生予防と駆除法。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
25.26	水槽メンテナンスの基本知識:コケ取り、換水、ろ材の管理について。各個人水槽管理実施、適宣説明。	55.56	水草のレイアウト:構図・水草の選択について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
27.28	水質異常時の対処法:NO ₂ 、NH ₃ 検出時の対処法、pHショック予防法。各個人水槽管理実施、適宣説明。	57.58	水草のレイアウト:植栽・トリミングについて。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
29.30	前期学習内容統括:水槽維持管理についてのまとめ。各個人水槽管理実施、適宣説明。	59.60	後期学習内容統括:水槽維持管理についてのまとめ。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	生物の飼育は日々観察することが重要です。自分の水槽は毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。				
教科書・テキスト	芦田自作テキスト				
参考書	THE AQUARIUM 3200 ATLAS (熱帯魚3200種大図鑑)				
評価方法・基準	筆記試験:試験点数の他、演習評価、出席率も評価対象とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	潜水士対策講座	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Seminar of Proffesioal Diving	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
国家資格である潜水士は、水中で仕事をするような水族館職員、イルカのトレーナー、ダイビングインストラクター、潜水士、自然の状態を調べる調査会社などでは必須の資格であります。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることが出来ません。本資格では、イメージしにくい水圧の影響や高気圧障害などを、具体的な事例や事故などを紹介しながら説明していきます。					
到達目標					
潜水士の資格取得を目指して学習します。出来る限り、1年次終了までに、本資格の取得を目指しましょう。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する。	16			
2	ボイルの法則、シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。	17			
3	アルキメデスの法則、パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する	18			
4	水中で利用するポンベに充填されている気体(酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど)の性質を理解する。	19			
5	潜水器(硬式潜水、軟式潜水)の特徴、潜水方法(トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水)などの特徴を理解する	20			
6	潜水方法(スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水)などの特徴、を理解する	21			
7	事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する	22			
8	送気系統、潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。	23			
9	スクーバや送気式潜水をするとき、どれだけ潜れるかの、予備空気槽の容量などの計算方法を理解し、問題が解けるようになる。	24			
10	循環器、呼吸器、神経系などの器官が水圧の影響を受けたとき、どのような問題があるのかを理解する。	25			
11	水圧が関係する様々な高気圧障害(減圧症、窒素酔い、副鼻腔障害、酸素中毒、一酸化炭素中毒など)を理解する	26			
12	水温が高気圧障害にどのように影響を与えるかを理解する。	27			
13	潜水に関する法律を理解する。	28			
14	本資格の実践問題を解く、分からない場合、適宜解説する	29			
15	前期学習の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	過去問をたくさん解いて問題に慣れる。授業内で配布するまとめプリントを覚える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	潜水士テキスト(中央労働災害防止協会)、潜水士 過去問・解答解説集(TAKARA license)				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点は100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物関連法規	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Laws of Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	行政書士事務所開設年月日:1998年2月16日 得意分野】:人と動物に関する法律および関連する各種許認可手続きなど				
授業の概要・目的					
野生動物や家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について解説する。					
到達目標					
・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16	ワシントン条約(1) 日本語と英語の正式名称、発効までの背景など		
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要□	17	ワシントン条約(2) レッドリストとの違い□		
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病清浄国について	18	ワシントン条約(3) 留保など □		
4	狂犬病予防法(3) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など□	19	ワシントン条約(4) 附属書1□		
5	狂犬病予防法(5) 狂犬病予防法の概要その2 対象動物、輸入禁止動物など	20	ワシントン条約(5) 附属書2、附属書3		
6	狂犬病予防法(7) 狂犬病予防法の概要その4 飼い主と行政の義務□	21	種の保存法(1) 制定の背景、法律の概要		
7	動物が亡くなった場合のルール(1)人と動物の埋葬ルールの違い□	22	種の保存法(2) 国際希少野生動植物種など		
8	動物が亡くなった場合のルール(2)化製場法について□	23	種の保存法(3) 国内希少野生動植物種、罰則など		
9	外来種と外来生物(1) 外来種と外来生物の違いなど□	24	動物愛護法(1)動物愛護法制定・改正までの経緯 その1□		
10	外来種と外来生物(2) 意図的導入と非意図的導入の実例 その1□	25	動物愛護法(3)目的・基本原則など		
11	外来種と外来生物(3) 意図的導入と非意図的導入の実例 その2□	26	動物愛護法(4)動物虐待に対する罰則 その1□		
12	外来生物法の概要(1)施行年、目的など□	27	動物愛護法(5)動物取扱業の概要 その1 □		
13	外来生物法の概要(3)特定外来生物の規制内容 その1□	28	動物愛護法(6)動物取扱業の概要 その2□		
14	外来生物法の概要(3)特定外来生物の規制内容 その2	29	動物愛護法(7)動物取扱業の概要 その3		
15	前期総括・解説 外来生物法の概要(5)未判定外来生物、罰則など	30	後期総括・解説、一年の振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからのートを作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクアエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	小型船舶免許対策講座	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Seminar of Boat Handling	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	2006年に1級小型船舶教習教員を取得後、滋賀県琵琶湖において現在まで国家試験の認定教員として携わっている。				
授業の概要・目的					
1級小型船舶免許取得は、海に関連した業界で就職率を上げるうえでも必須である。単なる資格取得にとどまらず、実際の水上においても即戦力を身に付ける。					
到達目標					
国家資格である1級小型船舶操縦士免許試験を合格できるだけの知識を習得する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	水上交通の特性 陸上交通との違い・注意事項・事故の発生状況	16			
2	小型船舶船長の心得 役割・責任・事故時の対応	17			
3	小型船舶船長の尊守事項 免許、検査、登録制度・環境への配慮	18			
4	一般海域での交通ルール 海上衝突予防法	19			
5	港内での交通ルール 港則法	20			
6	特定海域での交通ルール 海上交通安全法	21			
7	船体、設備、装備品・機関の取扱 発航前点検・基本操作	22			
8	操縦・航海の基礎 操縦の基本・海図	23			
9	航海計画・救命設備、通信設備 出航前の準備・小型船舶に搭載する救命設備	24			
10	気象・海象・荒天航法・海難事例 気象の諸要素・海難事例	25			
11	機関の保守整備・機関故障時の対応 エンジンの基本・機関故障時の対応	26			
12	海図図式1 海図の読み方	27			
13	海図図式2 海図の読み方	28			
14	小型船舶操縦士教本が理解でき、海図が読めるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	小型船舶操縦士免許学科教本Ⅰ・Ⅱ、小型船舶操縦士試験問題Ⅰ・Ⅱ、練習用海図				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価は筆記試験100%とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アニマルベーシック	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Basic Animal Study	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	農学博士、現在本校の専任講師および近畿大学農学部水産学科非常勤講師。環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO ₂ および農薬が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ラプラタ大学にてラプラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。				
授業の概要・目的					
動物を学ぶ上で、基礎となる細胞や遺伝子、体の機能を学び、次年度の学習の基礎知識を身に着ける。					
到達目標					
生物進化の概要や公衆衛生、環境問題などの現状を知り説明できる様になる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	進化と分類	16			
2	光合成と食物網	17			
3	生物学の現状1	18			
4	生物学の現状2	19			
5	血液の重要性	20			
6	バイタルサイン・免疫系	21			
7	内・外分泌系	22			
8	五大栄養素と飼料・餌料	23			
9	遺伝と繁殖	24			
10	バイオテクノロジー	25			
11	種の多様性・外来種問題 レポート課題発表	26			
12	地球環境問題1	27			
13	地球環境問題2	28			
14	標本作成 レポート提出	29			
15	レポート返却・総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	基礎生物				
参考書	なし				
評価方法・基準	レポート課題を提出することで評価する。基準は科学論文に準ずるものとし、提出期限は絶対とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Animal Health Care	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	学生時代は水産増殖学を専攻した。また大学在学中に須磨水族館でアルバイトし、魚類魚類を中心とする水族の飼育を担当した。日本動物植物専門学院勤務中に小動物の飼育指導を担当していた。				
授業の概要・目的					
様々な動物を飼育するための管理方法や、病気や予防法を学ぶ。					
到達目標					
飼育環境について考え、餌料、飼料の内容を工夫し動物の健康管理について自分の考えを論ずることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育管理の必要性	16			
2	飼料・餌料	17			
3	五大栄養素	18			
4	餌料生物	19			
5	飼料原料1 動物性原料1	20			
6	飼料原料2 動物性原料2	21			
7	飼料原料3 植物性原料1	22			
8	飼料原料4 植物性原料2	23			
9	飼料原料5 植物性原料3	24			
10	飼料原料6 添加物	25			
11	水族館の餌料	26			
12	動物園の飼料	27			
13	まとめ	28			
14	習熟度確認作業1	29			
15	習熟度確認・総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	動物の健康管理				
参考書	無し				
評価方法・基準	自筆ノート、授業中に配布した資料のみ持ち込み可の筆記試験で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Anatomy of Phisiology of Animals	授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	大学在学中に須磨水族館でアルバイト時にサマースクールにおいて魚類の解剖実習を担当した。 日本動物植物専門学院勤務中に解剖実習、標本作成実習を担当していた。				
授業の概要・目的					
犬を中心とした哺乳類の基本的な形質、形態を学ぶことにより脊椎動物の基本的形態・形質まで理解する。					
到達目標					
脊椎動物の形質を説明できる様になる。各門の違いを説明できる様になる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物分類、脊椎動物各門、種小名の違いを理解する	16			
2	外皮系	17			
3	消化器系1	18			
4	消化器系2	19			
5	レポート課題発表・作成方法指導	20			
6	泌尿器系	21			
7	呼吸器系	22			
8	生殖器系	23			
9	内分泌系	24			
10	循環器系	25			
11	感覚器系・神経系	26			
12	筋系・骨格系	27			
13	細胞1	28			
14	細胞2 レポート提出	29			
15	レポート返却・総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	イラストで見る動物の体のしくみ				
参考書	無し				
評価方法・基準	レポート課題を提出することで評価する。基準は科学論文に準ずるものとし、提出期限は絶対とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	魚類研究	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Fish Biology	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大学院では、京都大学生態学研究センターにて魚類学を学び、琵琶湖コイ科魚類の進化について研究した。魚の採集から解剖、各種分析を行った。また、葛西臨海水族園の前身となる上野動物園両生爬虫類館で飼育展示スタッフ職務経験あり(2010年～2013年)、魚類を含む水圏生物の展示や飼育のノウハウがある。2018年以降は、フリーランスとしても飼育展示も行っている。				
授業の概要・目的					
魚類は、脊椎動物の中でもっとも種数が多く3万種を超える。地球上のあらゆる水圏に存在し、生態系における役割も非常に大きい。また水産資源としても重要なことは言うまでもない。本開講項目では、魚類の分類、進化、生態および商業利用、関連法規まで学び魚類について多方面から理解する。また、魚種によっては、魚類以外の生物との種間相互作用も学ぶことで、海をはじめとする水域生態系の理解へもつなげたい。					
到達目標					
魚類の分類について、大分類とその系統関係について理解する。代表的な種については、生態はもちろん、あればヒトとの関わりについても理解し、説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物界における魚類の系統的位置について理解する。	16	硬骨魚類について～真骨類の概要～		
2	魚類のからだについて学習する。主に外部形態。	17	硬骨魚類について～真骨類、カライアシ類など～		
3	魚類のからだについて学習する。主に内部形態。	18	硬骨魚類について～真骨類、ウナギ類など～		
4	無顎類について ※以降、各分類群ごとに詳しく学習する	19	硬骨魚類について～真骨類、アロワナ類など～		
5	軟骨魚類について～概要～	20	硬骨魚類について～真骨類、ニシン類など～		
6	軟骨魚類について～サメ類～	21	硬骨魚類について～真骨類、コイ類など～		
7	軟骨魚類について～サメ類～	22	硬骨魚類について～真骨類、デンキウナギ類など～		
8	軟骨魚類について～エイ類、ギンザメ類～	23	硬骨魚類について～真骨類、サケ類など～		
9	硬骨魚類について～肉鰭類・シーラカンス～	24	硬骨魚類について～真骨類、マグロ類など～		
10	硬骨魚類について～肉鰭類・シーラカンス～	25	浅海、特に陸域との関係について。		
11	硬骨魚類について～肉鰭類・ハイギョ～	26	深海の魚類と生態系について。		
12	硬骨魚類について～肉鰭類・ハイギョ～	27	魚類の飼育展示について。		
13	硬骨魚類について～チョウザメ～	28	魚類の飼育展示について。		
14	硬骨魚類について～ガー、アミア～	29	魚類の研究方法などについて。		
15	前期のまとめ	30	後期のまとめ		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	状況に応じて、課題を求める場合あり。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は、筆記80%、出席20%で、最高評価点数を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィンエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	生物分類研究	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Biological Classification Research	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
環境関連の業界以外に水族館などの飼育施設では、どれだけ生物のことを知っているかを求められる場合が多いです。在来種を中心に、国内に生息する生物の特徴や生態について学ぶことを目的とします。					
到達目標					
まず関心がある生物以外の他の生物の知識の情報量を増やすことが大切で、身近に生息する生物に関心を持ち知識を増やすことを目標としています。また生物分類技能検定2級の出題範囲はとても広くて、出題された場合はコアな問題が多いため、2級取得に必要な基礎知識を中心に確実に理解すること					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物の進化と既知の種数、分類階級(英語表記:単数形、複数形)				
2	学名(命名の仕方、模式標本、新種記載、同名種がいる場合の対応など)				
3	ほ乳類について(ネズミ目、トガリネズミ目、翼種目)				
4	ほ乳類について(鰭脚類、鯨類、乳頭式)				
5	鳥類(身近な鳥類、各々に生息する鳥類の特徴)①				
6	昆虫類(バッタ、セミ、トンボ、チョウなど)				
7	昆虫類(その他)、クモ類				
8	ハ虫類(在来種)				
9	両生類(在来種)				
10	水生生物(軟体動物、海産無脊椎動物)				
11	魚類(淡水魚)				
12	魚類(海水魚)				
13	陸上顕花植物				
14	海草と海藻				
15	後期の総括を行う				
授業時間外学修(事前・事後学習等)	身近に生息する様々な生物の特徴(形態、生理、生態)に関心を持ちましょう				
教科書・テキスト	なし				
参考書	図鑑類(日本動物大百科:平凡社、両生類・ハ虫類図鑑:学研、日本のほ乳類:フィールドベスト図鑑など)				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		ドルフィン・エクササイズ		開講学科		動物&海洋科					
開講科目名		動物内科看護学		開講年度		2022		配当年次		1	
開講科目英名				開講期間		後期		必選区分		必修	
				授業形態		講義		時間数(単位数)		30(2)	
講師名											
実務経験概要		大阪どうぶつ夜間急病センター 非常勤									
授業の概要・目的		本講義ではまず、海獣類も含めた哺乳綱動物の体のしくみ、解剖学、生理学について取り扱う。生物学的な基礎知識を踏まえた上で、海獣類の栄養学、病理学、繁殖学の基礎というように展開していく。一方で、動物関連施設にて従事するうえで必要となる、ズーノーシスを含めた公衆衛生学的知識ならびに獣医療の基礎である薬理学や臨床検査についても触れる。さらには、人と動物の懸け橋とはどのような存在かについても学ぶ機会を設ける。 本講義の最終的な目的としては、学生が将来ドルフィントレーナーや飼育員として動物の傍で業務に就くにあたり、動物の健康管理および獣医師が医療行為を行う際のサポート役として必要とされる最低限の獣医学的知識を身につけることにある。特に内科的な検査・処置は日常的に行われ、獣医師や動物看護師以外のスタッフが関与することを求められることも少なくない。しかしそのためには「そもそも動物はいかにして生命活動を営んでいるか。」ということについても学ぶ必要がある。さらには、飼育動物の生体に関することを学ぶことで、それらの動物に対してどのように関わっていくことがこれからのトレーナーや飼育員には求められるのかについて思索を深めることも目指す。									
到達目標		動物の基本的な解剖と生理、特に神経、循環、内分泌、消化器、泌尿器について用語の修得と概要を説明できるようにする。公衆衛生学においては、注意すべきズーノーシスを優先的に覚え、その対策としての消毒薬の使い分けについて修得する。薬理学では、動物に対する作用と副反応についてそれぞれ記述できるようにする。疾病学や臨床検査については、講義科目であるため限界はあるが、その両者をからめつつ現場で応用できるようにする。また動物病院での日常的な業務を動物飼育現場に適用できることも少なくなく、それらを紹介する。									
授業計画(テーマ・内容)											
1	生物学と獣医学のあり方について理解する。			16							
2	体のしくみ①;神経系、循環器系、呼吸器系について理解する。			17							
3	体のしくみ②;消化器系、泌尿器系、生殖器系について理解する。			18							
4	栄養学総論;五大栄養素について理解する。			19							
5	栄養学各論;鯨類、鯨市類などの栄養学について理解する。			20							
6	公衆衛生学①;病原体と消毒方法について整理する。			21							
7	公衆衛生学②;ズーノーシスについて理解する。			22							
8	繁殖学;哺乳類の繁殖の基礎について理解する。			23							
9	鯨類および鯨脚類の代表的な疾患について理解する。			24							
10	臨床検査学;血液検査、画像診断について理解する。			25							
11	薬理学;薬理作用、使用方法の概略について理解する。			26							
12	動物看護師の業務について理解する。			27							
13	水族館に関する最新トピックスについて理解を深める。			28							
14	哺乳類に共通する内科疾患の病態生理について理解する。			29							
15	後期学習内容について総括する。			30							
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業時間内に適宜課題を与え、それによって事前学習を課す。また授業資料を使って復習をおこなうことを課す。									
教科書・テキスト		なし									
参考書		野生動物の医学									
評価方法・基準		筆記試験のみで評価する。									
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。									

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	NGO/NPO論	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Theory of NGO/NPO	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	平成21年から環境省「きんき環境館」にて、近畿圏内の行政・NPO・企業等の環境取組についての中間支援業務に従事。ソーシャルビジネスの立ち上げ支援なども担当。その後、平成23年からは、八尾市役所にて八尾市内の中間支援業務に従事。現在は、World Seedにて、協働プロジェクトの立ち上げやボランティアのコーディネート、ファシリテーター、大阪市や大阪府等の行政業務も行っている。また、中間支援組織であるエコネット近畿の副理事長として、助成金セミナーや合宿型の交流イベントの開催などにも関わっている。				
授業の概要・目的					
NPO／NGOの法人体系や会計などの概要を知る。また、NPO／NGOを取り巻く社会情勢を理解し、団体に向けた支援体制や行政などの対応など具体的な事例をもとに学ぶ。授業の後半では、色んなジャンルで現場で活躍している方のお話を聞く機会を設けて、より理解を深める。最終的に、「もし自分がNPO／NGOを立ち上げるなら」という仮定に基づき、団体設立の方法や運営の手法について学ぶ。					
到達目標					
・NPO／NGOの概要が理解できている。 ・多様なNPO／NGOについてその理解を広められている。 ・団体設立の際の重要なポイントが理解できている。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	■授業のオリエンテーション 授業の概要と導入、進め方、目標等について	16			
2	■NPO／NGOとはなにか NPO・NGOの法人体系や取り巻く社会情勢の変化について	17			
3	■NPO／NGOを取り巻く「お金」事情 NPO法人の会計の仕組みや助成金などについて	18			
4	■NPO／NGOを支える中間支援組織とは 中間支援組織の概要や、具体的な組織について	19			
5	■NPO／NGOの具体例を探るVol.1(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	20			
6	■NPO／NGOの具体例を探るVol.1(2) NPO／NGO団体で活躍する現場の方のお話を伺う	21			
7	■NPO／NGOの具体例を探るVol.2(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	22			
8	■NPO／NGOの具体例を探るVol.2(2) NPO／NGO団体で活躍する現場の方のお話を伺う	23			
9	■NPO／NGOの具体例を探るVol.3(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	24			
10	■NPO／NGOの具体例を探るVol.3(2) NPO／NGO団体で活躍する現場の方のお話を伺う	25			
11	■NPO／NGOの具体例を探るVol.4 行政の立場からNPO／NGOの支援などに携わる方のお話を伺う	26			
12	■NPO／NGOの設立の仕方(1) もし、自分がNPO／NGOを設立するとすればどのようなミッションを掲げて、どのように活動を展開するか、ワークショップを通してイメージを膨らませる。	27			
13	■NPO／NGOの設立の仕方(2) もし、自分がNPO／NGOを設立するとすればどのようなミッションを掲げて、どのように活動を展開するか、計画を立てる	28			
14	■NPO／NGOの設立の仕方(3) 前週までに考えたものをまとめて、全体の前でプレゼンテーションを行う。	29			
15	■NPO／NGOの設立の仕方(4) 前週からの継続で、プレゼンテーションを実施。 一年間の総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業期間内に少なくとも1回のボランティア活動への参加を課す。 参加した活動については、所定のフォーマットにて報告を行うものとする。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合はレポート50%、出席率20%、ボランティア等の活動参加30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アウトドアライフ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	outdoor life	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	幼少より海、川、山全ての野外活動を行ううちにライフワークとなる。1990年より全国の消防本部に野外、特に水辺でのアウトドアレスキューを指導するようになり現在様々な危機管理を教える立場にあります。				
授業の概要・目的					
前期は、ロープワークを中心にアウトドアの基礎を習得します。後期は、山岳・海洋ナビゲーションや災害救助の知識、ロープワークやビレイの実践でより知識を深めます。					
到達目標					
野外活動においてミスのないように行動が出来るようになる。また現場での安全管理、危機管理能力を演習やシミュレーションを通して身に付けてもらいます。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	基本装備 ロープ・カラビナ・スリング・ハーネスの説明	16	ロープワーク1 アンカーの段取りと分散、支点確保		
2	その他装備 スイベル・アッセンダー・プレートの説明	17	山岳ナビゲーション 山岳地図をもとに、行動計画を立てる		
3	ハーネス 様々なハーネスの利用方法	18	ロープワーク2 ビレイデバイスを使った確保のやり方		
4	ロープワーク1 結びの基礎	19	海洋ナビゲーション 海洋地図におけるマッピングや行程計算法		
5	ロープワーク2 ロープに輪を作る	20	ロープワーク3 ロワーダウンと登高		
6	ロープワーク3 ロープでものを縛る	21	検索の方法1 環状検索の手順とやり方		
7	ロープワーク4 ロープとロープを結ぶ	22	ロープワーク4 都市型ロープレスキューの理解		
8	エイト環 下降のやり方、途中停止の方法	23	検索の方法2 ジャックステイの手順とやり方		
9	引き上げシステムⅠ 単独での引き上げ	24	ロープワーク5 様々なデバイスと組み合わせたロープの使い方		
10	引き上げシステムⅡ オートブロックと複数での引き上げ	25	気象・海象 気象災害をいち早く知る為の予測のやり方		
11	プーリー・ロープ移動 山岳でのロープ移動	26	ロープワーク6 自己脱出の方法		
12	ストレッチャーの使い方 災害時における緊急救助	27	セルフビレイ 山岳での事故を防ぐためのビレイの取り方		
13	アウトドアでの危険 アウトドアで起きる可能性のある事故を考える	28	複数人で行うアウトドアレスキュー		
14	アウトドアの基礎を理解でき、基本的なロープワークができるようになる	29	実践的なロープワークができるようになる。		
15	学習内容の総括	30	学習内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	なし。				
評価方法・基準	前期、後期とも実技試験とノート提出。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物調査Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Wild Animal ResearchⅠ	授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメントに関わる鳥類や哺乳類の調査業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標	・各々が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で見出し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	第5～7回のシカ・イノシシ痕跡調査実習の説明と、クマやハチなどの危険生物や猟期中の野外調査の注意点など、野外活動における安全管理について学習します。	16			
2	人と野生動物との関係をワイルドライフマネジメント(野生動物保護管理)の視点から捉え、軋轢を少しでも減らし、共存の道を探るために何が必要かについて考察します。	17			
3	農村部などでは、どのような獣害対策が取られているのか、またその成果や課題は何かについて知り、獣害対策の向かうべき方向について考察します。	18			
4	講師が有害鳥獣捕獲を行っている京丹波町の農村地域を歩き、農村の獣害の実情を学んだり、野生動物が出没する現場やくくりわな等の捕獲の様子を見学したりします。	19			
5	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	20			
6	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	21			
7	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	22			
8	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	23			
9	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	24			
10	秋期・冬期の鳥類調査実習、シカ・イノシシ調査実習、野外調査における安全管理等について振り返り、復習します。	25			
11	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	26			
12	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	27			
13	野生動物のことを人に伝える目的について考え、その具体的方法や留意点について学びます。	28			
14	実際に自分が野生動物のことを人に伝える場面を想定し、教材や資料を準備して発表し合います。	29			
15	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物保護管理演習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Wild Life Conservation and Management	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメントに関わる鳥類や哺乳類の調査業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標	・各々が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で見出し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスとして授業計画や実習の注意点について説明します。さらに、野生動物に携わる業界や仕事について話します。また、ニホンザル性齢識別実習や鳥類調査実習についての事前学習も行います。	16			
2	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	17			
3	ニホンザルの保護管理に関わる群れの個体数カウント調査で必要とされる性齢識別の練習を行います。	18			
4	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	19			
5	ニホンザル性齢識別実習の振り返りと、ニホンジカ実習についての事前学習を行います。またニホンジカ実習に必要な知識を学びます。	20			
6	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	21			
7	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	22			
8	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	23			
9	実務的な昆虫採集法、バイトラップの設置などについて、野外での実践を通して学びます。	24			
10	バイトラップを回収し、採集した昆虫の標本整理(タウ、三角紙、液浸標本)を行います。	25			
11	実際に多くのニホンジカ見ること、性年齢を識別する練習をします。また、環境の違いによってシカの分布に差があるのかを簡単に調査します。	26			
12	近年野生動物調査ではセンサーカメラの使用が一般的になっています。それらの画像を解析することも仕事内容として重要です。実習で得た知識を画像解析で活用する練習をします。	27			
13	前期の実習内容を振り返りながら、前期テストのための復習を行います。	28			
14	野外で実際に両生類爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	29			
15	野外で実際に両生類爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物飼育演習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Zoo Animal Management	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要	サファリパークにて飼育員に従事、その後移動動物園を独立開業。				
授業の概要・目的					
将来動物園やペットショップ等へ就職を目指す学生は、正しい知識・技術を身につける必要がある。本開講科目では基本的な動物種の分類・食性・習性について修得する。実際に動物管理を行う事により、実践的に動物取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。					
到達目標					
飼育動物の取り扱いにおける基礎知識・技能を習得し適正飼育することが出来るようになる。様々な動物の飼育方法を自分で考えることが出来るようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育動物の給餌内容、給餌量の考え方を理解する。	16	鳥類の捕獲・保定方法の技術を身につける。		
2	飼育管理に関する衛生管理について理解する。	17	鳥類の健康管理方法を理解する。		
3	飼育動物の必要な運動量について理解する。	18	カピバラの習性・食性について理解する。		
4	飼育動物の温度・湿度・光周期について理解する。	19	カピバラの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる		
5	カイウサギの捕獲・保定方法を理解する。	20	カピバラの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
6	カイウサギの健康管理方法を理解する。	21	カピバラの健康管理方法を理解する。		
7	モルモットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	22	フェレットの習性・食性について理解する。		
8	モルモットの健康管理方法を理解する	23	フェレットの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。		
9	アルパカの習性・食性について理解する。	24	フェレットの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
10	アルパカの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。	25	フェレットの健康管理方法を理解する		
11	アルパカの捕獲・保定方法の技術を身につける。	26	チンチラの習性・食性について理解する。		
12	アルパカの健康管理方法を理解する。	27	チンチラの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。		
13	鳥類の習性・食性について理解する。。	28	チンチラの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
14	鳥類の飼育方法・繁殖方法を自らで考えることが出来るようになる。	29	チンチラの健康管理方法を理解する。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は筆記試験50%、出席率25%、実技試験25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物飼育活動	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Animal Keeping Activities	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。またその後夜間大学に入学し教員免許を取得すると同時に、専門学校職員としての職に就いている。最終的にフリーランスの専門学校講師に転身した。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。またその手掛ける分野は犬と猫を除くペット動物たち、いわゆるエキゾチックアニマル全般である。偏りのない多角的な授業を行う。				
授業の概要・目的					
動物を飼育するだけならほぼ誰にでもできるが、「健康的に長生きさせる」と「とりあえず生かしておく」とは別物である。動物の飼育には知識と観察眼の両方が必要であり、観察眼は実際の動物を前にしながら習得することで最も正しく養われる。本演習では、学生はペットショップ実習室の動物の飼育管理方法を身につける。「飼育管理」には、ケージの清掃、餌の調整、給餌、健康状態のチェック、保定やハンドリングが含まれる。対象となる動物は小型の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物である。学生はどのようなペット動物にも応用できる知識や技術を習得する。					
到達目標					
ペットショップ実習室の飼育動物いずれにおいても、適切な飼育管理ができるようになり、その知識や技術をほかの動物にも応用できるレベルにまで高める。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	実習の心得、注意点を理解する。	16	実習室で飼育されている生物の種名を理解する		
2	実習室の用具の使い方を理解する。	17	実習室で飼育されている生物の分類を理解する		
3	実習室の動物の配置や種類を理解する。	18	実習室で飼育されている生物の生態を理解する		
4	動物の餌の調整(調餌)方法を理解する。	19	ほ乳類の飼育に必要な知識を得る		
5	小型げっ歯類の飼育管理を行う(ハムスターなど)。	20	鳥類の飼育に必要な知識を得る		
6	小型有袋類の飼育管理を行う(フクロモモンガなど)。	21	爬虫類の飼育に必要な知識を得る		
7	小型食虫類の飼育管理を行う(ハリネズミなど)。	22	両生類の飼育に必要な知識を得る		
8	小型重歯類の飼育管理を行う(ウサギ)	23	魚類の飼育に必要な知識を得る		
9	爬虫類の飼育管理を行う(トカゲ亜目)。	24	無脊椎動物の飼育に必要な知識を得る		
10	爬虫類の飼育管理を行う(ヘビ亜目)。	25	飼育に必要な器具について理解する(照明器具)		
11	爬虫類の飼育管理を行う(カメ目)	26	飼育に必要な器具について理解する(保温器具)		
12	両生類の飼育管理を行う(カエル、サンショウウオ)。	27	飼育に必要な器具について理解する(ケージ類)		
13	魚類の飼育管理を行う(給餌、水替え、メンテナンス)。	28	エキゾチックアニマルにかかりやすい病気について理解する		
14	無脊椎動物の飼育管理を行う(昆虫、クモ類)。	29	餌に含まれる栄養素について理解する		
15	総括、まとめ	30	総括、まとめ		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物が飼育されている施設に足を運ぶ、動物についての書籍や図鑑を読む。				
教科書・テキスト	該当なし				
参考書	該当なし				
評価方法・基準	出席率(%＝点数)50%:筆記課題50%＝100点				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	繁殖生理学	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Breeding and physiology	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で健康に動物を飼育し展示するために必要な動物生理学及び繁殖生理学に関する知識を学び理解する					
到達目標					
身に着けた豊かな知識により、動物飼育業務を担う即戦力となる飼育担当者像を構築できるようにする					
授業計画(テーマ・内容)					
1	哺乳類の神経生理学並びに感覚器官を学びその働きを正しく理解する	16			
2	哺乳類の血液循環について学びその働きを正しく理解する	17			
3	哺乳類の口腔内から大腸にいたる消化について学びその働きを正しく理解する	18			
4	反芻動物と後腸動物の消化について学び、その違いを正しく理解する	19			
5	哺乳類の呼吸の生理について学びその働きを正しく理解する	20			
6	哺乳類の性成熟と性行動について学びその働きを正しく理解する	21			
7	鳥類の羽毛の機能とその分類について学びその働きを正しく理解する	22			
8	鳥類の呼吸器を構成する器官とその働きについて学びその働きを正しく理解する	23			
9	鳥類の泌尿器について学びその働きを正しく理解する	24			
10	鳥類の生殖について学びその働きを正しく理解する	25			
11	両生爬虫類の生殖について学びその働きを正しく理解する	26			
12	適切な飼育環境の実現や異常行動の発現とその理由について学びその働きを正しく理解する	27			
13	縄張りや順位制について学びその働きを正しく理解する	28			
14	様々な繁殖様式について学びその働きを正しく理解する	29			
15	前期授業の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	新飼育ハンドブック動物園篇3				
参考書	「動物園学」文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アニマルヒストリー	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	History of Animals and Human	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	生家が獣医師のため幼少より動物の飼育、管理に携わる。20歳の時より非常勤講師として日本動物植物専門学校において動物の進化を教え始め、特に海洋生物の発生と陸上進出に関しては詳しい。				
授業の概要・目的					
我々が地球と共存していく上で、他の動植物を無視することは出来ない。地球創世時～人が文明を持つまでの流れを理解し、動物の進化を知ることは現存する生物たちの生態、行動を理解する上で、とても重要である。生命の無い場所からの生物誕生～現在までの理解を深める。					
到達目標					
地球の生い立ち、生物の発生、生物の進化、ヒトと地球の関係、環境破壊と保全を理解することができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	概論 講義の内容と進め方	16			
2	宇宙Ⅰ 成り立ちと銀河系	17			
3	宇宙Ⅱ 地球	18			
4	生命の誕生 原核生物～爬虫類	19			
5	魚類 魚類の発生と淡水への適応	20			
6	昆虫類 昆虫類の上陸作戦	21			
7	両生類 両生類の重力対策	22			
8	ロープワーク ロープワーク	23			
9	爬虫類 恐竜	24			
10	哺乳類 恐竜と獣弓類	25			
11	哺乳類と鳥類 互いの覇権争い	26			
12	ヒト 類人猿からヒトまでの進化	27			
13	ヒト ヒトの未来と環境	28			
14	地球の生い立ちから生物の進化、現在の地球環境について説明でき、自分の考えを述べるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	アニマルヒストリー				
参考書	なし。				
評価方法・基準	ノート提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物園研究	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Zoological Garden Study	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で行わなければならない多岐にわたる業務内容を解説し、そのうえで基礎となる動物園概論と動物分類学を詳細に学習し、技術として身に着ける。					
到達目標					
動物園とその業務内容への理解を深め、基礎となる動物分類学の知識を身に着け、動物園業務における即戦力となる素地を作ることにより、自分自身の理想とする飼育担当者像を構築できるようにする					
授業計画(テーマ・内容)					
1	世界の動物園の古代から現代に至るまでの歴史を理解する	16			
2	日本の動物園の現代にいたるまでの歴史を理解する	17			
3	世界の動物園と日本の動物園の社会における位置づけの違いを理解する	18			
4	天王寺動物園を例に日本の動物園の展示の歴史を理解する	19			
5	天王寺動物園で実施された展示計画を通して、具体的な展示形式について理解する	20			
6	天王寺動物園で実施されている展示を学び、展示におけるストーリー立ての重要性を理解する	21			
7	天王寺動物園で実施されている展示を通じて擬岩や擬木技術の重要性を理解する	22			
8	天王寺動物園で実施されている展示を通じて動物生態学や植物生態学の知識の重要性を理解する	23			
9	天王寺動物園で実施されている展示を通じて環境教育や環境エンリッチメントの重要性を理解する	24			
10	天王寺動物園で行われている環境エンリッチメントを通して環境エンリッチメントを正しく理解する	25			
11	動物園に関する国内法令や国際条約について学び、遵守すべき規制について理解する	26			
12	現代における動物分類学を学び、展示に応用できるよう理解する	27			
13	国際命名規約について学び、正しく展示に応用できるよう理解する	28			
14	脊椎動物の分類について学び、展示に応用できるよう理解する	29			
15	前期学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	新飼育ハンドブック動物園篇3				
参考書	「動物園学」文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物概論	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Introduction to Zoology	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	サファリパーク飼育員				
授業の概要・目的	将来動物園やペットショップ等へ就職を目指す学生は、正しい知識・技術を身につける必要がある。本開講科目では基本的な動物種の分類・食性・習性について修得する。実際に動物管理を行う事により、実践的に動物取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。				
到達目標	飼育動物の取り扱いにおける基礎知識・技能を習得し適正飼育することが出来るようになる。様々な動物の飼育方法を自分で考えることが出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物の分類・習性・食性について理解する。	16			
2	カイウサギの習性・食性について理解する。	17			
3	カイウサギの捕獲・保定方法の技術を身につける。	18			
4	モルモットの習性・食性について理解する。	19			
5	モルモットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	20			
6	鳥類の習性・食性について理解する。	21			
7	鳥類の捕獲・保定方法の技術を身につける。	22			
8	アルパカの習性・食性について理解する。	23			
9	アルパカの捕獲・保定方法の技術を身につける。	24			
10	カピバラの習性・食性について理解する。	25			
11	カピバラの捕獲・保定方法の技術を身につける。	26			
12	フェレットの習性・食性について理解する。	27			
13	フェレットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	28			
14	チンチラの習性・食性について理解する。捕獲・保定方法の技術を身につける。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は筆記試験50%、出席率25%、実技試験25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	ライフセービング	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Life Saving	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1992年国際救命救急協会インストラクターとなり救急の講習を行うようになる。2010年AHA(アメリカンハートアソシエーション)インストラクターとなり現在、消防及び各企業、球団トレーナー等に現場での1時救命処置講習を提供している。				
授業の概要・目的					
人体の生理学・薬学・病理学を学び、救急現場において自己の安全を確保した上で、傷病の手当て、CPR+AEDの練習を繰り返す。					
到達目標					
全ては現場主義を理解し、救急の際は各現場において臆することなく実力を発揮できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	成人に対するCPR 成人CPRの基本	16	導入 半期間の流れと救急の必要性		
2	小児に対するCPR 小児CPRの基本	17	人体の名称 骨と関節の名称		
3	成人及び小児に対するバッグマスク法の人工呼吸 バックマスク法と人工呼吸	18	人体の名称 筋肉と内臓		
4	成人及び小児に対する二人の救助者によるCPR 二人法の手順	19	人体の名称 循環器系・呼吸器系・神経系		
5	自動体外式除細動器 AEDについて	20	人体の名称 消化器系		
6	乳児に対するCPR 乳児CPRの基本	21	現場での心構え 傷病者の扱いの基本		
7	一人の救助者による乳児のCPR 一人法CPRの手順	22	調査と観察 ヴァイタルサインの読み方		
8	乳児に対するバッグマスク法と人工呼吸 バックマスク法	23	事故時の対応 連絡・指導の方法		
9	窒息の解除 窒息解除法	24	傷の手当 創傷と止血		
10	その他の注意点 傷病者と救助者の安全・回復体位	25	傷の手当 包帯術		
11	全体像 救命の連鎖	26	体の損傷 頭部・胸部・腹部・四肢の損傷		
12	チーム救助演習1 役割の理解	27	体の損傷 骨折の処置		
13	チーム救助演習2 チームでの的確な手法	28	CPR AEDとCPR		
14	CPRができるようになり、AEDやバックマスクの使用方法についても理解することができる。	29	よりレベルの高いCPRと応急手当ができるようになる。		
15	学習内容の総括	30	学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に毎回、課題を与える。翌週各自の課題を確認する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	なし。				
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋活動セミナー	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Marine Semminer	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテストにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。				
授業の概要・目的					
①これまでの講義・演習で学んだ知識を生かし、卒業研究課題を決め実験、文献調査、解析を通して問題点の発見、解決能力を高め、研究の計画、実施、成果のまとめといった一連の作業を習得する。②水槽レイアウト作成をするうえで必要な知識を自作のテキストを用いて学習する。実際に水草レイアウト制作を行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。①課題に対する思考、パワーポイント作成、実験、学習成果の発表などを通して研究能力を身に付ける。②レイアウト制作及び維持管理技術を身に付ける。					
到達目標					
①卒業研究発表において分かりやすい図表等を作成し効果的な説明ができるようにする。また、課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法で実験、調査などを遂行しデータ解析、考察することにより結果を客観的に説明できるようにする。②卒業研究発表において水槽レイアウト制作過程を画像、図表を用いて分かりやすく効果的な説明ができるようにする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1.2.3	年間授業進行スケジュール説明、卒業研究テーマ企画:1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。水槽レイアウト制作自作テキスト資料配布。卒業研究テーマのアドバイス。	46.47.48	水草レイアウト水槽崩壊時の修復法:水草レイアウト水槽崩壊時の修復法技術指導・卒業研究進行状況確認。		
4.5.6	水草レイアウト作成法、卒業研究テーマ:レイアウト作成法(デッサン、タイトル、キャプション)、卒業研究テーマ実施のアドバイス	49.50.51	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。		
7.8.9	レイアウト制作、卒業研究の実施:レイアウト作成図制作提出、卒業研究テーマ概要提出、開始。	52.53.54	中間発表:中間発表会で発表を行う。		
10.11.12	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	55.56.57	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
13.14.15	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	58.59.60	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
16.17.18	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	61.62.63	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
19.20.21	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	64.65.66	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
22.23.24	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。	67.68.69	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。		
25.26.27	中間発表:中間発表会で発表を行う。	70.71.72	中間発表:中間発表会で発表及び代表選考		
28.29.30	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	73.74.75	代表者発表		
31.32.33	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	76.77.78	冊子掲載用資料提出		
34.35.36	作品評価及び個別指導	79.80.81	作品評価及び個別指導、パワーポイント提出		
37.38.39	作品評価及び個別指導	82.83.84	作品評価及び個別指導		
40.41.42	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。	85.86.87	各個別指導、引継ぎ準備		
43.44.45	前期学習内容統括:レイアウト制作についてのまとめ。卒業研究進行状況確認/各個人水槽管理実施、適宜説明。	88.89.90	後期学習内容統括:レイアウト維持管理についてのまとめ。卒業研究まとめ/各個人水槽引継ぎ。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時間だけのレイアウト水槽維持管理は困難なので、日々自分の水槽をよく観察し管理を行う。特に藻類対策はしっかり行う。				
教科書・テキスト	芦田自作テキスト				
参考書	世界水草レイアウトコンテスト写真集				
評価方法・基準	研究結果評価・水槽レイアウト作品評価:出席率も評価対象とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	観賞魚研究	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Ornamental Fish Study	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	なし、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の				
授業の概要・目的	本講義の主な対象生物である観賞魚は水槽や池などでペットとして飼育される魚類の総称であり、水族館・ペットショップ・養殖場等様々な場所で取り扱われている。我が国では江戸時代の頃から観賞魚(主に金魚)が飼育されており、観賞魚を飼育し楽しむという文化が古くから伝わっている。近年では世界各国から色々な熱帯魚が輸入されており、種類に応じての飼育管理が必要になってきている。日本から海外へ錦鯉・金魚の輸出が年々増えており、国産の需要も高まっている。また金魚においては、水族館でも展示される事が増えてきている。将来、アクアショップ・水族館・養魚場などの現場で就職しようとする学生が正しい知識を持って観賞魚に携わらなくてはならない。本開講科目では、淡水魚・熱帯魚を中心に各魚種の特徴について理解するとともに、主に観賞魚の価値、飼育技術、繁殖方法について取得する。また個体差のある観賞魚においては、魚の良し悪しについてを理解する。さらに、観賞魚の流通方法についても知識を深める。				
到達目標	各観賞魚の特徴、飼育、繁殖方法について説明できるようになる。一般的に多く流通している観賞魚については、種類を正確に判断し分布、特徴等については解説できるようになる。金魚・錦鯉については、雌雄判別が説明出来るようになるとともに、何故雌雄で価値が違ってくるのかを説明ができるようになる。観賞魚業界のおかれている立場を知り、自分の考えを述べる事が出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	観賞魚の現状と市場動向について理解する	16	カラシン目の種類と特徴を説明出来るようになる		
2	日本に生息する淡水魚の生殖周期、水温と日長について理解する	17	カラシン目の繁殖方法について理解する		
3	日本の淡水魚の繁殖方法、稚魚育成について理解する	18	コイ目の分類と特徴を理解する		
4	金魚の主な産地と符号について概説できるようになる	19	コイ目の飼育・繁殖方法を理解する		
5	金魚の雌雄判別、繁殖方法について説明出来るようになる	20	卵生メダカの特徴と年魚・非年魚について理解する		
6	金魚の主な品種、育成方法、調色方法について理解する	21	グッピーの特徴・品種・飼育繁殖方法について理解する		
7	金魚の遺伝について理解する	22	シクリッドの仲間(アフリカンシクリッド)の特徴について理解する		
8	鯉の特徴、錦鯉の品種・雌雄判別を理解する	23	シクリッドの仲間(エンゼルフィッシュ)の特徴と飼育を理解する		
9	メダカの特徴、品種、雌雄判別を理解する	24	大型魚(アロワナ)の分類と飼育の特徴について理解する		
10	タナゴの特徴と二枚貝との関係を理解する	25	大型魚(淡水エイ・ポリプテルス等)の特徴と飼育について理解する		
11	タナゴの繁殖と人工受精方法について理解する	26	アナバス(ベタ)の品種と飼育繁殖方法について理解する		
12	溪流魚(ニジマス・イwana・カジカ等)の特徴と飼育管理について理解する	27	コリドラスの特徴と飼育・繁殖行動について理解する		
13	日本産淡水魚(ナマズ・ドジョウ等)の特徴と飼育管理について理解する	28	ブレコの分類と飼育・繁殖方法について理解する		
14	観賞魚と一緒に飼育される甲殻類の管理について理解する	29	観賞魚の輸送方法について概説できるようになる		
15	総括 前期学習内容についての総括	30	総括 後期学習内容についての総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモ等をもとにノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	新観賞魚春春秋/熱帯魚・水草2700種図鑑				
評価方法・基準	評価の方法は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	魚病学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Fish pathology	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1987～1994年、沖縄海洋博覧会記念公園水族館にて魚類・イルカ類の飼育管理業務に従事。1995年～日本海洋科学専門学校にて、2006年～きしわだ自然資料館にてアドバイザー、専門員として委嘱契約（現在も継続契約）。2009年～高槻市立自然博物館にて主任研究員として就業。現在に至る。主に大阪湾海浜域と大阪府の中小河川における魚類の形態・生態的な側面の基礎的研究と、自然史系博物館における標本資料の集積と調査研究を行っている。魚病学関連の研究(実務経験)についてはヨシノボリ類(ハゼ科魚類)に寄生する粘液胞子虫類とその寄生状況を中心に調査を行っている。				
授業の概要・目的					

飼育管理下における魚類には、様々な疾病が発生する。その原因となる生物には、ウイルス、細菌、真菌、原虫、および寄生虫などによるものが広く認識されている。これら病因となる生物についての一般特性、生活史、そして効果的な予防・治療について理解を深める。また、病変には前記の生物群による以外にも、過剰な飽和窒素に起因する窒素ガス病や、長期にわたる単一餌料の給餌によるビタミン欠乏症なども旧来から水族館・水産業界では広く認識されている。このような症状・対策の概略について知ることと目的とする。

到達目標			
魚類を飼育管理するに当たっては、その飼育環境を極力、自然な状況・状態に近似させることが必要であり、病気の発生は最大限に回避すべき課題となる。しかしながら、様々な疾病の発生を防除することは不可能な場合も少なくない。本講義では、魚病として認識されている代表的な疾病について、その症状、治療法、そして予防法などについてその概略を知ingことを目的とし、なぜ病気が発生するのかについて再認識することを目標とする。			
授業計画(テーマ・内容)			
1	講義概要。講義内容全体を俯瞰し、概略を把握することを目的にする。	16	化学療法と薬剤耐性菌についてその認識を深める。
2	魚病学とは何か、その目的は何かについて、その経緯と課題について知る。	17	真菌病1。代表的な水族真菌類について知る。
3	魚類の生体防御1。魚類における生体的防御システムの概要について知る。	18	真菌病2。サケ科の内臓性真菌症、イクチオホヌス症などについて知る。
4	魚類の生体防御2。魚類における粘液や白血球など非特異的システムについて再認識する。	19	真菌病3。飼育下魚類における「ミズカビ病」とは何かを再認識する。
5	魚類の生体防御3。魚類における免疫系など特異的システムについて知る。	20	原虫病1。「原虫」と呼ばれる生物の分類群と概要を知る。
6	ウイルス病1。ウイルスの一般的特性・構造・増殖過程について認識する。	21	原虫病2。イクイオボド症、アユのグルゲア症、武田微胞子虫症について知る。
7	ウイルス病2。IHN(伝染性造血器壊死症)、IPN(伝染性肝臓壊死症)など旧来から認識されている病気について知る。	22	原虫病3。トリコジナ症、頻発する淡水生・海水性白点病について認識を深める。
8	ウイルス病3。コイの乳頭腫症、ヘルペスウイルス病(KHV)について認識を深める。	23	粘液胞子虫病1。粘液胞子虫の概説、キンギョの腎腫大症などについて知る。
9	ウイルス病4。ウイルス性神経壊死症、同腹水症、リンホシスチス症、カリフラワー病(腫瘍の可能性ある)について知る。	24	粘液胞子虫病2。トラフグの粘液胞子虫性やせ病、コイの鰓ミクソスポルス症などについて知る。
10	細菌病1。微生物とは?細菌とは何か?について再認識する。細菌の構造についても知る。	25	寄生虫病1。分類群、ブリのベネデニア症、淡水魚のイカリムシなどについて認識を深める。
11	細菌病2。サケ科魚類のせっそう病、淡水魚全般のエロモナス症などについて知る。	26	寄生虫病2。トラフグのヘテロボツリウム症、ブリの筋肉線虫症などについて知る。
12	細菌病3。カラムナリス病、アユの冷水病などについて知る。	27	魚類もストレスを感じていることを知る。
13	細菌病4。フナ類の穴あき病について知る。	28	環境要因が起因する疾病についても再認識する。
14	細菌病5。ヒラメ仔魚の腸管白濁症などについて知る。	29	魚類の栄養性疾病にはどのようなものがあるのかを再認識する。
15	前期を振り返る。	30	後期を振り返る。

授業時間外学修(事前・事後学習等)	適宜課題を与える。
教科書・テキスト	とくになし
参考書	小川・室賀編。2012。改訂・魚病学概論 第二版。恒星社厚生閣。
評価方法・基準	筆記試験
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	アクアエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	水生生物飼育管理Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ	開講期間	通年	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名	藤原 宗爾				
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテストにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。(藤原)				
授業の概要・目的	本講義の主な対象生物である海水魚は、水族館・養殖場・ショップ等様々な場所で取り扱われている。近年においては飲食店、病院等に海水魚及びサンゴ水槽を設置してメンテナンス管理をする仕事等、海水を使用して飼育管理する事が増えてきている。淡水魚の飼育と違い、海水魚の飼育は難しく淡水魚と同じように管理出来ると思うと失敗してしまいます。将来、海水魚を取り扱う仕事を目指す学生は正しい知識と取扱い方を学んでおく必要がある。本講義においては、海水に生息する生物を飼育する上で必要な水質管理及び濾過システム、及び使用する器具類についての知識を学び実際に実習室においてそれを実践し理解を深める。水質の測定及び添加方法、オーバーフロー水槽の仕組みについて理解する。毎週、グループごとに管理水槽を決めチームワークを取りながら様々な水槽の管理を行い管理方法の知識を深める。				
到達目標	基本的な海水魚の飼育方法について身につける。海水に使用する器具類の使用方法について説明できるようになる。また一般的に飼育される魚種及び、サンゴ、甲殻類の種類の分類について記述する。一年時に飼育した淡水魚飼育との違いを比較する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1,2	海水の取り扱い方について理解する/演習についての説明	31,32	サンゴの分類について理解する/グループによる水槽管理		
3,4	観賞魚用の海水魚について概説できるようになる/グループによる水槽管理	33,34	ハードコーラルとソフトコーラルの違いについて概説できるようになる/グループによる水槽管理		
5,6	海水魚と淡水魚の違いについて理解する/グループによる水槽管理	35,36	サンゴ飼育に重要な水温と水流について理解する/グループによる水槽管理		
7,8	人工海水について作り方、種類を理解する/グループによる水槽管理	37,38	サンゴ飼育に必要な水質の管理について理解する/グループによる水槽管理		
9,10	海水魚飼育の濾過フィルターについての選択について理解する/グループによる水槽管理	39,40	PH、KH、Caの関連性について概説できるようになる/グループによる水槽管理		
11,12	プロテインスキマーの働きを理解する/グループによる水槽管理	41,42	サンゴ飼育に必要な添加剤について理解する/グループによる水槽管理		
13,14	殺菌灯の仕組みについて理解する/グループによる水槽管理	43,44	サンゴの給餌方法について理解する/グループによる水槽管理		
15,16	クーラー選定の重要性について理解する/グループによる水槽管理	45,46	サンゴ水槽に使用する照明について理解する/グループによる水槽管理		
17,18	その他の器材(砂・水温計・水流ポンプ)の使用について理解する/グループによる水槽管理	47,48	ベルリンシステムについて仕組みを理解できるようにする/グループによる水槽管理		
19,20	ライブロックについて概説できるようになる/グループによる水槽管理	49,50	カルシウムリアクターについて理解できるようにする/グループによる水槽管理		
21,22	水槽のセッティングについて理解する/グループによる水槽管理	51,52	サンゴの種類(ソフトコーラル)について理解する/グループによる水槽管理		
23,24	日々の管理ポイントについて理解する/グループによる水槽管理	53,54	サンゴの種類(ハードコーラル)について理解する/グループによる水槽管理		
25,26	海水魚の病気と治療法について概説できるようになる/グループによる水槽管理	55,56	メンテナンスフィッシュ(甲殻類含む)を理解する/グループによる水槽管理		
27,28	魚病と淡水浴について理解する/グループによる水槽管理	57,58	海水魚の種類(品種含む)について理解する/グループによる水槽管理		
29,30	前期学習 総括/グループによる水槽管理	59,60	後期学習 総括/グループによる水槽管理		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモ等をもとにノートを作成する。登校日に水槽管理				
教科書・テキスト	なし				
参考書	海水魚・無脊椎動物1500種図鑑				
評価方法・基準	筆記試験50%、平常評価点40%、出席率10%で最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィンエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	ドルフィントレーニングⅡ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修選択
開講科目英名	Dolphin TrainingⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	専門:比較認知学、行動生態学、海洋哺乳類学、アニマルトレーニング。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所および同大学海洋生物研究所・海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではザトウクジラ生態とオスの歌の機能の研究に携わり、後者では海洋哺乳類の知覚能力の実験研究に携わる。日本では沖縄海洋研究所、あわしまマリナーパークの飼育顧問、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会会員。				
授業の概要・目的					
動物の行動マネジメントとそこに含まれる動物のトレーニングは明確に識別されなければならない。また動物の行動マネジメントにおいて、「管理」とは何かを支配・コントロールしたりすることではないことも適切に認識されなければならない。本授業を通して、学生諸君には「誤解」「曲解」されがちな動物の行動マネジメントの基盤となる、諸理論・諸概念を正確に理解し、正しい認識・理解にもとづき、動物の自主性を尊重して、動物と向き合い、動物との共同作業ができるようになってもらいたい。					
到達目標					
消去、罰、DRI/LRSの3つの動物の対応方法の本質的な違いを明確に述べる事が出来る。Ingteractive Programをどのように確立していくか、脱感作や集団性の強い動物のトレーニングなどのトレーニング計画を考えられるようになる。またトレーナーがしばしば誤解している概念、理論、実践方法(2次性強化子、オペラント条件づけにおける罰の学習、呼び戻しなど)に焦点を当て説明し、学生はなぜそのような誤解が起きるか、正しくはどう理解・説明・実践されなければ(使用を控えなければ)ならないか解説できるようになる。全ての動物のトレーニングの土台となる、基礎トレーニングの存在を認識し、A-Bトレーニング、ゲーティングのトレーニングの重要性を理解し、それらのトレーニングをデザインできるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
	オリエンテーション:オンライン授業の受け方、写メの原則禁止とメモの取り方とノートの作成の仕方などについてガイダンスする。学生今年の自分の目標について考え、今年1年の生活・勉学の計画をたてる。	16	前期に学んだことの要点について、その理解度・知識の習得度を確認し、基準に満たない学生は、なぜ自分が基準に達した理解を得られず、習得した知識も不十分になってしまったか、自己分析する。また基準を満たした学生は、自己をステップアップするために次に何をすべきかを考える。		
2	トレーナーにはレベルがある事、それぞれのレベルで理解していないといけない、出来なければならないことがある事を認識する。また各レベルに確実に達することができる教育プログラムがなければならないことも認識する。	17	動物の生活において自然に起きる罰の本質を理解し、動物のトレーニングやしつけに用いることが出来ない倫理的理由を論ずることができる。		
3	行動形成の基本を理解し、他者が行っている行動形成を見ても、ある程度までその他者が動物に何を気づかせようとしているのか、何の為にしているのか把握できるようになる。	18	動物のトレーニングやしつけにおいて罰を効果的に使うことが難しい、あるいは罰が使えない理論的、技術的理由を説明できる。		
4	クリックカー・トレーニング① 行動形成の基本的なやり方、流れを把握する。	19	罰を使うことによって起きる有害な副作用の代表的なもの4、5種類について説明できる。		
5	クリックカー・トレーニング② 動物の動きを目標の動きへ変化させるためのコツをつかむ。環境のキューが惹き起こす障害、環境のキューやアフォーダンスの活用法を理解する、	20	行動のABC分析の考え方を理解し、まず動物の問題行動の起きる原因や先行条件を探り出し、それらに基づいて問題行動の対処法、解決策を考えるようになる。		
6	3種類の脱感作のそれぞれの適用とその目的を説明できる。馴化のメカニズムを説明できる。脱感作では何を強化するのか理解する。	21	DRLとDRIの目的、それらのやり方、注意点を説明できる。		
7	直接的・生理学的な嫌悪刺激に対する脱感作をどのように行うか、その基本プロセスを説明できる。	22	DROとLRSの目的、それらのやり方、注意点を説明できる。		
8	動物が抱く根拠のない心理的不安や恐怖とはどのようなものか理解し、そうした不安や恐怖をどのように取り除くか、その基本的な考え方を理解する。	23	タイムアウトとリコールの目的、やり方、注意点を説明できる。タイムアウトについては負の強化になる場合と負の強化にならない場合を説明できる。		
9	インターアクティブ(触れ合い)プログラムの脱感作には2種類があること、ただし脱感作の基本的なやり方には違いがないことを理解する。脱感作の計画がたてられる。	24	海洋哺乳類飼育施設において満たされなければならない要件を理解する。既存の海洋哺乳類施設の優れた点、問題点に気がつける。3種類のゲートの利点と欠点を説明できる。		
10	動物の起こす自然なアグレッションのタイプと機能を説明できる。飼育環境・飼育方法やトレーニングによって起きるアグレッションの代表的な例を2～3挙げ、それらの回避・対処法を説明できる。	25	ゲートは主に3つのタイプに分けられる。それぞれの構造、主なメリット・デメリットを説明することができる。PG、FC、セMPCTトレーニングとはどのようなものか、それぞれの主なメリットとデメリットを説明できる。		
11	動物の問題行動には大きく3つのタイプがあることを理解し、それぞれについて主要な原因を説明できる。ただし動物が飼育下で起こす問題行動の殆どがヒトにその原因であることを認識する。	26	ゲーティングのやり方を説明できる。ゲーティングのトレーニングの要点を説明できる。		
12	飼育下の動物によくみられる自傷行動、常同行動、吐き戻しについて、それらに特徴的な症状、それらが発生する主な原因、それらに対する基本的な対処方法を説明できる。	27	A-Bトレーニングのコンセプトを理解し、様々なA-Bトレーニングの配置レイアウトやトレーニングの行い方を考えられるようになる。		
13	罰も罰を使わない問題行動の対処法も、あくまで対症療法でしかないことを理解し、問題行動の根本的な解決のためには動物の何を理解しなければいけないか、何をすべきかを説明できる。	28	さまざまなターゲットの活用の仕方のひとつとして、ステーションング・ターゲットを用いて、単独で3頭以上の動物を物理的に隔離する方法を学び、自分でのようにすれば良いかデザインできるようになる。		
14	前期の要点についてのまとめ(授業)と前期試験	29	後期の要点についてのまとめ(授業)と後期試験		
15	前期試験の模範解答と説明	30	後期試験の模範解答と説明		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	毎回の授業中にとったノートを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。授業において指定された動画をGoogleで検索、視聴する。				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書	"Zoo Animal Learning and Training"(編者)V. Melfiほか(出版社)wiley BlackwellおよびZoospensefull(https://zoospensefull.com/) およびZoospensefullのFacebookのコンテンツそのほか随時学生に紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率・授業態度20%とし、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マリン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	両生・爬虫類研究	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Ampphibians and Reptails	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。また勤務しながら夜間大学にて教員免許を取得しており、その後専門学校職員としての職に就いている。最終的にフリーランスの専門学校講師に転身した。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。手掛ける分野はエキゾチックアニマル全般で、特に両生爬虫類およびアクアリウムに造詣が深い。多角的な視点で授業を行う。				
授業の概要・目的					
両生爬虫類は近年ペット動物としての注目を集めている。しかしその実態はブームによる一時的な注目に過ぎず、正しい飼育方法や何年生きるかなどの本当に必要な情報が共有されていないのが現状である。その結果遺棄される両生爬虫類がいたり、違法に飼育されるものがあったり、病気になって死んでしまうものが後を絶たない。学生はこれらの問題に直面できるよう、飼育管理や生態における正しい知識を習得する。					
到達目標					
爬虫類と両生類の分類や生理生態を理解し、飼育管理や野外での調査活動に活用できるようになること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	脊椎動物の階層について理解する	16	飼育に必要な飼料にはどのようなものがあるかを理解する		
2	爬虫類の分類(目、科レベル)を理解する	17	飼料のカテゴリ(活餌、冷凍餌、人工飼料)と使い分け方を理解する		
3	両生類の分類(目、科レベル)を理解する	18	飼料の栄養素の違い(三大栄養素とビタミン)を理解する		
4	外温動物と内温動物の生理的な違いを理解する	19	両生類と爬虫類の骨形成に必要なビタミンDと紫外線の関係について説明できるようになる		
5	ワニ目の爬虫類の生態、生理を理解する	20	昼行性の爬虫類の飼育に必要な器具について理解する		
6	有鱗目の爬虫類の生態、生理を理解する	21	夜行性の爬虫類の飼育に必要な器具について理解する		
7	カメ目の爬虫類の生態、生理を理解する	22	両生類の飼育に必要な器具について理解する		
8	無尾目の両生類の生態、生理を理解する	23	照明器具の正しい使い方を説明できるようになる		
9	有尾目の両生類の生態、生理を理解する	24	保温器具の正しい使い方を説明できるようになる		
10	無足目の両生類の生態、生理を理解する	25	ケージの正しい選び方(サイズ、通気性)について理解する		
11	爬虫類、両生類の特徴的なもの(サイズ、行動、寿命)について説明できるようになる	26	人と動物に安全な保定方法を習得する		
12	爬虫類、両生類の一般社会において誤解されている点(毒の有無、食べ物、人との関わり方)について説明できるようになる	27	日照不足により起きやすい代謝整骨疾患について理解する		
13	爬虫類、両生類の自然界で置かれている現状(乱獲、帰化)について説明できるようになる	28	ダニの防ぎ方、駆除の仕方を理解する		
14	爬虫類、両生類の市場でのニーズ(人気種、価格、販売ルート)について説明できるようになる	29	日常的な管理で意識することを説明できるようになる		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	課題は授業中に適宜指示を与えるが、学生には可能な範囲で野外や飼育施設などで実際に生体を観察することを望む。				
教科書・テキスト	授業内で適宜指示をする。				
参考書	授業内で適宜指示をする。				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で採点する。合計最高得点は100点である。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		マリンエクササイズ		開講学科		動物&海洋科		
開講科目名		海洋保全		開講年度		2022	配当年次	2
開講科目英名		Marine Conservation		開講期間		通年	必選区分	必修選択
				授業形態		講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名								
実務経験概要		徳島大学非常勤講師、近畿大学非常勤講師、和歌山県環境学習アドバイザー、海域環境コンサルタント勤務						
授業の概要・目的		海洋の中でも内湾の沿岸域(以下海域と記す)を対象に講義を進める。大阪湾や瀬戸内海等における具体的な事例に基づき、海域における環境の変遷と現況、新たな問題を理解し、その上で、海域環境の問題の多くが私達の日常生活に起因すること、つまり、海は私達の生活の無理や無駄を映し出す鏡であることについての理解を深める。 海洋環境を保全・修復するためのハード(工学的技術)・ソフト(環境学習)両面の方策を学び、考える。 ① 海域における環境の変遷と現況を理解する。 ② 私達の活動が海域環境に及ぼす影響について学ぶ。 ③ 海域環境を悪化させないための考え方、悪化した環境を再生するための具体的手法を学ぶ。 ④ 具体的な手法を実践に結び付けるためのスキルを身につける。						
到達目標		① 海域環境に関する基本的な用語を理解する。 ② 海域環境が悪化するメカニズムと再生の具体的な方法を理解する。 ③ 海の環境問題と私達の生活を関連づけて考えるようになる。 ④ 日常生活において海洋環境の保全に取り組む姿勢を身に付け、海の環境問題に対して自分の意見を述べることができるようになる。						
授業計画(テーマ・内容)								
1	海洋保全の授業概要 授業の目的と目標、授業全体の構成、進め方について説明するとともに、前期の授業内容(シラバス)について説明する。			16	後期授業の目的と目標 授業の目的と目標、授業全体の構成、進め方について説明するとともに、後期の授業内容(シラバス)について説明する。			
2	海洋環境の変遷と現況、基本的用語(その1) 海域環境悪化の原因、悪化のメカニズムをできる限り分かりやすく説明する。併せて海洋環境に関する基本的な用語の理解を深めるための解説をする。			17	海洋環境問題に関する理解 前期に学習した海域環境に関する基本用語や環境悪化のメカニズムと再生手法について自分の考えをまとめ、説明できるようになる。			
3	海洋環境の変遷と現況、基本的用語(その2) 環境悪化の原因、悪化のメカニズムをできる限り分かりやすく説明する。併せて海洋環境に関する基本的な用語の理解を深めるための解説をする。			18	海洋環境教育の現状と必要性 国内における海洋環境教育の歴史と現状について説明するとともに、近年問題となっている「海離れ」について解説する。			
4	海洋環境の変遷と現況、基本的用語(その3) 海域環境悪化の原因、悪化のメカニズムをできる限り分かりやすく説明する。併せて海洋環境に関する基本的な用語の理解を深めるための解説をする。			19	環境修復施設の現地視察(その1) 海域の環境修復を目的とした水質浄化施設(尼崎市)を視察するとともに、施設周辺において実施されている海洋環境教育プログラムを紹介する。			
5	波と流れと潮汐 海域環境を形成する物理現象である、波、流れ、潮汐について、地球規模の現象から沿岸の浅海域における現象について解説する。			20	環境修復施設の現地視察(その2) 海域の環境修復を目的とした水質浄化施設(尼崎市)を視察するとともに、施設周辺において実施されている海洋環境教育プログラムを紹介する。			
6	人工干潟の造り方 浅場(砂浜や干潟)の役割について説明し、人工干潟の計画・設計・施工方法を紹介するとともに、望ましい干潟の状態として「動的安定」について解説する。			21	ソーシャルスキルトレーニングについて 環境教育のプログラムを構成する際に活用できるソーシャルスキルトレーニングについて説明するとともに、他者に伝えるための技術を解説する。			
7	磯焼けと藻場造成 海藻・海草に関する概論の後、磯焼けのメカニズムについて説明し、藻場を再生するための様々な取り組みを紹介する。			22	Project Wetの体験 海外において体験型環境教育ツールとして開発されたProject WetやMAREなどを実際に体験するとともに、内容について解説する。			
8	サンゴの白化とサンゴの再生 白化(はっか)現象について説明し、減少するサンゴ礁を再生するための様々な取り組みを紹介する。			23	海洋環境教育ツール開発のための現地視察(その1) 大阪府立青少年海洋センターや深日港に生息するイルカなど海洋環境教育資源の豊富な岬町を視察し、教育ツール開発のための情報を収集する。			
9	漁業とダイビングの共存について考える 漁業の種類や漁業権について説明した上で、漁業とダイビングなどマリンスポーツとの共存について考える機会とする。			24	海洋環境教育ツール開発のための現地視察(その2) 大阪府立青少年海洋センターや深日港に生息するイルカなど海洋環境教育資源の豊富な岬町を視察し、教育ツール開発のための情報を収集する。			
10	海の再生可能エネルギー カーボンフリーに向けた社会づくりの方策としてブルーカーボンについて説明する。潮汐や波のエネルギーを利用した再生可能エネルギーの可能性について学ぶ。			25	大阪ECO版 海洋環境教育ツールの考案 1班5〜6名を目途にグループを作成し、前後期において学習した内容を基に、各グループが海洋環境教育ツールを考案し、発表の準備をする。			
11	栄養塩の循環について考える 環境を大きく左右する「栄養塩」の循環について、地球規模での循環から身の回りの循環まで、さまざまな空間スケールで解説する。			26	大阪ECO版 海洋環境教育ツールの発表 各グループが考案した海洋環境教育ツールを発表するとともに、発表を通じて、海の環境問題に対して自分の意見を述べる機会とする。			
12	海洋ゴミについて考える ・漂着・海底堆積、マイクロプラスチックなど海のゴミ問題について解説し、海ゴミを減らす方法について考える。			27	理解度の確認(その3) 海洋環境教育を実施するための考え方と具体的な技術についての理解を確認する。			
13	防災と環境再生 防災のために不可欠なコンクリートにアミノ酸を加えた環境配慮配慮型コンクリートを例に防災と環境再生について考える。			28	復習 後期講義の振り返り、要点のまとめを行う。			
14	理解度の確認(その2) 海洋環境を保全・修復するための考え方と具体的な技術についての理解を確認する。			29	SDGs(持続可能な開発目標)を体験する(その1) カードゲーム「2030SDGs」の体験を通して、SDGsについて説明し、世界の様々な問題と私達の生活を関連づけて考えるよう解説する。			
15	復習 前期講義の振り返り、要点のまとめを行う。			30	SDGs(持続可能な開発目標)を体験する(その2) カードゲーム「2030SDGs」の体験を通して、SDGsについて説明し、世界の様々な問題と私達の生活を関連づけて考えるよう解説する。			
授業時間外学修(事前・事後学習等)		基本的には、当日の授業に関連する課題を授業終了時に与え、次週までに校外にて自習し答えを導き出すサイクルとする。 授業の内容に応じて次週の授業に関する課題を与え、次週までに校外における学習にて準備をさせる。						
教科書・テキスト		テキストとなる資料を配布する。						
参考書		大阪湾～環境の変遷と創造:恒星社厚生閣						
評価方法・基準		理解度をチェックするための筆記試験を行う。試験の結果(点数)にて定量的に評価する。						
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。						

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	環境科学	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Environmental Science	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えています。自然が再生不可能なペースで破壊され続けているのが現状である。より持続可能な社会を実現するためには、私達人間がどのように環境を破壊してきたかの現状を理解し、劣化した環境の改善に必要な知識を学ぶことを目的とします。					
到達目標					
どのような環境破壊がなされているのか、そこに生息する生物の特徴と生存のためにどのような環境条件を整えるべきかを理解する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生態系(概念、構成要素、食物連鎖、食物網など)を理解する	16	開発と影響(騒音と振動、対策)		
2	栄養段階と同化率(概念、生態系に占める栄養段階ごとの個体数とその計算法)を理解する	17	開発と影響(エッジ効果の概念と要因、エッジ効果を計算で求める)		
3	生物の数の増え方(マルサスモデル、こう害)	18	エッジ効果と環境影響評価法、環境基本法		
4	生物の数の増え方(ロジスティックモデル、環境収容力)	19	個体数減少の悪影響(近交弱勢、雑種形成)		
5	種内競争(概念)を植物や動物ではどのような現象がみられているかを理解する	20	保全区域の形状(サイズ、数)、配置(生態学的回廊)、効果について		
6	種間競争の意義(概念、ニッチ、絶滅、共存)について理解する	21	道路の施工例(アンダーパス、オーバブリッジ、狭さく)		
7	生態系エンジニア、栄養カスケード、最小存続個体数について理解する	22	熱帯雨林の役割と消失による取組み		
8	ビオトープの多様性(定義、条件、カルテ)と、生態系サービスについて理解する	23	砂漠化はなぜ起こるのか(砂漠の定義、砂漠化の原因と対策)		
9	開発と影響(大気組成、オゾン層、大気汚染、二酸化炭素)	24	漁業資源の乱獲による枯渇、磯焼けと海中林の造成		
10	地球温暖化(メカニズム)と地球環境の変化(深層水の大循環、生物の小型化)、国際的な取り組み	25	都市環境と生物(ヒートアイランド、都市の植生とそこに住む生物)		
11	開発と影響(NOX、SOX、、酸性雨、光化学オキシダント)、大気汚染の防止と自治体が行っている取組み	26	都市環境と生物(人間への影響:ストレス、病気)		
12	開発と影響(土壌の特徴、土壌汚染源・除去、土壌侵食)	27	エネルギー消費と環境問題と対策(低公害車)		
13	開発と影響(水の循環サイクル、水質汚染源)	28	廃棄物とリサイクル		
14	開発と影響(水質汚染に関係する法律と現状)	29	人口問題(世界的増加、日本減少、食料と水不足)		
15	前期学習の総括を行う	30	後期学習の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与えます。また授業中に書き留めたメモをもとにノートにまとめる				
教科書・テキスト	なし				
参考書	環境を守る最新知識／信山サイテック、環境生物科学／裳華房、地球環境を考える／放送大学教育振興会				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物調査Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Wild Animal ResearchⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	江藤公俊：環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として、環境アセスメントに関わる鳥類調査や、ワイルドライフマネジメントに関わる哺乳類調査などの業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。 石村彩子：石川県で市町村協議会の鳥獣害対策専門員として主にニホンザルの行動調査や被害対策方法の住民への普及などを行った後、兵庫県森林動物研究センターや(一社)里山いきもの研究所、(株)野生動物保護管理事務所の業務に携わり、ニホンザルの保護管理業務を行う。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標					
・各自が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスとして授業計画や実習の注意点について説明します。さらに、野生動物に携わる業界や仕事について話します。また、ニホンザル性齢識別実習や鳥類調査実習についての事前学習も行います。	16	シカ・イノシシ痕跡調査実習の説明と、クマやハチなどの危険生物や猟期中の野外調査の注意点など、野外活動における安全管理について学習します。		
2	野鳥観察の基本について、野外での実践を通して学びます。	17	人と野生動物との関係をワイルドライフマネジメント(野生動物保護管理)の視点から捉え、軋轢を少しでも減らし、共存の道を探るために何が必要かについて考察します。		
3	ニホンザルの保護管理に関わる群れの個体数カウント調査で必要とされる性齢等の識別について野外での実践を通して学びます。	18	農村部などでは、どのような獣害対策が取られているのか、またその成果や課題は何かについて知り、獣害対策の向かうべき方向について考察します。		
4	野鳥の目視による識別方法について野外での実践を通して学びます。	19	講師が有害鳥獣捕獲を行っている京丹波町の農村地域を歩き、農村の獣害の実情を学んだり、野生動物が出没する現場やくくりわな等の捕獲の様子を見学したりします。		
5	ニホンザル性齢識別実習の振り返りを行ないます。また、ニホンジカ実習についての事前学習も行い、ニホンジカの調査に必要な知識を学びます。	20	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、野外調査の安全管理について詳しく学びます。		
6	野鳥の鳴き声による識別について野外での実践を通して学びます。	21	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査について野外での実践を通して学びます。		
7	ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など、実務的な鳥類調査法について野外での実践を通して学びます。	22	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、イノシシ痕跡調査について野外での実践を通して学びます。		
8	猛禽類調査の基本、猛禽類の識別方法などについて野外での実践を通して学びます。	23	冬鳥(主に小鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
9	実務的な昆虫採集法、ベイトトラップの設置などについて野外での実践を通して学びます。	24	冬鳥(主に水鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
10	ベイトトラップを回収し、採集した昆虫の標本整理(外ウ、三角紙、液浸標本)を行います。	25	秋期・冬期の鳥類調査実習、シカ・イノシシ調査実習、野外調査における安全管理等について振り返り、復習します。		
11	実際に多くのニホンジカ見ること、性年齢を識別する練習をします。また、環境の違いによってシカの分布に差があるのかを簡単に調査します。	26	冬鳥(主に猛禽類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
12	近年野生動物調査ではセンサーカメラの使用が一般的になっています。それらの画像を解析することも仕事内容として重要です。実習で得た知識を画像解析で活用する練習をします。	27	野外で冬鳥(全般)を自力で発見し、識別するトレーニングを行いながら、任意踏査など鳥類調査の実習を行います。		
13	春期・夏期の鳥類調査実習、ニホンザル・ニホンジカ調査実習、昆虫類調査実習等について振り返り、復習します。	28	野生動物のことを人に伝える目的について考え、その具体的方法や留意点について学びます。		
14	野外で実際に両生類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	29	実際に自分が野生動物のことを人に伝える場面を想定し、教材や資料を準備して発表し合います。		
15	野外で実際に爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	30	野外で冬鳥(全般)を自力で発見し、識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサスなど鳥類調査の実習を行います。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	『講義や実習の出席率』と『筆記試験の点数』の平均から成績評価点を算出します。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	コンパニオンアニマル	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Animal	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園 ワンツウクラブ」を設立。				
授業の概要・目的					
コンパニオンドッグの講義については犬については約2万年前から人との密接な関係を続けてきた。その犬の性質を深く知る必要がある、講義では犬の問題行動の種類、犬の扱い方、繁殖の方法と犬の育て方、犬の関係で起きるトラブルの解決方法、犬の行動心理を詳しく知識を深め、犬の関係のトラブルの問題、法律解決方法を学ぶ、犬種についても20種類ほどを厳選して学んでいく、講義の動物を観察力を養うために鉛筆画による動物デッサンの講義も行う。HABIにおいては動物を関わる上で特に犬においての問題行動論を学ぶ。					
到達目標					
犬と言う動物をしっかりと知り理解する、犬種20以上の暗記、。犬の基本的な扱い方をしっかりとマスターする。デッサンについては最低一枚は犬のデッサンを完成させる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義の概要と講義の到達目標などの理解を深める。	16			
2	犬が行う仕事の種類、犬と人との歴史について深く知る。	17			
3	血統書の詳しい味方その役割、その問題点についても深く学ぶ。デッサンの方法と観察する意味の理解を深める。	18			
4	問題駆動の種類を深く知る 種類が多いため二回に分けて詳しく理解を深める。	19			
5	犬の長命と人と犬との比較などを詳しく理解を深める。	20			
6	犬のトラブルについて法律的な知識を深める、多方面に渡るために二回に分けて講義を行う。	21			
7	犬種第2G(番犬、警護、作業犬)について深く知る。犬のトラブルについて法律的な知識を深める。	22			
8	犬の繁殖について ①繁殖の方法論について詳しく知識を深める。	23			
9	犬種第3G(穴の中に住む小動物を狩る獵犬)について深く知る。犬の繁殖について②母犬の管理について詳しく知識を深める。	24			
10	犬の繁殖について ③子犬の育て方と訓育の方法論について詳しく知識を深める。	25			
11	犬種第4G(地面に穴に住む動物を狩る獵犬)について深く知る。犬と近い狼について詳しく知識を深める。	26			
12	犬の体調管理と健康管理についてその方法論を詳しく知り理解を深める。	27			
13	犬種第5G(日本犬を含む原始的な犬)について深く知る。	28			
14	犬種第1G～第5Gまでの統括を行う。	29			
15	学習内容の統括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	特に無し				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書	犬種スタンダード図鑑				
評価方法・基準	筆記試験を行う。出席点を設ける、100%の者のみ10点を加算する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の栄養	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Nutrition	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で行わなければならない多岐にわたる業務内容の中でも、動物園のキーパーとして必ず身につけておかなければならない基礎となる知識である繁殖、飼料、疾病に関して解説する。これらの知識を身につけることにより、動物園業務の即戦力となることを目指す。					
到達目標					
学生一人一人が各自の理想とする飼育担当者像を構築し、動物園、または動物園以外でも様々な飼育施設において業務を遂行し、動物の福祉を念頭に置いた理想的な業務遂行ができるようになる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	各種動物をヒトにも動物にも安全確実に捕獲保定し、輸送できる方法を理解する。	16			
2	飼育動物を繁殖させるうえで理解しておくべき課題を認識し概説できるようになる。	17			
3	サル類の繁殖を成功に導くための基礎知識を身につけ説明できるようになる。	18			
4	肉食動物の繁殖において特に注意しなければならない点を十分に理解し解説できるようになる。	19			
5	草食動物の繁殖における問題点をしっかりと理解し、概説できるようになる。	20			
6	有袋類の繁殖上の特徴をしっかりと身につけ実践できるようになる。	21			
7	鳥類の繁殖上、注意しなければならない点を十分に把握し、説明できるようになる。	22			
8	爬虫両生類の繁殖上、他の脊椎動物と異なる点を十分に理解し解説できるようになる。	23			
9	野生下と全く違う飼料しか入手できない飼育下にあっても、動物たちの生理に大きな影響を及ぼさない飼料を選択、給餌できるようになる。	24			
10	各種動物それぞれが持つ生理学上の特徴に合致した飼料を給餌できるだけの知識を身につける	25			
11	これまで与えられてきた飼料について、その選択の理由を十分に理解した上で、より良い飼料を組み合わせを確立できるようになる。	26			
12	疾病に罹患しても、それを隠そうとする野生動物たちの健康状態を見抜き、説明できるようになる。	27			
13	治療に先駆けて重要となる、病気の予防方法について十分に理解し概説できるようになる。	28			
14	各種動物それぞれが持つ寄生虫症につき理解し、飼育上、特に重要な早期発見、蔓延防止策等について解説できるようになる。	29			
15	学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限りの機会野生動物のことを学び触れ合う機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック動物園編1				
参考書	「動物園学」 文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物園飼育学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Zoo Animal Management	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月から2012年3月まで大阪市天王寺動物園に勤務した。この間、獣医医療と動物園運営に係る管理職業務に従事していた。				
授業の概要・目的					
人間社会において野生動物を飼育するということはかなり以前から行われてきたようであるが、科学として「動物を知る」という動きは近年になってからである。特に日本では遅れ、環境保全の一環としての野生動物の保護活動の立ち遅れにつながったと考えられる。しかし近代ではその遅れを取り戻す必要性に気付き、多くの動物園で科学的な面への取り組みが急速に進展している。そのような動物園という職場で活躍できるよう、本開講科目では動物園業務の基本となる「展示」ならびに「環境エンリッチメント」を学習し、スキルを身につけ、実践できるようになる。					
到達目標					
野生動物を飼育展示し、かつ累代繁殖につなげることは、野生動物たちの保護センターとしての機能が求められる動物園の責務であるが、動物を生理学的にも心理学的にも健康に飼育することで初めて、その責務を全うできる。そのための基礎知識をしっかりと理解し身につけ、動物園やその他の野生動物飼育施設が求める飼育担当者となる。					
授業計画（テーマ・内容）					
1	過去の展示の歴史を学び、近代動物園において必要とされる展示方法を概説できるようになる。	16			
2	近代動物園の持つ社会的使命を全うするための展示計画の立案方法を身につけ解説できるようになる。	17			
3	各テーマに基づいた展示方法を実施するうえで必要となる知識を理解し、説明できるようになる。	18			
4	展示を構成する動物たちが彼らの本来の生活に近い状況を飼育下環境で再現できる工夫を身につけ実践できるようになる。	19			
5	様々な展示技法を学び、それぞれのメリット、デメリットを上手に組み合わせる方法を概説できるようになる。	20			
6	環境エンリッチメントがこれまでどのようにして動物園の展示を充実させ、動物の福祉の向上に貢献してきたかを概説できるようになる。	21			
7	環境エンリッチメントを分類し、それぞれのメリット、デメリットを十分に理解し概説できるようになる。	22			
8	飼育環境改善の技法としての環境エンリッチメントを十分に理解し説明できるようになる。	23			
9	飼育下環境という限られた環境の制約を軽減する手法としての環境エンリッチメントを概説できるようになる。	24			
10	展示室と比べると気づかれにくい寝室の環境エンリッチメントについてもしっかりと学習し概説できるようになる。	25			
11	環境エンリッチメントを実施するうえで衛生管理上の問題点を理解し概説できるようになる。	26			
12	混合飼育、群れ飼育といった方法も環境エンリッチメントとなりえるが、それに伴うデメリットもしっかりと理解し、解説できるようになる。	27			
13	飼料を基にした環境エンリッチメントは効果的なものではあるが、実施する上で十分に理解しておかねばならないことを身につけ解説できるようになる。	28			
14	環境エンリッチメントを実施することにより可能となる定期的な健康診断ではあるがそれに伴うリスクを回避するための方法を理解し解説できるようになる。	29			
15	後期学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に書き留めたメモを基にノートを作成し復習して学習内容を身につける。動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限りの機会野生動物のことを学び触れ合う機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする。				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編 4 展示・教育・研究・広報 改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編 5 環境エンリッチメント				
参考書	「動物園学入門」初版書局 「動物園学」文永堂出版 その他授業中に適宜紹介する				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験を90%、授業態度と授業への参加度を10%として評価とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		IT	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名		コンピューター演習 I	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名		Practice of Computer I	開講期間	通年	必選区分	必修
			授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的		スマートフォンは苦手意識はないのに、PCだと苦手とう学生を減らし 職場で日常的に使用している、パソコン操作を習得する。 前期は文書作成ソフトを中心にビジネス文書・アンケート作成などの基礎を学ぶ 後期は表計算ソフトを中心に計算・グラフ・データベースなどの基礎を学ぶ				
到達目標		PCの基礎である入力ができるようになる。 仕事をする上で、PCの苦手意識をなくし、資料作成など操作できるようになる				
授業計画(テーマ・内容)						
1	インターネットガイダンス インターネット使用時の注意事項・COMポータル等の使い方及びテスト		16	表計算の基礎習得 1 第1章 表計算の基本操作		
2	パソコン基礎操作及び入力基本操作の習得 windowsの基本操作/ファイル管理・第1章 入力の基本		17	表計算の基礎習得 2 第2章 計算式・簡単な関数		
3	複数ページの文書サポート 第7章 図形の作成・応用		18	表計算の基礎習得 3 第3章 表作成の編集(書式設定・罫線)		
4	ビジネス文書の習得 第2章 文書の作成・編集		19	表作成・編集 復習問題		
5	表作成・編集の習得 第5章 表の作成/編集		20	第4章 グラフ作成		
6	表作成 復習問題		21	第4章 グラフ作成 編集		
7	図形描画機能の習得 第3章 表現力のある文書作成(図形の基礎)		22	第5章 印刷 第6章 ワークシートの操作		
8	図形描画編集の習得 第4章 表現力のある文書作成(図形の応用)		23	表計算の基礎習得 4 第7章 実務で使用する関数基礎		
9	図形の作成・編集 復習問題		24	表計算の基礎習得 5 第7章 実務で使用する関数基礎		
10	文書校正など便利な機能の習得 第6章 便利な機能		25	データベース 1 第8章 大量のデータを処理する		
11	複数ページの文書サポート 第9章 表紙・目次など長文対策		26	データベース 2 第9章 便利な機能		
12	文書作成 総復習		27	表計算・データベースの総復習		
13	模擬問題		28	模擬問題		
14	前期試験(文書作成・実技)		29	後期試験(表計算・実技)		
15	試験返却日(振り返り)		30	試験返却(振り返り)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		90分の授業内で課題が完成できない場合、宿題(事後学習)となる				
教科書・テキスト		Word2019/Excel2019 滋慶出版				
参考書		参考書:なし 作成データの保存媒体としてUSBを各自で持参				
評価方法・基準		実技試験(100点×70%) 出席点(20点) 平常点/提出物含む(10点) 計100点				
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Health Care	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	先年WAZAよりJAZAに対し、批判的な意見がだされ日本はこれに対し動物園・水族館での飼育見直しを行うこととなった。このような現状を踏まえ、動物園・水族館の「四つの柱」の一つである「種の保存(繁殖)」は特に重要となった。そこで将来的に動物業界で働くであろう学生たちに、飼育管理の重要性を伝える必要がある。そうすることで飼育環境の改善や給餌方法の工夫、飼料餌料の栄養価について考えられる様にし、より良い飼育方法について自分の意見を述べる事が出来る様にする。そのうえで野生動物の保護、繁殖を計画できるようにする。				
到達目標	水族中心に飼育環境について考え、餌料、飼料の内容を工夫し動物の健康管理について自分の考えを論ずることができる様になる。また、繁殖を目指した飼育ができる様になる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育管理の必要性と飼育環境	16			
2	水族館の仕組み・環境維持の重要性	17			
3	五大栄養素	18			
4	飼料・餌料	19			
5	餌料生物	20			
6	飼料原料1 動物性原料1	21			
7	飼料原料2 動物性原料2	22			
8	飼料原料3 植物性原料1	23			
9	飼料原料4 植物性原料2	24			
10	飼料原料5 植物性原料3	25			
11	飼料原料5 添加物	26			
12	病気の予防とビタミン欠乏症	27			
13	まとめ	28			
14	習熟度確認作業	29			
15	習熟度確認・総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	動物の健康管理				
参考書	日動水「新・飼育ハンドブック水族館編」				
評価方法・基準	自筆ノート、授業中に配布した資料のみ持ち込み可の筆記試験で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Anatomy and Physiology of Animals	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	将来的に動物に携わる者の基礎知識として、身近な哺乳類を題材に基本的な外部形態、形質、内臓機能を学ぶことにより脊椎動物の基本的な形態、形質、機能を理解する。それにより環境に適応しつつ進化してきた動物全般の形態、形質を理解する基礎とできるようにする。その上で、各種の生態を類推することができるようにする。				
到達目標	脊椎動物の外部形態や各内臓器官の働きを説明できる様になる。脊椎動物各綱の形質の違いを説明できる様になる。外部形態から生態を類推できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	脊椎動物各門の違いを理解し動物分類に発展させる	16			
2	脊椎動物の外皮の違い	17			
3	消化器の働き1	18			
4	消化器の働き2	19			
5	レポート課題(前期試験)発表・作成方法説明	20			
6	泌尿器系の働き	21			
7	呼吸器系 肺と鰓	22			
8	生殖器系 繁殖	23			
9	内分泌及びホルモンの働き	24			
10	循環器系	25			
11	感覚器系・神経系	26			
12	筋系・骨格系	27			
13	動物細胞と植物細胞	28			
14	核と遺伝子 課題レポート提出	29			
15	課題レポート返却 総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に指示を与える				
教科書・テキスト	イラストで見る動物の体のしくみ				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、授業中の課題20%で、最高評価点数を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必修区分	必修選択
開講科目英名	Open Campus	授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	毎年1回開催される学園祭を通じ、企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Sports Festa	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の調達等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。				
到達目標	スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につながるように記録を残す	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	進級研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	進級研究	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Promotion Study	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	1年間かけて修得した技術や知識の集大成として進級研究に取り組み進級制作展で発表する。				
到達目標	1年間の学習成果をパワーポイントやポスターなどを用いて説明できるようになる。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	進級研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16	発表準備 パワーポイント等作成		
2	進級研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17	発表準備 パワーポイント等作成		
3	進級研究の進め方 発表までの流れやスケジューリングの確認	18	発表事前準備 発表リハーサル・最終チェック		
4	テーマの決定① 今まで学んだ事を総括して深掘したテーマをディスカッションで探す	19	進級制作展参加		
5	テーマの決定② 過去に発表されたり、研究された事例をPCで検索する	20	進級制作展参加		
6	実践学習① 自分のテーマに沿って仮説と実証実験スタート	21	進級制作展参加		
7	実践学習② 途中経過の報告	22	進級制作展参加		
8	実践学習③ 前回の報告で受けたアドバイスをもとに発表内容を改良する。	23	進級制作展参加		
9	実践学習④ 改良したものについて発表する	24	進級制作展参加		
10	発表準備 パワーポイント等作成	25	進級制作展参加		
11	発表準備 パワーポイント等作成	26	進級制作展参加		
12	発表準備 パワーポイント等作成	27	進級制作展参加		
13	発表準備 パワーポイント等作成	28	進級制作展参加		
14	発表準備 パワーポイント等作成	29	進級制作展参加		
15	発表準備 パワーポイント等作成	30	進級制作展についてまとめ		
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜支持を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版				
評価方法・基準	満点を100点とする（研究課題の口頭発表等50%、出席率50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	IT	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	フォトテクニック	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Photograph Techniques	開講期間	前期	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	写真についての知識・興味を深めることにより、記録・コミュニケーション・プレゼンテーションなど、業務内容の強化に役立てていただく。また、観察力を高めることにより、生態の変化や気づきにつなげていただけるというような二次的な効果も期待する。				
到達目標	写真の基礎知識、カメラの扱い方を知り、業務に実践的に取り入れられる技術を習得する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	写真とは何か、業務にどのように役立てるかを考えてもらう。(アンケート)	16			
2	アンケートより、写真の効能について考える。スマホでの効果的な撮影方法。	17			
3	構図とは？考察とスマホカメラでの実践。	18			
4	カメラの機能。一眼レフに触ってみる。スイッチ類の基本操作を覚える。	19			
5	露出とは何か？絞りとシャッタースピードの関係と、デジタルによる新要素。	20			
6	絞りを変えて撮るとどのような変化をするのか？(絞り優先オート)	21			
7	シャッタースピードはどのような効果をもたらすのか？(シャッタースピード優先オート)	22			
8	ピントについて。オートフォーカスとマニュアルフォーカス。	23			
9	カメラのレンズについて。種類と違いについて。	24			
10	光を読む。光の性質と写真に及ぼす影響。	25			
11	実践撮影術。	26			
12	実践撮影術。	27			
13	スマホでの写真の加工の方法とSNSの利用。	28			
14	これまでのおさらいと試験対策。これだけは覚えて！	29			
15	前期学習内容総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	天気の良い日は外で写真を撮り、実体験を通して写真の楽しさを感じ、その効能について考えてもらう。				
教科書・テキスト	特になし				
参考書	特になし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、授業中の課題20%で、最高評価点数を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Open Campus	開講期間	前期	必選区分	必修選択
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	毎年1回開催される学園祭を通じ、企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	スポーツフェスタ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Sports Festa	開講期間	後期	必選区分	必修選択
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	スポーツフェスタは大阪ECO動物海洋専門学校が毎年1回開催する体育大会のことであり、学生が主体となって実行されている。学生は競技種目の選定、ルール作り、各種備品の準備等を行うとともに、実行委員会を設置し大会の企画や運営を行う。				
到達目標	スポーツフェスタの企画に参加することで、協調性、団結力、マネジメント力を高める。 事前のトレーニングを通じて体力を養う。簡単な救急救命法や人体の構造等について説明できるようになる。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	スポーツフェスタとは？ 意義や目的を学ぶ	16			
2	企画会議① 過去どんな競技をしてどんな準備が必要でどんな効果があったかを学ぶ	17			
3	企画会議② 各グループにわかれ、スポーツフェスタの企画書を作成し、プレゼンをする	18			
4	企画会議③ 競技種目や内容を決定し役割分担、スケジュールを作成する	19			
5	企画会議④ 競技のルール確認、安全な運営をするために具体的に作業していく	20			
6	実施準備① クラスで着る衣装・応援旗などの作成	21			
7	実施準備② 競技で使用する掲示板・道具などを作成する	22			
8	実施準備③ 当日のパンフレット作成	23			
9	安全運営対策① 怪我・事故防止のため、校内でのストレッチ・体力増強運動を実行	24			
10	安全運営対策② AED、救急救命法をインストラクターから学ぶ	25			
11	安全運営対策③ 事前に救急病院など調べて緊急対応にそなえる	26			
12	安全運営対策④ 人と動物との体のしくみ等を比較して学び、動物学校の特色を出して学ぶ	27			
13	前日準備 運営がスムーズに進むよう準備をする	28			
14	実施日 スポーツフェスタの運営をする	29			
15	総括 反省会をして次回につながるように記録を残す	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研修	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	キャリアセミナー	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Seminar for Career	開講期間	前期	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
目的…第一希望職種への就職					
<就職試験対策> 履歴書をはじめとする内定獲得のための対策(文章力・読解力・表現力のUP、面接／筆記試験対策、その他社会人対応)を中心に行い、必要なスキルを習得する。 <チーム力を高めるワーク> ほとんどの仕事はチームで行うもの。学生一人一人がチーム内で自身の役割を理解しすべきことを全うしようとする心構えを身に付ける。					
到達目標					
自身についての理解を深め、強みの強化と弱点の克服に努め、社会に適応できるようにする。					
社会人として必要最低限のマナーを備えた上で、自身の思考を広げ/深め、一社会人として周囲の人間や社会に役立てる人材への第一歩とする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	＜就職活動の進め方＞ 「働く」とは／「学生」と「社会人」の違い／応募の仕方 求人情報検索の方法について(サクセスナビ＆一般情報元)／サクセスノート説明	16			
2	履歴書作成の手引き① 自己分析(自身の経歴を見直す)	17			
3	履歴書作成の手引き② 他己分析(グループで他者を分析する)	18			
4	就職試験対策① 自己PRとプレゼンテーション: 自己評価、他己評価、応募書類の作成について	19			
5	就職試験対策② 自己分析を踏まえて就職用の履歴書の書き方解説／小論文の書き方解説 SCORE／SPI試験内容の紹介、対策	20			
6	就職試験対策③ 面接実戦練習(受け答え・立ち居振る舞い・様々なタイプの面接対策等)	21			
7	合同企業説明会ガイダンス 参加にあたっての心構え、今後の研修等について／企業訪問カードの作成	22			
8	就活特別セミナー① リクルートメイク・スーツの着こなし特別セミナー(京都医健)	23			
9	就活特別セミナー② 給料明細の見方、お金の管理について特別セミナー(SMBC)	24			
10	就職試験対策④ 小論文の書き方解説Ⅱ	25			
11	夏休みの活動オリエンテーション 夏休中の研修方法／「業界研修の心得」の復習	26			
12	グループワーク①(評価) 自己発言カワーク	27			
13	グループワーク②(評価) 主体性発揮ワーク	28			
14	グループワーク③(評価) 問題解決ワーク	29			
15	まとめ／振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜与えた課題に対する、作成物／プレゼンテーションを評価する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	滋慶グループ発行「ワーク」資料、サクセスノート(大阪ECO)、「伝わる文章力がつく本」樋口裕一著 大和書房 「これがほんなど				
評価方法・基準	評価の割合…出席率20%、提出物40%、グループワーク・プレゼンテーション評価40%で、最高評価100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研修	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	業界研修(動物&海洋)	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修選択
開講科目英名	Business internship	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
卒業年度に学生が目指す業界の企業またはそれに準ずる組織・施設・個人等(以下企業という)で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標の前に、社会人とは何かを実際の現場で学ぶことを目的としている。					
到達目標					
①学生の業界へのイメージと現実とのギャップを軽減させる。 ②実際の業界現場での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを学ぶ。 ③社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学ぶ。 ④自らの「キャリア」をデザインできる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義:インターンシップとは、参加の意義を知る	16	講義:インターンシップ参加における目的・目標の設定		
2	インターンシップ参加	17	インターンシップ参加		
3	インターンシップ参加	18	インターンシップ参加		
4	インターンシップ参加	19	インターンシップ参加		
5	インターンシップ参加	20	インターンシップ参加		
6	インターンシップ参加	21	インターンシップ参加		
7	インターンシップ参加	22	インターンシップ参加		
8	インターンシップ参加	23	インターンシップ参加		
9	インターンシップ参加	24	インターンシップ参加		
10	インターンシップ参加	25	インターンシップ参加		
11	インターンシップ参加	26	インターンシップ参加		
12	インターンシップ参加	27	インターンシップ参加		
13	インターンシップ参加	28	インターンシップ参加		
14	報告会	29	報告会		
15	報告会	30	報告会		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	企業研究、業界研修(インターンシップ)希望先の選定活動やレポート作成など				
教科書・テキスト	業界研修日報、業界研修ノートなど配布資料による。				
参考書	キャリアセンターの参考情報				
評価方法・基準	研修先業務の完全遂行、講義参加、報告会での発表、レポート提出が単位取得の条件となる。 【成績評価】レポート内容、報告会、インターンシップ先企業の評価を総合して評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研修	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	特別講義(校外学習)	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Special Lecture	開講期間	後期	必選区分	必修選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
ドルフィントレーナー・海獣トレーナー・ダイビングインストラクター・ネイチャーガイドなどの業界で活躍中のプロの方から、豊富な知識と情報を頂く特別講義や各種施設での校外学習を行います。					
到達目標					
ドルフィントレーナー・海獣トレーナー・ダイビングインストラクター・ネイチャーガイドなどの様々な種類の仕事内容を把握し、述べられるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ドルフィントレーニング 飼育下のイルカにトレーニングは必要か？	16			
2	ドルフィントレーニング 飼育下のイルカの健康管理とは？	17			
3	ドルフィントレーニング インターアクティブプログラムとは？	18			
4	ドルフィントレーニング インターアクティブプログラムにあたってのトレーニングとは？	19			
5	ドルフィントレーニング インターアクティブプログラム体験を通しての学び	20			
6	水族館での校外学習 水族館における、飼育員・トレーナーの役割	21			
7	水族館での校外学習 バックヤードを見学を通しての水族館の役割を学ぶ	22			
8	水族館での校外学習 展示方法や動物の行動を学ぶ	23			
9	ネイチャーガイドの役割・仕事内容とは	24			
10	トレッキングにて生物を観察	25			
11	シュノーケリングにて生物観察	26			
12	野生イルカとのドルフィンスイム前のブリーフィング	27			
13	野生イルカとのドルフィンスイム	28			
14	野生イルカとのドルフィンスイム	29			
15	授業統括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	施設見学・特別講義後にそれぞれ振り返るなど。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合はレポート提出80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	卒業研究	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	卒業研究	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Graduation Study	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	2年間かけて修得した技術や知識の集大成として、卒業研究に取り組み、卒業研究発表会と卒業制作展で発表する。				
到達目標	2年間の学習成果をパワーポイントやポスターなどを用いて説明できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	卒業研究とは① 進級研究の意義や目的・ゴールを学ぶ	16	卒業制作展準備 パワーポイント等の作成		
2	卒業研究とは② 過去の先輩たちの事例紹介	17	卒業制作展準備 パワーポイント等の作成		
3	卒業研究の進め方 発表までの流れやスケジューリングの確認	18	卒業制作展準備 発表リハーサル・最終チェック		
4	テーマ決め① 今まで学んだ事を総括して深掘したテーマをディスカッションで探す	19	卒業制作展参加		
5	テーマ決め② 過去に発表されたり、研究された事例をPCで検索する	20	卒業制作展参加		
6	実践学習① 自分のテーマに沿って仮説と実証実験スタート	21	卒業制作展参加		
7	実践学習② 途中経過の報告とアドバイス	22	卒業制作展参加		
8	実践学習③ 前回のアドバイスをを受けて改良したものの発表・報告	23	卒業制作展参加		
9	実践学習④ 前回のアドバイスをを受けて改良したものの発表	24	卒業制作展参加		
10	まとめ 卒業研究の発表に向けてまとめ作業	25	卒業制作展参加		
11	卒業研究発表会発表準備 パワーポイント等作成	26	卒業制作展参加		
12	卒業研究発表会発表準備 パワーポイント等作成	27	卒業制作展参加		
13	卒業研究発表会参加	28	卒業制作展参加		
14	卒業研究発表会参加	29	卒業制作展参加		
15	卒業研究発表についてふりかえり	30	卒業制作展についてふりかえり		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版				
評価方法・基準	満点を100点とする(研究課題の口頭発表等30%、論文30%、出席率40%)。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学実習Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Animal Clinical NursingⅠ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大下動物病院開業獣医師 大阪府堺市にて長きにわたり、小動物の臨床に従事。				
授業の概要・目的					
動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。また動物看護過程の一連のプロセスを理解する。					
到達目標					
動物看護師としての業務は多岐にわたり、病院での診察が行われるために様々な事を担当します。この科目では、1年次に行った事の復習も兼ねながら、学んだ知識や技術を、よりスムーズに行えるように習得する事を目指します。動物病院以外のスタッフの場合でも、獣医療に関する知識や技術は、動物を扱う上で必ず役立つと思います。動物看護師としての必要な基本的な知識、技術、検査手技の学習が目的です。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物看護師を目指して学習するにあたり、動物看護師をとりまく現状と目指すべき動物看護師像について	16	血液検査(CBC・生化学)について修得する。		
2	カルテの書き方、共通した用語について・猫の行動学	17	血液検査(採血・塗沫染色)について修得する。		
3	身体各部の名称、共通の用語について、体の器官のあらまし。実習犬に触れることで生体の扱いの基本を学ぶ。	18	前2回の復習を行い理解を深める。		
4	実習の保定について、それぞれの検査に応じた保定のパターンや保定器具の実際の使用、採血時の保定をイメージしてもらう。	19	モニター・輸液について理解する。		
5	身体一般検査とその表現の仕方	20	外科器具・包帯について理解する。		
6	医薬品の取り扱いについて基本的な知識を身に付ける。薬品の計算量、投薬の為の調剤方法や、投薬の仕方。実際の投薬。コンプライアンスについて	21	術着・グローブについて理解する。		
7	ルートの違いはどういうことなのか。点滴投与についても学ぶ。計算。注射薬の取り扱いを身に付ける。鶏肉を利用した注射実習。犬での皮下注射の形だけ。	22	外科関係振り返りを行い理解を深める。		
8	顕微鏡の使い方、遠心分離器や比重計など一般的な検査器具の基本的な扱い方を身に付ける	23	エコー・内視鏡について修得する。		
9	尿検査(ペーパー・沈渣・比重)を実際に行う	24	レントゲン・CTIについて修得する。		
10	尿検査(ペーパー・沈渣・比重)を実際に行う	25	血液検査(塗沫・CBC生化学)の振り返りを行い理解を深める。		
11	便検査(直接・浮遊)	26	血液検査(塗沫・CBC生化学)の振り返りを行い理解を深める。		
12	便検査(直接・浮遊)	27	便検査・尿検査振り返りを行い理解を深める。		
13	前期学習内容の総括を行う。	28	後期学習内容の復習を行い理解を深める。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥(ファームプレス) / 動物看護実習テキスト(インターズー) / 動物病院検査技術ガイド(チクサン出版社)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	実技試験及び筆記試験をともに100点満点で実施し、総合的に評価を行う。最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	愛玩動物学Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Animal StudiesⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシヤーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的					
伴侶動物の中でも主に猫に関して、歴史や品種、飼育管理法、動物の生態について学ぶ。					
到達目標					
猫の飼い主に、解りやすく正しい知識を伝えるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーションを行う。純血種/MIXの定義・多胎性・肉食について理解する。	16	ブリーディング①(健康な猫をブリードするための知識)について理解する。		
2	LH/SH・Male/Femaleの性格、飼い方、その他の違い・アメリカンSHIについて理解する。	17	ブリーディング②(交配～出産まで)について理解する。		
3	猫と犬の違い①(習性・体型・運動感覚等)について理解する。	18	ブリーディング③(出産～産後の母猫のケア)について理解する。		
4	猫と犬の違い②(種類・繁殖機能等)について理解する。	19	ブリーディング④(育児～人口哺乳)について理解する。		
5	行動学①(体の造りによる行動)について理解する。	20	ブリーディング⑤(伴侶動物として、性格の良い猫に育てるための知識)について理解する。		
6	行動学②(猫独特の行動)について理解する。	21	カラー遺伝①(ソリッド・アグーチ・ポイントカラー)について理解する。		
7	CFA公認猫種DVD①を見る。	22	カラー遺伝②(優性色・劣性色)について理解する。		
8	CFA公認猫種DVD②(猫種別の分類)を見る。	23	カラー遺伝③(雌のみのカラー遺伝)について理解する。		
9	猫の健康チェック①を行う。	24	カラー遺伝④(両親から受け継ぐカラー遺伝)について理解する。		
10	猫の健康チェック②を行う。	25	老猫のケア①(高齢期の行動、体の変化)について理解する。		
11	アンリカンカール/ベンガルのスタンダードについて学ぶ。	26	老猫のケア②(家庭で出来ること)について理解する。		
12	ノルウェージャンホレストキャットのスタンダードについて学ぶ。	27	老猫のケア③(高齢期の病気)について理解する。		
13	猫の血液型(FNI 猫新生児溶血性黄疸)について理解する。	28	猫のシャンプー(犬と違うテクニック)を学ぶ。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜レポート等の課題を与える				
教科書・テキスト					
参考書	CFAスタンダード訳本・猫の教科書(ペットライフ社)				
評価方法・基準	筆記試験・課題提出物・出席率にて総合評価。最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	愛護・適正飼養	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	人と動物の関係学	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Human&Animal Relations	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	獣医師免許取得後、勤務医として小動物臨床に従事ののち、現在は理学療法、食事指導、運動療法などのリハビリ診療を主に行っている。				
授業の概要・目的	現在、伴侶動物(ペット)は家族の一員という立ち位置になってきており、それに伴い獣医療の在り方も変化してきている。病気を治療するだけでなく、動物との関わり方などの指導、実践も獣医療従事者に必要な能力である。本講義を通じて、獣医療に関わる者として、「人と動物がどのように関わってきたか」「関わることにより双方にどのような効果をもたらされるのか」について学び、人と関わっている動物達について、それぞれの現状や抱えている問題について知るとともに、複数の視点から考察をすることにより、知識の習得と、動物と人間がより良い関係を築いて行けるよう様々な状況に応じた対応が必要であることを理解する。また、獣医療従事者として、上記を踏まえた上で、動物の福祉への配慮、医療倫理、飼い主及び動物への様々なケアについて学び、対応について考察する。				
到達目標	人と動物の関わり方について概説できるようになる。 伴侶動物をはじめとした様々な動物達の幸せとは何かを様々な視点から考え、自分なりの意見を述べるができるようになる。 獣医療従事者として様々な状況における動物との関わり方、飼い主との関わり方について臨機応変に対応できるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	人と動物の関わり方の歴史と家畜化について 人と関わりのある動物とは	16			
2	動物が人に与える影響、また人が動物に与える影響について 動物介在活動とは	17			
3	動物の「権利」と「福祉」について	18			
4	産業動物の福祉(現状および問題点)について考える	19			
5	展示動物、実験動物、野生動物の福祉(現状および問題点)について考える	20			
6	使役動物とは何かを知り、その福祉(現状および問題点)について考える	21			
7	動物愛護とはなにか 動物愛護センターの役割とは何かについて	22			
8	伴侶動物の殺処分、遺棄についての現状を知り、考察する	23			
9	野良猫、地域猫、野犬 問題について知り、考察する	24			
10	伴侶動物の飼育における問題(多頭飼いや虐待)について知り、考察する	25			
11	伴侶動物における幸せとは何か、何ができるか、飼育前及び後教育について考察する	26			
12	災害時における動物(主に伴侶動物)への対応と備えについて	27			
13	前期まとめ	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	前期学習内容の振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜レポートなどの課題を与える。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	動物看護コアテキスト①(ファームプレス)／愛玩動物看護師の教科書第1巻(緑書房)／その他授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率5%、授業態度5%、レポートなどの課題10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物形態機能学	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Anatomy and Physiology of Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	かしはら動物病院開業獣医師 奈良県橿原市を中心に、小動物（主に犬と猫）診療に従事				
授業の概要・目的					
動物看護師を目指すにあたって、動物の解剖学およびその働き(生理学)についての基礎的な知識の習得を目的とする					
到達目標					
①動物看護師として適切な看護を行うための、動物の体のつくりとその役割についての正しい知識を身に着ける ②愛玩動物看護師の国家試験対策としての正しい知識を身に着ける					
授業計画(テーマ・内容)					
1	機能形態学総論（生物学の復習・・・①からだの基本構造）	16	機能形態学各論 No5（泌尿器系の形態と機能・・・①腎臓と尿路の働き）		
2	機能形態学総論（生物学の復習・・・②細胞と組織）	17	機能形態学各論 No5（泌尿器系の形態と機能・・・②尿の生成と排泄		
3	機能形態学各論 No1（運動器系の形態と機能・・・①骨と骨格）	18	機能形態学各論 No5（泌尿器系の形態と機能・・・③体液とその調節		
4	機能形態学各論 No1（運動器系の形態と機能・・・②筋肉と関節）	19	機能形態学各論 No6（神経系の形態と機能・・・①中枢神経系(脳と脊髄について9		
5	機能形態学各論 No2（循環器系の形態と機能・・・①心臓の形態）	20	機能形態学各論 No6（神経系の形態と機能・・・②末梢神経系(自律神経と体性神経について)		
6	機能形態学各論 No2（循環器系の形態と機能・・・②血液循環）	21	機能形態学各論 No7（内分泌系の形態と機能・・・①内分泌系とホルモン）		
7	機能形態学各論 No2（循環器系の形態と機能・・・③胎子循環とリンパ系）	22	機能形態学各論 No8（内分泌腺の形態と機能・・・内分泌腺の働き①視床下部・下垂体・甲状腺・副腎）		
8	機能形態学各論 No3（呼吸器系の形態と機能・・・①呼吸器系の基本構造）	23	機能形態学各論 No8（内分泌腺の形態と機能・・・内分泌腺の働き②膵臓・上皮小体・松果体など）		
9	機能形態学各論 No3（呼吸器系の形態と機能・・・②呼吸の仕組み	24	機能形態学各論 No9（造血組織と血液・・・①血液とその成分）		
10	機能形態学各論 No4（消化器系の形態と機能・・・①消化管と消化腺	25	機能形態学各論 No9（造血組織と血液・・・②血液凝固と線溶系		
11	機能形態学各論 No4（消化器系の形態と機能・・・②消化管の機能	26	機能形態学各論 No10（感覚器の形態と機能・・・①皮膚の構造と機能）		
12	機能形態学各論 No4（消化器系の形態と機能・・・③消化腺(肝臓と膵臓の働き)	27	機能形態学各論 No10（感覚器の形態と機能・・・②眼球の構造と機能）		
13	機能形態学各論 No4（消化器系の形態と機能・・・④栄養素の代謝	28	機能形態学各論 No11（感覚器の形態と機能・・・③耳の構造と機能）		
14	前期授業内容の復習と確認	29	後期授業内容の復習と確認		
15	前期講義内容の総括	30	後期授業内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前に各自でテキストを確認(予習)して毎回の授業に臨む。さらに授業終了後は各自で復習を行い知識の定着をすることが望ましい				
教科書・テキスト	作成したオリジナルプリントを使用する				
参考書	愛玩動物看護師の教科書 第1巻（緑書房） 動物の体の構造と機能（ファームプレス）				
評価方法・基準	評価方法としては、筆記試験60%・授業内小テストおよび課題提出20%・出席率および授業態度20%にて総合評価を100%とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物行動学	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Behaviour	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	Dog as friends & Healers ドッグセラピスト、ドッグトレーナー				
授業の概要・目的	犬に関する知識(歴史、行動の発達と機能、トレーニングの理論と応用)を学習する。学習した知識を実習犬とのトレーニングを通して、身につける。エゴグラムを通して、自己理解と他者の行動パターンを予測しコミュニケーションに役立てる。				
到達目標	学んだ知識と実習により、犬に信頼されるハンドラーとなる。 また、今後 活躍する場所 で出会う飼い主さまとの円滑なコミュニケーション、及び犬に関する知識と実習のスキルを活かし、愛犬たちの問題解決に繋げる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	当方、自己紹介とパートナードッグによるデモンストレーション。エゴグラムの実施。	16	・①トイレトレーニングとハウストレーニング		
2	・犬具の紹介、トレーニングの必要性への理解。	17	・②トイレトレーニングとハウストレーニング		
3	・動物行動学(馴化と感作、古典的 及び オペラント条件付け)	18	・実習犬5(①馴化:マッサージ、グルーミング)→歯ブラシ、ブラシに慣れる練習		
4	・動物行動学(オペラント条件付け:ソーンダイク、三項随伴性、反応形成)	19	・(②馴化:マッサージ、グルーミング)		
5	・犬の歴史、犬種傾向 (前回までの復習、お座り、ふせ、マテ)	20	・(①甘噛み、いたずらへの対処→out、出して…の練習)		
6	・犬の行動と発達と機能、維持行動(前回までの復習、横について歩く)	21	・(②甘噛み、いたずらへの対処。前回の復習)		
7	・犬の問題行動とその治療	22	・(音に関する馴化)		
8	・古典的条件付け、馴化、鋭敏化、系統的脱感作、拮抗条件付け	23	・(おもちゃに関する馴化)		
9	・古典的条件け、消去、消去バースト、自発的回復	24	・(フード、おやつ、食べ物に関する馴化)		
10	・オペラント条件付け(スキナーによるオペラント条件付けの種類、ソーンダイクの効果法則)	25	・散歩に関するマナー、持ち物		
11	・オペラント条件付け(三項随伴性、逐次接近法、ブレマックの原理→例を考察)	26	・(教室内 及び 校外での散歩練習)		
12	・(これまでの学習内容の確認)	27	・(①担当犬の得意な動きを見極め、トリックに挑戦)		
13	①(前期学習内容の総括とまとめ)	28	・(②前回の挑戦の続き)		
14	②(前期学習内容の総括とまとめ)	29	・(③前回までの挑戦の成果発表)		
15	前期学習内容の振り返り	30	・後期学習内容の総括 及び 振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前後のレジュメの確認。各自、授業内の必要事項をノートにまとめる。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト(第二版)4(ファームプレス)				
参考書	犬に信頼されるテクニック(誠文堂新光社)、犬はあなたをこう見ている(河出書房新社)				
評価方法・基準	筆記 及び 実技試験を実施し、合わせて100点満点とする。評価は出席率も加味し総合的に行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	公衆衛生学	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Public Health	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック 開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事				
授業の概要・目的	個々の動物の命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生について学び、さまざまな疾病予防、健康維持および増進に役立てる総合的な科目である。人畜共通感染症・食品衛生・環境衛生について学ぶ。				
到達目標	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身につけた上で、正しい衛生指導ができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	公衆衛生とは何かを理解し、将来の仕事への意義について考える。	16	寄生虫性疾患の概要について理解する。		
2	微生物とは何かを理解し、細菌を身近に感じられるようになる。	17	寄生虫性ズーノーシス(回虫症)について理解する。		
3	感染症について(病原体・感染経路・宿主)について理解する。	18	寄生虫性ズーノーシス(鉤虫症・アニサキス症・フィラリア症など)について理解する。		
4	感染症について(感染と防疫)について理解する。	19	寄生虫性ズーノーシス(エキノコックス症)について理解する。		
5	細菌の構造と特徴について理解する。	20	寄生虫性ズーノーシス(マンソン裂頭条虫など)について理解する。		
6	ウイルスの構造について理解する。	21	寄生虫性ズーノーシス(トキソプラズマ症)について理解する。		
7	微生物の殺菌と消毒について理解する。	22	寄生虫性ズーノーシス(ジアルジア症・クリプトスポリジウム症など)について理解する。		
8	リケッチア・クラミジア・プリオンについて理解する。	23	寄生虫性ズーノーシス(外部寄生虫症)について理解する。		
9	狂犬病について理解する。	24	寄生虫性ズーノーシス(SFTSなど)について理解する。		
10	狂犬病予防法と狂犬病ワクチンの接種時期について理解する	25	食品衛生(自然毒など)について理解する。		
11	パストレラ症と猫ひっかき病について理解する。	26	食品衛生(細菌性食中毒)について理解する。		
12	レプトスピラ症とワクチンについて理解する。	27	食品衛生(細菌性食中毒)について理解する。		
13	ブルセラ症・オウム病などの細菌性ズーノーシスについて理解する。	28	まとめおよび統一試験対策を行う。		
14	皮膚糸状菌について理解する。	29	まとめおよび統一試験対策を行う。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。				
教科書・テキスト	愛玩動物看護師の教科書(緑書房)				
参考書	認定動物看護師教育コアカリキュラム準拠(エデュワードプレス)・動物看護コアテキスト(ファームプレス)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物感染症学Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Animal InfectionⅠ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	動物病院にて動物看護師として約27年勤務 飼い主に犬や猫の日常の健康管理の指導等なども行う 関西動物看護教育研究会に所属				
授業の概要・目的	現在、国内において犬や猫などの愛玩動物の多くが室内で飼育される傾向にある。これはヒトと動物の距離が近くなり、相互に影響を及ぼす機会が増える一因になると思われる。特に感染症には、動物のみならず人にも影響を及ぼすものがあるため、飼い主に身体的・精神的にも損害を起こしかねない。将来、動物病院などへの就職を希望する学生は、正しい知識を身に付けてそれを伝えることができるようになる必要がある。本開講科目では感染・発症の定義、感染症の成り立ちについて学び、衛生管理、予防法など感染症対策の基礎を習得する。また感染防御に重要な免疫学の基礎についても学ぶ。本講座では主にイヌやネコの感染する微生物と寄生虫について、分類・構造・感染経路・予防法を学び、動物と飼い主の健康をサポートできる人材を目指す。				
到達目標	病原微生物や寄生虫の伝播様式や発症のメカニズムを理解し、感染症の予防と看護、飼い主へのアドバイスに活かせるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	外部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	16	病原微生物の分類・特徴、感染経路について理解する。		
2	外部寄生虫(ノミ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	17	自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞について理解する。		
3	外部寄生虫(シラミ・ハジラミ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	18	獲得免疫(細胞性免疫)について理解する。		
4	外部寄生虫(マダニ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	19	獲得免疫(液性免疫)について理解する。		
5	外部寄生虫(ヒゼンダニ類)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	20	抗体の構造と働き、分類について理解する。		
6	外部寄生虫(ツツガムシ類)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	21	個体免疫と集団免疫、受動免疫と能動免疫について理解する。		
7	内部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	22	狂犬病について理解する。		
8	線虫類(回虫・鉤虫・鞭虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	23	狂犬病ワクチンと犬の登録について理解する。		
9	吸虫類(壺形吸虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	24	混合ワクチンで予防できる犬と猫の疾患について理解する。		
10	条虫類(瓜実条虫・マンソン裂頭条虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	25	混合ワクチン接種の意義・種類(コア・ノンコアワクチン等)について理解する。		
11	線虫類(猫条虫・その他)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	26	混合ワクチンの種類(生ワクチン・ノンコアワクチン)について理解する。		
12	原虫類(コクシジウム類)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	27	ワクチン接種のプログラム・接種後の注意点について理解する。		
13	原虫類(ジアルジア・トリコモナス)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	28	ワクチン接種に伴う副反応(即時型・遅延型アレルギー)について理解する。		
14	原虫類(バベシア・その他)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	29	ワクチン接種に伴う副反応(ワクチン接種部位肉腫)について理解する。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に使用したワークシートや教科書を参考にして資料を作成する。				
教科書・テキスト	動物看護の教科書第3巻(緑書房)				
参考書	犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド(インターズー) / 動物看護コアテキスト(ファームプレス) / 動物臨床看護学(インターズー)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、提出物10%、授業内小テスト10%で最高評価点を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物看護学概論	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Introduction to Animal Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	認定動物看護師／アニマルサポートオフィス・ミーチョ 代表／(社)ペットマッサージ協会認定 ペット東洋医学アドバイザー 日本動物看護学会 理事／(一社)関西動物看護教育研究会 代表／(一社)日本ペットサービス研究会 理事				
授業の概要・目的					
看護とは知識や経験のみで成るものではない。看護を行う人間の考え方や人となりによってはその行為は「看護」ではなくなる。 本教科では、獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解したうえで職業意識を形成することをもって看護に必要な心構えを習得する。					
到達目標					
動物看護師という職業について説明できる。 動物看護師としての思考回路を確立し、ヒトや動物に動物看護師として接することができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション(自己紹介・授業の心構え・ルールについて)を行う。	16	綱領6～9「動物を守るために必要なこと」「責任とは」「学習bの継続はどのように行うか」「協働とは。協働のために必要なことは」を学ぶ。		
2	動物看護職とは、専門職とは何か理解する。	17	綱領10「看護実践」とは「看護管理」とは「看護教育」とは「看護研究」とは 綱領11「動物看護学の発展」とは 綱領12「社会からの信頼を得るために必要なこと」		
3	現在の獣医療・動物看護職に至るまでの歴史、職能団体について理解する。	18	綱領13「公衆衛生」とは なぜ私たちに必要なのか 綱領14自分たちでできる「環境問題」への取り組み 綱領15まとめ		
4	国家資格とは何か、愛玩動物看護師法について理解する。	19	生命倫理の4原則について学ぶ。安楽死とは何かを理解する。		
5	ナイチンゲールとヘンダーソンの看護理論について学ぶ。	20	安楽死はどのような場合に選択されるべきか考える。(グループワーク)		
6	医療と看護の違いについて学ぶ。インフォームドコンセントの重要性を理解する。	21	安楽死に関して動物看護師が知っておきたいことを理解する。		
7	動物看護の対象とその役割、アビリティーモデルについて学ぶ。	22	グリーフワークの理解とグリーフケアで自分たちができること(ペットロス含む)を考える。		
8	動物看護過程の定義とその必要性について理解する。	23	看護倫理原則とは何か理解する。		
9	看護計画の立案方法と記入方法について理解する。	24	援助者として目指すべき人格とは何か理解する。		
10	倫理綱領1「動物の権利・アニマルニーズ・5つの自由などについて」を学ぶ。	25	ケアの倫理とは何か理解する。		
11	倫理綱領1「動物の福祉とは？愛護とは？動物看護師が関わる動物は？」を学ぶ。	26	倫理問題とは何か(倫理問題の見極め・用語解説・分類方法)理解する。		
12	倫理綱領2「誠意をもって接するために必要な事とは？」(なぜ、動物福祉は必要か？グループワーク)2誠意 3信頼関係 4知る権利決定権 5守秘義務	27	「道徳的不確かさ」の事例検討を行う。		
13	倫理綱領3「信頼関係を成り立たせるために必要な事」、倫理綱領4「知る権利・決定権を尊重するためには？」を学ぶ。	28	倫理問題の事例検討(step1～3)を行う。		
14	倫理綱領5「守秘義務とは？守秘の範囲と方法とは？」を学ぶ。	29	倫理問題の事例検討(step4)を行う。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業内に提示した教科書の個所を熟読し、課題があれば期限までに課題を仕上げて提出する。 授業終了後にはその日のノートを教科書を踏まえてまとめ、分からない点は次回に質問できるようにする。				
教科書・テキスト	愛玩動物看護師の教科書第3巻(緑書房)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	期末筆記試験70%、グループワークへの参加意欲10%、提出物20 %で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物形態機能学実習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Anatomy and Phisiology of Animals	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	理学療法を行う上でのアセスメントの重要性を理解し、リハビリプログラムの組み立て、実践を行えるようにする 理学療法におけるアセスメント及び、動物の症状・病態を理解し、プログラムを組む				
到達目標	アセスメントからリハビリ計画を立て実践し、再アセスメントによる流れを理解する 病態を理解し、その動物に必要なリハビリ内容を考える				
授業計画(テーマ・内容)					
1	マッサージ 動物の骨格筋肉を学ぶ	16			
2	マッサージ 動物の皮膚について学ぶ	17			
3	マッサージ 動物の神経について学ぶ	18			
4	アセスメントⅡ 歩様検査・整形学的検査	19			
5	アセスメントⅢ 神経学的検査	20			
6	各論 マッサージ・ストレッチ	21			
7	各論 エクササイズ	22			
8	各論 物理学的治療	23			
9	プログラムの組み立て 動作評価	24			
10	プログラムの組み立て 評価に基づく理学療法プログラムの策定	25			
11	プログラムの組み立て プログラムの実施と再評価	26			
12	後期まとめ	27			
13	振り返り	28			
14	神経病 脳疾患	29			
15	まとめ 統一試験問題の予定	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜レポート等の課題を提示する				
教科書・テキスト	愛玩動物看護コアテキスト(ファームプレス)				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護実習・演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学実習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Animal Internal Medicine Nursing	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	動物看護師				
授業の概要・目的	犬や猫の日常的な健康管理や、内科診療に必要な手技を実践する 犬や猫の基本的な取り扱いから、日常的な健康管理とその手技を身に付ける 動物看護師、ドッグトレーナー、ペットショップなど様々なジャンルで必要となる基本的な技術・知識をより深く学び、実践的に使えるように学習を行う。				
到達目標	動物のバイタルサインの評価とカルテへの記録、動物への基本的な内科的処置を行えるようにする				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 看護実習室の使い方	16	ガイダンスと身体検査 授業のガイダンス。ならびに身体検査を行います		
2	犬の健康管理について 犬の健康管理について、犬舎掃除の仕方	17	ズーノーシス・環境衛生など 人と動物の共通感染症に関して学び、防疫、予防などに関して知識を深めます。		
3	動物看護師とは 動物看護師の在り方、仕事について	18	解剖学 ラットの解剖を行い、臓器の形態などを学びます		
4	カルテ 日常的に使われるカルテ用語	19	解剖学 ラットの解剖を行い、位置関係などを学びます		
5	カルテ 症例をもとにカルテを作成する	20	画像診断 レントゲン検査に関して学びます。		
6	保定・身体一般検査 基本的な保定、身体一般検査	21	画像診断 レントゲン解剖学を中心に放射線防護に関して学びます。		
7	小テスト これまでの授業の小テストを行う	22	血球検査 血球検査をまなびます		
8	保定・身体一般検査 様々な診察に合わせた保定と身体一般検査	23	血液生化学検査 血液化学検査機器の使い方、異常値の扱いを学びます		
9	保定・身体一般検査 道具を使った保定と身体一般検査	24	泌尿器疾患 代表的な泌尿器疾患と尿検査・検査の適応などを学びます。		
10	保定・身体一般検査 2人1組での保定、身体一般検査	25	消化器疾患 代表的な消化器疾患と便検査他の検査と異常の取り扱いについて学びます。		
11	猫 実習猫の当番について	26	眼科疾患・皮膚疾患 眼科疾患と皮膚科疾患の検査に関して学びます。		
12	猫 猫の保定と身体一般検査	27	神経疾患 代表的な神経疾患に関して学び、神経学的検査の意義と適応について学びます。		
13	猫 猫の保定と身体一般検査	28	循環器疾患 循環器疾患について学び、循環器系の検査に関して概要を学びます。		
14	まとめ	29	まとめ		
15	振り返り	30	振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。				
教科書・テキスト					
参考書	動物看護実習テキスト				
評価方法・基準	筆記試験/実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	基礎動物	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	生命倫理・動物福祉	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Welfare and Ethics	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	- 動物病院における福祉の考え方について、学び、考える、また事例を知る - グリーフケア、終末期医療、安楽死について学ぶ - トリアージや疼痛サインについて学ぶ - 動物看護師としての対応や考え方ができるようになる - 自分で考え、それを表現できるようになる				
到達目標	- 動物看護師としての対応や考え方ができるようになる - 自分で考え、それを表現できるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物看護師の役割/動物病院における福祉① 動物看護師とは、(愛玩動物看護師)について知る Five freedomsの観点から動物病院の福祉について考える	16			
2	動物病院における福祉②/実際の取り組み例 動物病院における福祉としてどの様な事ができるか、注意すべきか 事例をふまえながら知る	17			
3	ストレスとストレスサイン ストレスとは何か 動物のストレスサインにはどの様なものがあるか知る	18			
4	疼痛サイン、ケーススタディー 疼痛サインについて知る 様々な状況における、動物への接し方、保定について考察する	19			
5	高齢期と終末期のケア 高齢期と終末期のケア、QOLについて オーナーへの接し方について考える	20			
6	ケーススタディー 患者の気持ちを症例を通して知り、考え、 看護師としての対応を考える	21			
7	安楽死 安楽死についての知識を得、考察する	22			
8	ペットロスとグリーフケア① ペットロスとグリーフケアについての基本的な知識を得る	23			
9	ペットロスとグリーフケア② 動物が亡くなった際の看護師としての対応について考える	24			
10	緊急時の対応 トリアージの方法 緊急時における院内での対応について知る	25			
11	前期まとめの準備 前期まとめの対策と総まとめ グループ分け	26			
12	前期まとめ 総括的なまとめ	27			
13	振り返り① 質疑応答	28			
14	振り返り② グループワーク	29			
15	しつけと災害時について 必要なしつけと災害時の対応について知る	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	動物看護コアテキスト/ファームプレス				
評価方法・基準	・授業中のグループワーク、出席率、態度、課題及びに口頭試問の総合点				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		臨床動物看護		開講学科	動物高度医療科		
開講科目名		動物医療コミュニケーション		開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名		Animal Medical Communication		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名							
実務経験概要		勤務獣医師として動物病院のスタッフ研修・養成に従事。					
授業の概要・目的							
動物看護師として、飼い主及び従事する職場のスタッフからの信頼を得て、更に社会に貢献できる人材となるために必要なスキルを修得する。挨拶・身だしなみの重要性を理解し、言葉遣い、立ち居振る舞いなど、主に飼い主の対応に必要な基本を身につける。また、受付業務や飼い主への対応など、高頻度業務を実技で修得する。							
到達目標							
動物看護師は動物病院の顔となり、また、飼い主と獣医師を繋ぐとても重要なポジションとして従事することも多い。そのため動物医療を提供するチームの一員であることを自覚したうえで必要なスキルを修得し、適切なサービスマインドやビジネスマインドが発揮できる人材となる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	16	自己表現スキル(人間関係の持ち方・仕事で必要な表現技術)について理解する。				
2	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	17	様々な感情(感情の性質を学び『怒り』の感情を振り下げる)について理解する。				
3	第一印象・社会人のスキル(身だしなみ・健康管理)について理解する。	18	社会的スキル(来客対応・訪問時のマナー)について理解する。				
4	傾聴力(聴き方)・伝達力(伝え方)について理解する。	19	社会的スキル(文書作成・メールのマナー)について理解する。				
5	心に寄り添う、共感力の高め方について理解する。	20	社会人としての自覚(時間管理・健康管理・公私の区別・失敗した時など)について理解する。				
6	コミュニケーションスキル(ノンバーバルコミュニケーション)について理解する。	21	サービスマインド(動物病院におけるサービスマインド)について理解する。				
7	ビジネスマナー(敬語の種類)について理解する。	22	コミュニケーションのスキルアップを図り、社会人になるための準備をする。				
8	ビジネスマナー(敬語の使い方)について理解する。	23	受付・会計業務(高頻度業務についての知識・技術を深める)について理解する。				
9	ビジネス敬語に慣れて、使うことができるようになる。	24	高頻度業務の実技(グループワーク)を行い、理解を深める。				
10	臨床の現場での高頻度敬語について理解する。	25	高頻度業務の実技(グループワーク)を行い、理解を深める。				
11	履歴書の特性について理解する。	26	電話の掛け方・電話の受け方・電話の特性について理解する。				
12	履歴書の作成に必要な下準備について理解する。	27	電話の掛け方・受け方(グループワーク)を実践し、修得する。				
13	履歴書を作成する。	28	電話の掛け方・受け方(グループワーク)を実践し、修得する。				
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。				
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。				
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めた内容をもとにノートを作成する。					
教科書・テキスト		Hand-book of LIFE STYLE・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト					
参考書		なし。					
評価方法・基準		評価の割合は筆記試験65%、出席率及び課題35%で、最高評価点数を100とする。					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Animal Internal Medicine Nursing	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園 ワンツウクラブ」を設立。				
授業の概要・目的	動物病院で来院が多い犬や猫についてそれぞれの特徴、動物行動学を学ぶ。 犬の習性や犬種について知る。 問題行動について知り、その解決方法について広く学ぶ。 FCI10グループJKCに登録されている犬種を知り、その身体的特徴や行動習性の特徴を学ぶ。 これらの情報を学ぶことにより、より信頼される動物看護師として活躍できることを目指す。				
到達目標	動物病院に来院する犬や猫について行動学的見地から判断したり、対応したりすることができるような知識を適用することができる。 動物病院に来院が多い犬についてその名前や様々な犬種特徴を認識でき、その情報を活用することができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	挨拶、自己紹介、授業の目的・目標の確認、授業全般について理解する。	16			
2	犬種グループ(FCI/JKC)について理解する。血統書について理解する。	17			
3	1G 牧羊犬・牧畜犬の種類とその特徴について理解する。犬の役割について理解する。	18			
4	2G 使役犬の種類とその特徴について理解する。ペットロスについて学ぶ	19			
5	3G テリアの種類とその特徴について理解する。犬の法律(トラブル対処)について	20			
6	犬の維持行動。摂食行動、捕食行動ついて理解する。	21			
7	繁殖について。犬の交配について理解する。Ⅰ	22			
8	繁殖について。犬の交配について理解する。Ⅱ	23			
9	しつけ・トレーニングの基本。古典的条件づけ、オペラント条件づけを理解する。	24			
10	問題行動と総論1 問題行動の改善方法を理解する。	25			
11	問題行動と総論2 問題行動の改善のためのツールや環境設定を理解する。	26			
12	犬の問題行動について1 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	27			
13	犬の問題行動について2 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	28			
14	前期総合復習でさらに踏み込んだ理解を確認する。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。犬種カードを作成する。				
教科書・テキスト	人と動物の関係、動物の行動と健康管理・ジャパンケンネルクラブホームページ「世界の犬」				
参考書	なし。				
評価方法・基準	講義後レポートを提出、評価は講義後レポートと期末テスト内レポートで評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床栄養学	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Nutrition	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	獣医師免許取得後、勤務医として小動物臨床に従事ののち、現在は理学療法、食事指導、運動療法などのリハビリ診療を主に行っている。				
授業の概要・目的					
栄養(食餌)は生命維持に必要なだけでなく、健康に過ごすためにも重要なものである。また、食餌内容によって管理できる疾患も多い。現在は様々なペットフードが普及しているため、各個体の健康管理のためには食餌や栄養に関する正しい知識をもって、各個体、状態に合ったフードを選択しなければならない。動物医療に携わる者として、食餌を選択する飼育者に正しい指導ができる必要がある。本授業では栄養素やペットフードに関する基礎知識、疾患と食餌の関係について習得、理解することを目的とする。					
到達目標					
飼い主に食餌の選び方、与え方を説明できるようになる。各個体に食餌が合っているか評価ができるようになる。疾患に対する食餌療法について飼い主に説明、アドバイスができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	栄養の役割とバランスについて 動物(主に犬猫)の食性について	16	体格のチェックと体重管理 肥満		
2	消化・吸収・排泄物について 腸内細菌について	17	消化器疾患と食餌		
3	栄養素の分類 栄養素各論1(ビタミン及びミネラル)	18	食物アレルギーと食餌		
4	栄養素各論2(炭水化物)	19	皮膚疾患、糖尿病と食餌		
5	栄養素各論3(タンパク質・脂質)	20	下部尿路疾患と食餌		
6	栄養素各論4(水) エネルギー量の計算	21	慢性腎臓病と食餌		
7	ライフステージ別の食餌管理(成長期 維持期 高齢期)	22	心疾患、肝疾患と食餌		
8	ライフステージ別の食餌管理(避妊去勢手術との関係 妊娠) 様々な給餌法	23	その他の疾患と食餌(癌 甲状腺 痴呆 関節疾患)		
9	ペットフードとは(製造法、分類、工夫 など)	24	症例検討(様々な状態、状況における飼い主へのアドバイス)		
10	ペットフードの表示を読み解く	25	強制給餌 経口以外の栄養補給法		
11	ペットフードの選択方法	26	食べてはいけないもの、注意が必要なもの サプリメント		
12	嗜好性をあげる方法 フードの切り替え方法 飼い主へのアドバイス	27	手作り食について		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	配布資料、授業内容を自身でまとめる(レポートとしての提出あり) 授業内容の復習(小テストでの確認)				
教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布				
参考書	動物栄養学 日本動物看護職教会認定試験教本 (Inter Zoo) / 小動物の臨床栄養学 (Mark Morris Institute) / 基本からよくわかる犬と猫の栄養管理 (Inter Zoo) その他講義内で適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験、レポート提出、出席率、授業態度を合わせて評価。最高100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物薬理学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Pharmacology	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師として、臨床医療に長年従事				
授業の概要・目的	臨床の現場では欠かすことのできない薬物治療について、薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用や、代表的な薬物の作用、副作用を理解し、その必要性や、適応とされる病態、投薬時の注意点などについて知識を深める。				
到達目標	臨床の現場で使用される薬物の特性を学び、投薬前後での病態の変化にいち早く気づけるようになり、また、飼い主への服薬指導が的確に行えるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	薬物の基本知識(薬物治療の概念・薬理作用)について理解する。	16	神経系に作用する薬物(鎮痛薬・鎮静薬)について理解する。		
2	薬物の基本知識(薬物動態)について理解する。	17	神経系に作用する薬物(抗けいれん薬・問題行動治療薬)について理解する。		
3	薬物の有害作用(副作用・中毒作用・薬物アレルギー・薬物依存・耐性)について理解する。	18	呼吸器系に作用する薬物(鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬)について理解する。		
4	薬効に影響を与える因子について理解する。	19	循環器・泌尿器系に作用する薬物(血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬)について理解する。		
5	薬物の取り扱い(薬物の剤形の違い・投与方法)について理解する。	20	消化器に作用する薬物(制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬)について理解する。		
6	薬物の分類や法規を学び、毒薬・劇薬・麻薬などの取り扱い方を理解する。	21	代謝・内分泌に作用する薬物(糖尿病治療薬・甲状腺治療薬)について理解する。		
7	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	22	代謝・内分泌に作用する薬物(ステロイドホルモン)について理解する。		
8	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	23	血液・免疫系に作用する薬物(抗貧血薬・抗炎症薬)について理解する。		
9	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	24	血液・免疫系に作用する薬物(免疫抑制薬)について理解する。		
10	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	25	化学療法薬(抗菌薬)について理解する。		
11	神経系に作用する薬物(全身麻酔薬)について理解する。	26	化学療法薬(抗真菌薬)について理解する。		
12	神経系に作用する薬物(局所麻酔薬)について理解する。	27	化学療法薬(駆虫薬・殺虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。		
13	寄生虫に作用する薬物(原虫・蠕虫・衛生動物)について理解する。	28	化学療法薬(抗腫瘍薬)について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	伴侶動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Companion Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	みなせ動物病院開業獣医師 京都府乙訓郡を中心に、犬猫ならびにエキゾチックアニマルを中心とした臨床に従事				
授業の概要・目的	エキゾチックアニマルはペットとして飼われている歴史が浅く、飼育に関して不明な点が多い生物では繁殖させたり寿命を全うさせたりするどころか、長期飼育さえ困難なものもいる。栄養学なことや感染症など、飼育のための必要最低限な情報も不明な種は多い。そのため基礎的な知識の習得や設備投資を怠った状態で飼育開始するケースも見られる。こうしたことから動物病院などの現場へ就職を目指す学生は正しい知識を身につけてそれを伝えることができるようになる必要がある。本開講科目では動物病院に来院することが多いと考えられるエキゾチックアニマルを中心にそれら動物の生態・生理・飼育・疾病等について習得する。				
到達目標	エキゾチックアニマルの分類ができ、生態・飼育について飼い主に説明できるようになる。また、診察補助、入院した動物の管理ができるように生理学的特徴、疾病について理解する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	エキゾチックアニマルの概要について理解する。 ハムスターの形態・生理について理解する。	16	フェレットの形態・生理について理解する。		
2	ハムスターの飼育・疾病について理解する。 ハムスターの保定方法を習得する。	17	フェレットの特徴・飼育・疾病について理解する。		
3	マウス・ラットの形態・生理疾病について理解する。	18	鳥の分類・形態・生理について理解する。		
4	シマリスの形態・生理・飼育について理解する。	19	鳥の飼育について理解する。		
5	プレーリードッグの形態・生理・飼育について理解する。	20	鳥の診療・疾病について理解する。		
6	モルモットの形態・生理・飼育・疾病について理解する。	21	鳥の疾病について理解する。 小鳥の保定方法について実習する。		
7	ウサギの形態・生理について理解する。	22	ハリネズミの生態・生理・飼育・疾病について理解する。		
8	ウサギの飼育について理解する。	23	ミニブタの生態・飼育について理解する。		
9	ウサギの疾病について理解する。	24	ミニブタの疾病について理解する。 デグーの生態・生理について理解する。		
10	チンチラの形態・生理・飼育・疾病について理解する。	25	デグーの疾病について理解する。		
11	爬虫類の分類について理解する。 カメの飼育・疾病について理解する。	26	フクロモモンガの形態・生理について理解する。		
12	グリーンイグアナの基礎知識・疾病について理解する。	27	フクロモモンガの疾病について理解する。		
13	前期学習の動物の重要事項を復習する。	28	後期学習の動物の重要事項を復習する。		
14	前期学習内容の総括を行う。 ウサギの食餌管理について理解する。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	ウサギの保定・強制給餌 ウサギの重要事項のまとめ	30	ウサギ・フェレットの疾病、手術等について理解する。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト④（ファームプレス）				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。ただし、筆記試験の点数が50～59点の場合は出席率80%以上であれば60点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物繁殖学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal(Dog)Breeding	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック 開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事				
授業の概要・目的					
繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する。					
到達目標					
繁殖に関わるしくみを理解し、正しい繁殖と新生児の管理の知識と技術を伝えることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	繁殖とは 繁殖の際に考えるポイント	16			
2	繁殖季節と発情周期 動物の性周期	17			
3	犬と猫の生殖器とその特徴	18			
4	犬の繁殖生理① 犬の性周期について	19			
5	犬の繁殖生理② 繁殖に関わるホルモン	20			
6	犬の繁殖生理③ 交配適期と膣スメア検査	21			
7	猫の繁殖生理 猫の性周期	22			
8	交配様式と妊娠診断	23			
9	妊娠中の健康管理	24			
10	分娩と介助	25			
11	新生仔のケア	26			
12	遺伝とは① 遺伝の基礎知識	27			
13	遺伝とは② 遺伝性疾患	28			
14	遺伝とは③ 毛色遺伝子	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト(ファームプレス)				
参考書	認定動物看護師教育コアカリキュラム準拠 (エデュワードプレス)・愛玩動物看護師の教科書 (緑書房)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物介護	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Animal Care	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	小動物を中心とした臨床獣医師として、多数の動物病院での診療に従事。				
授業の概要・目的					
犬の骨格、筋肉について学ぶ。実際に触って、感覚、大きさ等を確認める					
到達目標					
犬の骨格、筋肉を理解し、理学療法に必要な知識を学ぶ。実際の犬を触り、体のつくりや動きなどを学ぶ。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	プレゼンテーション能力の重要性	16	介護グッズの企画書作成、企画プレゼンテーション		
2	老齢動物の疾患と飼い主ケアについて	17	介護グッズの試作		
3	眼科について	18	介護グッズの試作		
4	歯科について	19	介護グッズの試作		
5	変形性脊椎症について	20	眼科疾患のグッズ試作		
6	椎間板ヘルニアについて	21	眼科疾患のグッズ試作		
7	乳腺腫瘍について	22	眼科疾患のグッズ試作		
8	心不全について	23	歯科疾患のグッズ試作		
9	腎不全について	24	歯科疾患のグッズ試作		
10	前立腺肥大について	25	整形疾患のグッズ試作		
11	子宮蓄膿症について	26	整形疾患のグッズ試作		
12	ホルモン性疾患について	27	整形疾患のグッズ試作		
13	痴呆症について	28	総復習(整形外科に関するまとめ)		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の後期総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①～⑥(ファームプレス) / 動物看護実習テキスト(インターズー) / イラストでみる犬の病気・猫の病気(講談社)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	実技試験・筆記試験・出席率から総合的に評価を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学実習	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Examination I	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	小動物臨床経験15年				
授業の概要・目的	動物病院にて、動物看護師として働くための最低限の知識を身につける。				
到達目標	動物病院にて、動物看護師として働くための最低限の知識を身につける。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	身体検査について	16	レントゲン(腹部、胸部)		
2	採血法と保定法について	17	レントゲン(骨格)		
3	CBC、血液塗抹 ①	18	超音波検査		
4	CBC、血液塗抹 ②	19	CT、MRI検査、内視鏡		
5	生化学検査 ①	20	筋骨格の解剖		
6	生化学検査 ②	21	神経学的検査		
7	クロスマッチ、凝固系検査	22	整形外科的検査 ①		
8	尿検査 ①	23	整形外科的検査 ②		
9	尿検査 ②	24	耳垢検査、外耳洗浄		
10	便検査 ①	25	歯、歯周疾患、口腔疾患		
11	便検査 ②	26	眼科検査		
12	皮膚検査、シャンプー	27	包帯法、腹帯		
13	血液検査の復習	28	動物の理学療法		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の後期総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技試験・筆記試験・出席率から総合的に評価を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	実験動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Experimental Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。				
授業の概要・目的	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。				
到達目標	実験動物の基礎について知る。実験動物の制御(コントロール)と疾患モデル動物について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	実験動物とは何か(1)を理解する。	16			
2	実験動物とは何か(2)を理解する。	17			
3	実験動物とは何か(3)を理解する。	18			
4	小動物とは何かを理解する。	19			
5	小動物の主な種類について理解する。	20			
6	小動物の特徴について理解する。	21			
7	中動物とは何かを理解する。	22			
8	中動物の主な種類について理解する。	23			
9	中動物の特徴について理解する。	24			
10	大動物とは何かを理解する。	25			
11	大動物の主な種類について理解する。	26			
12	大動物の特徴について理解する。	27			
13	SPFなど特別な飼育法について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生・関係法規	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物感染症学	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infectio	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大阪市のはる動物病院、堺市のクッキー動物病院にて鍼灸漢方専門外来を担当、鍼灸漢方の専門病院「どうぶつのハーモニーケアOHANA」を開院し東洋医学やナチュラルケアによる診療を日々行っている。				
授業の概要・目的					
・代替医療(ナチュラルケア・ホリスティックケア)についての理解を深め、自分に何ができるのかを考えオーナーへのサービススキルの一環として説明・実践できるような知識と技術を学ぶ。					
到達目標					
・代替医療の種類について学習・理解し、オーナーに説明できるようにする。 ・ナチュラルケアの知識と技術を習得して、獣医でなくてもできる範囲についてはオーナーへ提供できるようにする。 ・担当犬に対して、自分のできる範囲で適切なケアを行えるようにする。 ・オーナー向けにマッサージやアロマセラピーなどの教室を開催できるようにする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	東洋医学の概要と自分の体質チェック	16	前期総復習		
2	東洋医学の概要・鍼灸デモンストレーション	17	腎経・膀胱経①		
3	陰陽の考え方	18	腎経・膀胱経②		
4	八綱弁証	19	心経・小腸経 / ツボ実習		
5	気血水の考え方①	20	脾経・胃経		
6	気血水の考え方②	21	肝経・胆経		
7	五行の考え方①	22	肺経・大腸経 / ツボ実習		
8	五行の考え方②	23	灸について、灸実習		
9	東洋医学的体質診断まとめ	24	臓腑弁証まとめ		
10	経絡経穴	25	臓腑弁証まとめ		
11	四診(舌診・脈診)	26	犬の生物学的適切な食事とは		
12	漢方薬膳について	27	理想の食事を作ってみよう(実習)		
13	薬膳作り実習	28	後期まとめ		
14	前期試験	29	後期試験		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準					
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物外科看護学	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Surgery Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	2011年3月から2018年7月まで大阪府内の動物病院に勤務し、看護主任・広報部長を務め、飼い主向けシニア教室の開催に尽力。 2018年7月から兵庫県姫路市にてCon tuttiーコントゥッティーを開業し、飼い主向け訪問シッター・介護サービス、動物病院向けセミナーを展開。				
授業の概要・目的					
犬や猫の幼齢期・高齢期特有の健康管理や看護方法を理解・熟知することは、動物看護師が獣医療の場面で獣医師をサポートしながら、動物のライフステージに合わせた入院中の環境作り・食事管理・精神的なケア・飼い主へのアドバイスを行う上で不可欠なものである。幼齢期では身体的・精神的な著しい成長が見られるが、その中でも新生仔期の哺育技術や、成長期の社会化に合わせた対応方法を学ぶことは、幼齢動物が健全に成長し看護を行うために重要な知識となる。また、高齢期では長寿化・高齢化の影響から起こる疾患に合わせた看護や介護、終末期のケアを、高齢動物や飼い主が体力的・精神的に負担を減らしながら行うことができるよう介助するための知識や技術が必要となる。動物病院での診察補助・入院管理・飼い主の在宅看護の場面で、幼齢・高齢動物の特徴に合わせた看護の知識・技術を理解する。					
到達目標					
犬や猫の生涯のうち幼齢期と老齢期という対極にあるライフステージの基本知識を学び、動物病院での診察補助・動物の取り扱い・入院管理・飼い主とのコミュニケーションに応用する。幼齢期・高齢期特有の注意すべき病態やケア方法を学び、動物の異常に気づくための知識を習得する。入院管理や在宅看護に生かす高齢期の看護・介護の仕方や終末期のサポート方法を理解する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	犬や猫の出生から看取りまでの一連のライフステージを理解する。	16	高齢犬・猫が抱える痛みとケアについて理解する。		
2	犬と猫の幼齢期の特徴に合わせた体の取り扱い・健康チェックの仕方・衛生管理を理解する。	17	高齢犬の心臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
3	犬の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・技術を理解・習得する。	18	高齢犬・高齢猫の腎臓疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
4	子犬期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方を理解し、実践する。	19	高齢犬・高齢猫の腫瘍疾患を通して在宅看護や入院看護・管理を理解する。		
5	猫の出生から新生仔期にまつわる看護ケア・哺育技術を理解・習得する。	20	高齢犬・猫の介護が必要な体の状態・疾患・障害を説明できる。		
6	子猫期の食事内容の特徴・食事量の計算・あげ方(離乳食)を理解し、実践する。	21	高齢犬・猫の認知機能不全症候群の症状や進行を抑えるための対策を説明できる。		
7	幼齢犬・幼齢猫によくある病態・疾患を理解し、受け入れから入院管理まで理解する。	22	高齢犬・猫の食事内容の特徴を理解し、食事の介助方法を実践できる。介護に役立つグッズの活用方法を理解する。(犬4)		
8	犬と猫の老化(体の変化)について学び、老化によって起こる日常生活の変化を説明できるようになる。	23	高齢犬・猫の介護方法(歩行・排泄の介助)と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。(犬4)		
9	高齢犬・猫の体の取り扱い方や、整えるべき基本的な飼育環境・入院環境について理解する。	24	寝たきりの高齢犬・猫の介護方法と介護に役立つグッズの活用方法を理解し実践できる。		
10	高齢犬・猫の老化する体に合わせた入院中のお手入れ方法・健康管理・健康チェックの仕方を理解する。	25	幼齢動物・高齢動物のエマージェンシーや急変が起こりやすい場面と看護について理解する。		
11	高齢犬・猫の予防医療とよくある病気を知り説明できるようになる。	26	犬や猫の終末期ケアと安楽死について理解する。		
12	高齢犬・猫の在宅看護が必要になるよくある疾患と看護方法を理解する。	27	犬や猫の終末期に直面した飼い主へのサポートや遺族ケアについて理解する。		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に行う理解度を深めるための小テストでの復習を行う。授業内容のメモや実習内容を振り返ってノートの作成を行う。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①～⑥ (ファームプレス)				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、授業中に行う小テスト10%、課題10%、出席率10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物外科看護学実習	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名		開講期間	通年	必選区分	必修
	Practice of Animal Surgery Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	小動物を中心とした臨床獣医師として、多数の動物病院での診療に従事。				
授業の概要・目的	外科治療の補助に必要な基礎知識および外科における衛生感の獲得を目指し、それらを利用した安全確実な術前の準備や術中補助、術後管理を習得する。麻酔についても基礎的な知識やその選択についても学習し動物看護において要求される可能性の高い麻酔監視の要点や助手としての手術補助に耐えうる知識を身に付け、現場で実践出来るように、反復学習および確認のテストなども含めて進めていく				
到達目標	実習ですべての外科に対応できるわけではないが、実習を利用し応用の利くように基礎的な外科知識を身に付け、現場でのインプット及びアウトプットがスムーズに行えるようになることを目標とする				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 外科とは 犬の扱い及び保定について	16	看護計画の策定について		
2	小型犬、猫の保定を習得する	17	周術期の動物の痛みについて		
3	術着とドレープの準備 オペモニターについて	18	入院管理について		
4	器具について その用途名称を身につける	19	入院時の衛生管理について		
5	ここまでの確認	20	チューブフィーディングについて		
6	助手について	21	周術期に起こりうる緊急対応について		
7	術前の準備について 手洗い法など	22	麻酔のリスクとは		
8	麻酔について① 輸液や留置準備、気管挿管について	23	歯石除去の手順について		
9	麻酔について② 麻酔に用いる薬剤などについて 心肺蘇生について	24	去勢手術時の補助について実際のシミュレーション		
10	不妊手術の術式について	25	去勢手術		
11	鎮静処置について	26	避妊手術時の補助について実際のシミュレーション		
12	ここまでの確認	27	避妊手術		
13	実際の麻酔処置について	28	抜歯の準備と手技について		
14	前期の内容の振り返り	29	後期振り返り		
15	生体への麻酔についての実際の準備の反復訓練	30	術後の管理についてのインフォームについて		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準					
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学各論	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Itemized Theory of Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	かしはら動物病院開業獣医師 奈良県橿原市を中心に、小動物（主に犬と猫）診療に従事				
授業の概要・目的					
主に犬と猫によくみられる疾患についての正しい知識(疾病の概要・症状・原因・検査・治療等)を学び、それを基礎にして動物看護師として、よりよい看護計画を作成することができるようになることを目的とする					
到達目標					
①主に犬猫の色々な疾患に対する正しい知識の習得を第一の目標とする。 ②疾患についての正しい知識を基礎に、それぞれの症例に合わせた最良の看護計画を作成し、それを実践できるようにする。 ③愛玩動物看護師国家試験に合格出来るレベルの知識を身に着ける					
授業計画(テーマ・内容)					
1	①1年間の授業についてのガイダンス ②循環器系の機能形態学復習	16	①泌尿器系の機能形態学復習 ②泌尿器系疾患 総論（症状 ・ 検査などについて）		
2	循環器系疾患 総論（症状 ・ 検査 などについて）	17	泌尿器系疾患 各論（上部尿路 ・ 下部尿路の疾患）		
3	循環器系疾患 各論 ①（急性循環不全 ・ 僧帽弁閉鎖不全症 ）	18	①生殖器系の機能形態学復習 ②生殖器系疾患 総論（症状 ・検査 などについて）		
4	循環器系疾患 各論 ②（心筋症 ・ F症）	19	生殖器系疾患 各論（オスの生殖器系疾患 ・ メスの生殖器系疾患）		
5	循環器系疾患 各論 ③（胎子循環と先天性心疾患）	20	①泌尿生殖器系疾患総括(小テスト) ②神経系の機能形態学復習		
6	①循環器系疾患総括(小テスト) ②呼吸器系の機能形態学復習	21	①神経系疾患 総論（症状 ・検査などについて） ②神経系疾患 各論 ①（脳の疾患）		
7	①呼吸器系疾患 総論（症状 ・ 検査 などについて） ②呼吸器系疾患 各論 ①（胸膜滲出 ・ 上部気道の疾患）	22	神経系疾患 各論 ②（脊髄疾患）		
8	呼吸器系疾患 各論 ②（下部気道の疾患）	23	①神経系疾患総括(小テスト) ②内分泌系の機能形態学復習 ③内分泌系疾患 総論（症状 ・ 検査などについて）		
9	①呼吸器系疾患総括(小テスト) ②消化器系の機能形態学復習	24	内分泌系疾患 各論 ①（甲状腺 ・ 副腎の疾患 ）		
10	①消化器系疾患 総論（症状 ・ 検査 などについて） ②消化器系疾患 各論 ①（口腔 ・ 食道 ・ 胃 ・ 腸管の疾患）	25	内分泌系疾患 各論 ②（下垂体 ・ 上皮正体 ・ 膵臓の疾患）		
11	消化器系疾患 各論 ②（肝臓 ・ 膵臓の疾患	26	①内分泌系疾患総括(小テスト) ②眼球とその付属組織の機能形態学復習 ③眼科疾患 総論（症状 ・ 検査などについて）		
12	①消化器系疾患総括(小テスト) ②運動器系の機能形態学復習	27	眼科疾患 各論（角膜疾患 ・ 水晶体疾患 ・ 網膜疾患など）		
13	①運動器系疾患 総論（症状 ・ 検査 などについて） ②運動器系疾患 各論 ①（骨折 ・ 関節周囲の疾患）	28	①血液・免疫系疾患 総論（血球と免疫細胞についての復習） ②血液・免疫系疾患 各論（貧血 ・ 自己免疫疾患など）		
14	運動器系疾患 各論 ②（靱帯の疾患 ・ 骨腫瘍 ・ 関節炎）	29	①皮膚の機能形態学復習 ②皮膚科疾患 総論（色々な皮膚病巣について） ③皮膚科疾患 各論（細菌性皮膚疾患 ・ アレルギー性皮膚疾患など）		
15	①運動器系疾患総括(小テスト) ②前期授業内容の総括	30	①眼科疾患・血液免疫疾患・皮膚科疾患総括(小テスト) ②後期授業内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業前に各自でテキストの内容を確認し、毎回の授業に臨むこと。またさらに授業終了後はテキストをもう一度確認して、学んだ知識の定着をすることが望ましい。				
教科書・テキスト	作成したオリジナルのテキスト(プリント)を使用する。				
参考書	イラストでみる犬の病気（講談社）／イラストでみる猫の病気（講談社）				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験60%、授業内小テスト20%、出席率及び授業態度20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Examination	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	認定動物看護師／アニマルサポートオフィス・ミーチョ 代表／(社)ペットマッサージ協会認定 ペット東洋医学アドバイザー 日本動物看護学会 理事／(一社)関西動物看護教育研究会 代表／(一社)日本ペットサービス研究会 理事				
授業の概要・目的					
看護を行うためには、数多くの知識と多角的な視点が必要であり、また、それらを統合し考える能力も必要となる。 本科目では様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、検査や治療に関する基本的な知識を習得・整理したうえで、罹患動物に対する検査・治療・入院それぞれの安全と安楽を守るための思考回路を確立する。					
到達目標					
罹患した動物の安全・安楽を考えた看護の具体策を立案できる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	各疾病の動物看護師としての視点、アセスメント方法について理解する。	16	運動・神経機能障害(それぞれの症状の特徴)とは何か理解する。		
2	循環機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	17	運動・神経機能障害の代表的な疾患の確認を行う。検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。		
3	循環器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	18	運動・神経機能障害における看護の観察項目と具体策について考える。		
4	循環器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	19	リハビリテーションの目的・種類・効果について理解する。		
5	循環器疾患の動物の看護目標と観察項目について学ぶ。	20	排泄機能障害とは何か、多飲多尿を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。		
6	循環器疾患の看護の具体策について考える。	21	多飲多尿の動物に対する看護の具体策について考える。		
7	呼吸機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	22	下痢・便秘を引き起こす疾患とそのメカニズム・治療について理解する。		
8	呼吸器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	23	下痢・便秘の動物に対する看護の具体策について考える。		
9	呼吸器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	24	繁殖機能障害とは何か理解する。繁殖に関する基礎知識の確認を行う。		
10	呼吸器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	25	潜在精巣・前立腺肥大・子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の疾病機序・治療について理解する。		
11	消化機能障害とは何か理解する。循環器の役割の確認を行う。	26	子宮蓄膿症・乳腺腫瘍の看護について理解する。		
12	消化器疾患における看護上の問題点とそのメカニズムについて理解する。	27	胆がん動物における看護の留意点について理解する。		
13	消化器疾患の検査・治療における看護上の問題点・注意点について理解する。	28	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の疾病機序・治療について理解する。		
14	消化器疾患の動物の看護目標と観察項目、看護の具体策について考える。	29	甲状腺機能異常・副腎皮質機能異常・糖尿病の看護の具体策について考える。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	前回の授業の予告に伴い、1年次に学習した内容から関連個所の予習を行う。 授業終了後には自信を持って説明できない箇所に関して、次回に質問ができるようにノートをまとめる。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥ (ファームプレス)				
参考書	臨床動物看護学 各論 (インターズー)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率10%、積極性20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物・入院管理	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学総論	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Integrated Animal Clinical Nursing	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	動物看護師として長きに渡り小動物を中心とした臨床現場に従事。また、救急医療などにも精通し、多数の動物病院スタッフ教育にも携わっている。				
授業の概要・目的	コミュニケーション能力を上げ、受付でのオーナー様対応を実践形式で学び習得し、働きやすい人間関係を構築できるようになる。また、衛生管理や顧客管理についても学ぶ。				
到達目標	院内でのスムーズなコミュニケーションと、明るく落ち着いたオーナー様対応ができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物病院の現場、動物看護師の働きについて把握する。院内コミュニケーションの重要性とチーム医療について理解する。	16	待ち時間に対するクレーム対応を習得する。		
2	身だしなみについて学ぶ。衛生管理①(感染とは何か、院内清掃について)を理解する。	17	診療費に対するクレーム対応を習得する。		
3	衛生管理②(洗浄、消毒、滅菌、手洗いについて)を理解する。	18	治療や看護対応へのクレーム対応を習得する。		
4	受付業務、カルテ(顧客)管理について理解する。	19	受付・電話対応(接客)へのクレーム対応を習得する。		
5	受付(来院時:初診、再診、予防、病気、吠える犬、大型犬、猫)の対応を習得する。(ロールプレイング)	20	入院看護記録の必要性和書き方について理解し、習得する。		
6	受付(会計時:ワクチン接種、予防(ノミ、ダニ、フィラリア)後、薬の説明)を習得する。(ロールプレイング)	21	入院患者の面会対応を習得する。		
7	電話対応①フード・薬の注文、予防についての問合せ、業者対応を習得する。(ロールプレイング)	22	慢性疾患に対してのグリーフケアを習得する。		
8	電話対応②病気、手術(避妊、去勢、その他疾患)の問合せについて習得する。(ロールプレイング)	23	術後または麻酔下検査後状態悪化した場合のグリーフケアを習得する。		
9	ワクチン接種時、消化器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	24	癌患者に対してのグリーフケアを習得する。		
10	泌尿器疾患、皮膚疾患(皮膚・耳)についての問診を習得する。(ロールプレイング)	25	急死、突然死に対してのグリーフケアを習得する。		
11	神経疾患、眼科疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	26	犬猫の避妊去勢のメリット・デメリットについて飼主様へ説明できるようになる。		
12	整形疾患、口腔疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	27	犬猫のワクチン接種についての説明、ワクチン接種後の注意事項の説明をスムーズにできるようになる。		
13	循環器疾患、呼吸器疾患についての問診を習得する。(ロールプレイング)	28	ノミ・ダニ予防を飼主様へ推奨し、スポットタイプの予防薬については使用方法の指導ができるようになる。		
14	疾患を予測しながらの問診を練習し、実際に行う現場での問診を習得する。	29	フィラリア予防について分かりやすく説明できるようになる。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑤ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は口頭試問50%、出席率25%、授業態度25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	臨床動物看護	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物内科看護学	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Animal Internal Medicine Nursig	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	動物看護を行う上で基礎となる犬、猫の飼養管理について学び、実践する。犬、猫が健康を維持するためには正しい飼養管理を行う必要があり、動物看護師が行う日々の健康チェックや動物病院で動物看護師が主体となって行う処置や検査方法を学び、修得する。				
到達目標	犬、猫の日々の飼養管理を行うことで健康な動物の状態を知る。動物看護師として臨床看護に必要な知識、技能を身に付ける。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物看護を行う上での基礎を学ぶ。	16	尿検査の目的、方法について理解する。		
2	動物看護の職域・資格・社会での活躍について学ぶ	17	便検査の目的、方法について理解する。		
3	犬の取り扱い、保定の目的、方法を理解し、実践する。	18	注射器の取り扱い、注射法を学ぶ。		
4	犬の健康とは何か、健康診断の内容、目的を理解する。	19	採血の目的と方法を理解する。		
5	猫の取り扱い、保定の目的、方法を理解し、実践する。	20	採血時の保定を実践する。		
6	猫の健康とは何か、健康診断の内容、目的を理解する。	21	医薬品の取り扱い方法を学ぶ。		
7	カルテ用語、カルテの記入の仕方を学ぶ。	22	医薬品の投与方法を実践し、身に付ける。		
8	バイタルサインの測定と評価方法を学び、実践する。	23	輸液法(輸液準備、ラインのつなげ方)を学び、実践する。		
9	院内におけるチーム医療における動物看護師の役割を理解する。	24	輸液法(輸液の意味、必要性)を理解する。		
10	飼い主に向けたチーム医療における動物看護師の役割を理解する。	25	犬・猫の歯科知識を理解する。		
11	身体検査に必要な項目(歩様、意識レベルの評価)を学び、評価をする。	26	犬・猫の眼科科知識を理解する。		
12	身体検査に必要な項目(BCS、体表リンパの確認と評価)を学び、評価する。	27	犬・猫の皮膚科知識を理解する。		
13	身体検査・アセスメントを様々な犬で行い、健康な犬について学ぶ。	28	後期学習内容の総括を行う。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の振り返りを行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	保定・身体検査・アセスメントを実践する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト⑥(ファームプレス) / 動物看護実習テキスト(インターズー) / 楽しく学べる動物看護(インターズー)				
参考書	同上				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験にて、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルトレーニングⅡ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	AAA演習	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Asosited Activity	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
動物が人間社会で果たしている役割を学び、人と動物の関係を心理学的、及び社会学的側面から理解する。CAPP認定犬のテストの目的(人、犬)を学びトレーニングする。実際の活動の見学することで活動を理解し、実施に向けて取り組んで行けるよう参加していく。					
到達目標					
動物の福祉、ストレスを理解し、JAHAのCAPP認定犬を合格させる。AAAの必要性、重要性を理解し、活動の計画を立て施設で実施する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	AAAとは何かを理解できるようになる。犬の適正、活動の実際パワーポイント	16	訪問活動に行く心得。活動内容の計画を立て発表(活動する役、ボランティアと犬)。CAPP認定犬トレーニング		
2	活動にふさわしい動物。ボランティアの心得。AAAに参加する犬の基準	17	活動内容の計画を立て発表(活動する役、ボランティアと犬)。CAPP認定犬テストトレーニング。活動に向けてのトレーニング		
3	CAPP活動に参加する服装、接し方マナー。家庭犬として必要なマナートレーニング	18	「スズラン」に訪問活動に行く準備又はオンライン活動に向けて準備。Aグループ活動に向けて担当犬トレーニング		
4	活動中の犬のストレスサインとそのような症状が出た時の対処法。家庭犬マナーやレンジのトレーニング	19	Aグループ「スズラン」訪問活動。又はオンライン活動。Bチーム準備。CAPP認定犬トレーニング。活動に向けてトレーニング		
5	学習理論(古典的条件づけ)。家庭犬マナーチャレンジのトレーニング	20	Bグループ「スズラン」訪問活動又はオンライン活動。反省会。次回活動準備。CAPP認定犬テストトレーニング。活動に向けてトレーニング		
6	学習理論(オペラント条件付け)。家庭犬マナーチャレンジのトレーニング	21	「さくらら苑」「コスモス」「スズラン」訪問活動実施、又はオンライン活動の総括。 CAPP認定犬テストトレーニング		
7	「さくらら苑」見学する時の注意点。 家庭犬マナーチャレンジのトレーニング	22	「さくらら苑」次回実際の活動又はオンライン活動準備。CAPP認定犬トレーニング		
8	「さくらら苑」見学(グループA)活動が無い場合。オンライン活動準備	23	「さくらら苑」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Aグループ。反省会。担当犬トレーニング		
9	「さくらら苑」見学(グループB)又はAグループオンライン活動実施。Bグループ準備	24	「さくらら苑」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Bグループ。反省会。担当犬トレーニング		
10	実際の活動から学んだこと。実際の活動にどう取り組むか。又はBグループオンライン活動。オンライン活動反省会	25	「コスモス」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Aグループ。反省会。担当犬CAPP認定犬トレーニング		
11	「コスモス」実際の活動またはオンライン活動に向けての準備。	26	「コスモス」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Bグループ。反省会。担当犬CAPP認定犬トレーニング		
12	「コスモス」実際の活動又はオンライン活動Aグループ。反省会。 家庭犬マナーチャレンジ	27	「スズラン」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Aグループ。反省会。担当犬CAPP認定犬トレーニング		
13	「コスモス」実際の活動又はオンライン活動Bグループ。反省会。 家庭犬マナーチャレンジ	28	「スズラン」に訪問活動に行く。又はオンライン活動実施。Bグループ。反省会。担当犬CAPP認定犬トレーニング		
14	前期学習内容の総括を行う。家庭犬マナーチャレンジテスト	29	後期学習内容の総括を行う。担当犬CAPP認定犬テスト		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①（ファームプレス） / 最新犬種図鑑 写真で見る犬種とスタンダード（インターズー）				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は実技試験及び筆記試験をともに100点満点で実施し、総合的に評価を行う。最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	ナチュラルケア	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Natural Care	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	・代替医療(ナチュラルケア・ホリスティックケア)についての理解を深め、自分に何ができるのかを考えオーナーへのサービススキルの一環として説明・実践できるような知識と技術を学ぶ。				
到達目標	・代替医療の種類について学習・理解し、オーナーに説明できるようにする。 ・ナチュラルケアの知識と技術を習得して、獣医でなくてもできる範囲についてはオーナーへ提供できるようにする。 ・担当犬に対して、自分のできる範囲で適切なケアを行えるようにする。 ・オーナー向けにマッサージやアロマセラピーなどの教室を開催できるようにする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ホリスティックケアとは・ホリスティックケアとしてのマッサージとは？	16	ホリスティックケア復習、犬にとって理想の食事とは		
2	マッサージの効果効能について	17	ペットフード安全法		
3	マッサージ基礎解剖学(骨・筋肉)	18	ペットフードの表示		
4	リンパマッサージ基礎・	19	ペットフードの表示、手作り食の基本(カロリー計算)		
5	マッサージの基本テクニック(手技)	20	手作り食入門～犬のトッピング作り実習～		
6	ツボマッサージとは？目的に応じたツボマッサージ①	21	犬の栄養学に基づいた手作り食①		
7	目的に応じたツボマッサージ②	22	犬の栄養学に基づいた手作り食②		
8	目的に応じたツボマッサージ③	23	犬の手作り食メニューを考える		
9	部位別マッサージ、Tタッチの紹介	24	犬の手作り食実習		
10	ドッグアロマセラピー概要・実習	25	ケーススタディー(グループワーク)		
11	アロマ体質診断、実習	26	サプリメントについて、サプリメントの種類と使い方		
12	メディカルアロマセラピーとは、実習	27	犬に対するハーブの使用について(細野先生)		
13	前期まとめ	28	後期まとめ		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時間に適宜指示する				
教科書・テキスト	特になし				
参考書	特になし				
評価方法・基準	筆記試験、実技試験、出席日数率の平均値で評価する。最高100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Open Campus	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		トリミングⅠ		開講学科	動物高度医療科		
開講科目名		グルーミング実習		開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名		Practice of Basic Grooming		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
動物看護師は獣医師のアシスタントとして、様々な異常や病気を発見したり治療する上でのグルーミングの知識も必要になってくる。本開講科目では、犬における、爪切り～バリカン作業、シャンプー等のベーシック作業を習得すると同時に、犬の扱い方や健康状態の把握、病気の発見方法などもあわせて学ぶ。また実習を通して、人としての社会的常識や慣習、物事に取り組む姿勢なども身につけ、社会デビューへの意識と自信向上を目的とする。							
到達目標							
基本的なグルーミングの技術・知識を身につける。一般的によく飼われている犬種のシャンプー仕上げ、ベーシックは出来るようになる。また、人と協力し合うことや周りを見ながら効率よく動くことも身につける。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	実習時における注意点や1日の流れ、道具や用品について理解する。			16	前期実習内容の復習および小型長毛犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
2	グルーミングの概要について学び、モデルグルーミングを行う。			17	前期実習内容の復習および小型長毛犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
3	Mダックス、チワワなどのベーシック作業(バリカン以外)を行う。作業前の体調チェックと耳掃除を重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			18	小型長毛犬・プードルを含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
4	Mダックス、チワワなどのベーシック作業(バリカン以外)を行う。作業前の体調チェックと耳掃除を重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			19	小型長毛犬・プードルを含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
5	ベーシック作業(バリカン以外)を行う。爪きりを重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			20	小型長毛犬・プードルを含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
6	ベーシック作業(バリカン以外)を行う。爪きりを重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			21	小型長毛犬・プードルを含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
7	ベーシック作業(バリカン以外)を行う。ブラッシングとシャンプー・ドライングを重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			22	小型長毛犬・中型犬・大型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
8	ベーシック作業(バリカン以外)を行う。ブラッシングとシャンプー・ドライングを重点的に行う。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			23	小型長毛犬・中型犬・大型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
9	ベーシック作業(バリカン含む)を行う。バリカンの使用方法を理解する。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			24	小型長毛犬・中型犬・大型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
10	ベーシック作業(バリカン含む)を行う。バリカンの使用方法を理解する。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			25	小型長毛犬・中型犬・大型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
11	ベーシック作業(バリカン含む)を行う。バリカンの使用方法を理解する。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			26	ベーシック作業を行う。人の手を借りず一人で作業できるようにするための保定方法・体勢を身につける。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早く作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
12	小型長毛犬や中型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業をできるようにになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			27	ベーシック作業を行う。人の手を借りず一人で作業できるようにするための保定方法・体勢を身につける。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早く作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
13	小型長毛犬や中型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業をできるようにになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			28	ベーシック作業を行う。人の手を借りず一人で作業できるようにするための保定方法・体勢を身につける。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早く作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
14	小型長毛犬や中型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			29	ベーシック作業を行う。人の手を借りず一人で作業できるようにするための保定方法・体勢を身につける。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早く作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
15	小型長毛犬や中型犬を含むベーシック作業を行う。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早い作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。			30	ベーシック作業を行う。人の手を借りず一人で作業できるようにするための保定方法・体勢を身につける。なるべく犬に負担が少なく、かつ手早く作業ができるようになる。嫌がる犬の保定の仕方なども学ぶ。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。夏期休暇等の長期休暇に課題を与える場合あり。					
教科書・テキスト		初回配布資料					
参考書		なし。					
評価方法・基準		出席率、授業態度、提出物、技術習得度により総合点100点として評価する。					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名		プレゼンテーション		開講学科	動物高度医療科		
開講科目名		エコ教養Ⅰ		開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名		Human StudyⅠ		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
将来や学校生活においての目標を明確にし、目指す職業に就くための人間力を養い、社会で通用する社会人基礎力を身に着ける。学校生活をスムーズに送るための人間関係構築、スケジュール管理、業界への理解を深めるため、イベントの準備から運営、グループワークを通してのディスカッションやコミュニケーション能力の向上、制作の創意工夫や自ら考える力をつける。業界で最低限必要な犬の知識を学ぶ。							
到達目標							
学生自ら、(時間・スケジュール管理、健康管理、計画性など)あらゆる面において自己管理ができるようになる。クラスでの活動やイベントの取り組みを通して、人間関係を学び、精神的な成長を育んだり協調性を知り、社会で対応できるようになる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	学校のルール、スケジュール説明、自己紹介、クラスやイベント役割を決める。			16	後期スケジュール確認、競技会について 犬種クイズ⑦		
2	今後取り組むイベントについて説明し、理解をする。 学園祭①内容決め			17	スポーツフェスタについて① 決め事 犬種クイズ⑧		
3	将来の目標について考えるワーク 夢パネル作成			18	コミュニケーション技法① コンセンサスゲーム、グループワーク		
4	学園祭②企画書作成 犬種クイズ① クイズ形式で犬種についての知識を深める			19	スポーツフェスタ② 準備・制作物 犬種クイズ⑨		
5	海外研修ガイダンス① 海外研修の日程、行程、概要の説明			20	コミュニケーション技法② コンセンサスゲーム、グループワーク		
6	キャリアガイダンス① 業界について、就職について、合同企業説明会について			21	コミュニケーション技法③ コンセンサスゲーム、グループワーク		
7	学園祭② 準備 制作物、犬種クイズ④			22	コミュニケーションスキルアップ検定		
8	学園祭③ 準備 制作物、犬種クイズ⑤			23	犬種クイズ⑩		
9	海外研修ガイダンス② 費用、保険、持ち物について			24	We are ECO① 概要説明		
10	海外研修事前学習① テーマごとにグループを決め、調べたことを発表			25	キャリアガイダンス		
11	試験・単位取得・補習・追再試について 犬種クイズ⑥			26	We are ECO② 準備・練習、今年1年を振り返って		
12	海外研修ガイダンス③ 最終行程、保険回収、最終チェック			27	We are ECO③ 準備・練習		
13	キャリアガイダンス② 合同企業説明会、就職について			28	キャリアガイダンス 春休みの過ごし方について		
14	前期まとめ			29	後期まとめ		
15	前期振り返り			30	後期振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中や、事後学習として適宜課題を与える					
教科書・テキスト		なし					
参考書		なし					
評価方法・基準		満点を100点とする(出席率80%、犬種クイズ10%、提出物・イベント参加レポート10%)。					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	産業動物学	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Commercial Animal Studies	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。				
到達目標	家畜の種類と特徴について知る。主要家畜(馬、牛、綿羊、山羊、豚、鶏)の飼養管理法について知る。日本の畜産業の実際について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	産業動物の獣医学上の位置付けについて知る。	16			
2	動物の身体について復習を行う。	17			
3	牛の解剖と生理について理解する。	18			
4	牛の主な疾患について理解する。	19			
5	豚の解剖と生理について理解する。	20			
6	豚の主な疾患について理解する。	21			
7	馬の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	22			
8	綿羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	23			
9	山羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	24			
10	鶏の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	25			
11	魚類、ジビエなどについて理解する。	26			
12	栄養学としての産業動物について理解する。	27			
13	中毒について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	イベント研究	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	オープンキャンパス	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Open Campus	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	演習	時間数（単位数）	30（2）
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	企画、運営、予算管理を体験するとともに、人と協力して作業することの大切さを学びます。				
到達目標	イベントにおける企画や運営について説明できるようになる。簡単な予算管理ができるようになる。イベント運営を通じて他人との協調性を高める。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オープンキャンパスとは？ オープンキャンパスの目的意義を学ぶ	16			
2	企画会議① グループワークでそれぞれ企画を立案し、企画書を作成する	17			
3	企画会議② 各グループでプレゼンし、テーマを決める	18			
4	運営会議① 役割分担・スケジュールを決め、運営委員中心に実行する	19			
5	運営会議② 事前の準備や予算管理方法を学ぶ	20			
6	実施準備 制作物の作成①	21			
7	実施準備 制作物の作成②	22			
8	実施準備 接遇のトレーニング	23			
9	実施準備 装飾デザインを学ぶ	24			
10	実施前日準備 救急代作・避難経路の確認など安全対策を学ぶ	25			
11	イベント日① 1日目 実施と反省	26			
12	イベント日② 2日目 実施と反省	27			
13	後片付け アンケート集計	28			
14	振り返り アンケート結果によりイベントの振り返りと反省会	29			
15	総括 次年度の送り書作成	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	満点を100点とする（出席率50%、レポート課題50%）。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	愛護・適正飼養学	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	ペット関連産業概論	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Pet Allied Industries	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	経営の基本、マーケティングの基本、マネジメントの基本、物流と商流の基本、ディスプレイの基本を学習。 メーカー訪問・・・メーカーマーケティング/商品開発のレクチャー 卸企業訪問・・・問屋マーケティング/物流業としての在庫から出荷までの流れのレクチャー。 模擬店出店・・・学生自らがテーマ(コンセプト)を決めて、商品選定/POP/ポスター作製、陳列、接客販売を体験する。 独立開業の有無を問わず、業界人としてのスキルを身に着けることによって、社会人としての活躍の基礎となす。				
到達目標	○可能な限りの即戦力性の育成 ○自立性の育成				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ペット業界の現状を知ることにより理解を深める	16	経営の基本③ペットショップ、ペットサロン経営の基本的考え方		
2	物流、商流とは何か。物流の在り方と重要性/問題点	17	会社設立のためのプランニング		
3	日本の商習慣と業態別商流の問題点	18	マネジメントの基本①組織マネジメントとは		
4	メーカーマーケティング(メーカー訪問)	19	マネジメントの基本②自己管理、部下の管理、目標設定と計画立案、アクションとレビュー		
5	卸業マーケティング(卸企業訪問)	20	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。		
6	マーケティングの基本①価格ストラクチャーと粗利計算、商品知識	21	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。		
7	マーケティングの基本②ペットショップマーケティング	22	マーケティングの応用②ペット専門店のマーケティング。今後の国内専門店が目指すべき方向を考え、どのようなマーケティングを行えば良いかを導き出す。		
8	マーケティングの基本③ビジネスプラン/戦術(tactic)と戦略(strategy)	23	業界展示会見学(日本ウエイン株式会社を予定)		
9	ディスプレイの基本①ディスプレイとは何か。そのセオリーと役割	24	ドッグイベントでの模擬店出店準備① コンセプトと内容のプランニング		
10	ディスプレイの基本②ディスプレイの応用(校外でのショップ見学)	25	ドッグイベントでの模擬店出店準備②商品設定(ペット商事)		
11	ディスプレイの基本③ペットショップディスプレイ(ペットコロニーくずは店)	26	ドッグイベントでの模擬店出店準備③POP・ポスター作製		
12	経営の基本①経営とは何か。会社とは何か。株主・役員・社員の役割	27	ドッグイベントでの模擬店出店④接客販売体験		
13	経営の基本②マーケットに於けるペット業界の位置付けとその特殊性	28	WeareECO模擬店 コンセプトと内容の決定 商品選定(ペットコロニーくずは店)		
14	前期授業のまとめ	29	WeareECO模擬店 POP、ポスター作製		
15	振り返り	30	年間の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時に適宜課題を与える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	前期/筆記試験 後期/実技評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		関連法規		開講学科	動物高度医療科		
開講科目名		動物医療関連法規		開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名		Veterinary Laws and Regulations		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
認定動物看護師試験の範囲について学ぶと共に、動物看護師及び飼い主としても人や動物と向き合う上で必要な法律について学ぶ。							
到達目標							
・狂犬病予防法や動物愛護法、獣医師法などの各種法律の概要について理解できるようになる。 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み			16	動物愛護法(4)動物虐待の定義、罰則		
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要、狂犬病清浄国について			17	動物愛護法(5)周辺の生活環境の保全など		
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など□			18	動物愛護法(6)動物取扱業の概要 その1□		
4	狂犬病予防法(3) 対象動物、輸入禁止動物など□			19	動物愛護法(7)動物取扱業の概要 その2□		
5	狂犬病予防法(4) 飼い主と行政の義務、罰則など□			20	動物愛護法(8)動物取扱業の概要 その3□		
6	獣医師法(1) 獣医師法の概要、飼育動物の範囲			21	ペットフード安全法(1) 法の概要、ペットフードの範囲		
7	獣医師法(2) 獣医師の義務と権利 無診察診療の禁止など			22	ペットフード安全法(2) 表示義務など		
8	獣医師法(3) 獣医師の届出義務、罰則など			23	愛玩動物看護師法(1) 法の概要		
9	獣医療法(1) 獣医療法の概要、開院時の届出など			24	愛玩動物看護師法(2) 愛玩動物看護師の役割など		
10	獣医療法(2)獣医療分野における広告規制など			25	身体障害者補助犬法、家畜伝染病予防法		
11	動物愛護法(1) 動物愛護法の制定背景、法律の概要			26	廃棄物処理法、感染症法など		
12	動物愛護法(2)目的、基本原則、動物愛護週間など			27	外来生物法、ワシントン条約、鳥獣保護法		
13	動物愛護法(3)飼い主の責務、犬猫の引取りなど			28	薬機法、民法など		
14	前期学習内容の総括			29	後期学習内容の総括		
15	前期学習内容の振り返り			30	後期学習内容の振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に書き留めたメモなどからノートを作成する					
教科書・テキスト		なし。					
参考書		動物看護コアテキスト① (ファームプレス)					
評価方法・基準		評価の割合は、筆記試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	卒業研究	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	卒業研究	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Graduation Study	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	卒業研究作成に必要な基本的なノウハウについて習得する。同時に、各自もしくは各グループのテーマの決定とそれに伴う情報収集を行う。卒業研究のレベルアップとして、実験計画法もしくは研究法といった方法論と卒業研究に必要なデータの処理についても学習する。科学性と客観性に重点を置き、レポートとは異なるあくまでも論文形式であることを強調する。ただし、内容的には動物看護の枠組みの中での実学的なわかりやすいかつ質の向上を目標にした研究・実践報告としたい。				
到達目標	チームアプローチを目標に科学的視点から客観的に分析できる能力を身につけることを目標とする。卒業研究を通して、実践的な作業能力とデータ分析の仕方、問題意識を具体的な調査に反映するスキル、仮説演繹的思考力を高めることを目標とする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	卒業研究レポートの位置づけとどのように研究レポートを書き進めていくかの基本的考え方について理解する。	16	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
2	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。	17	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
3	実験、調査を進めていくうえでの、基本的なデータ分析の仕方について学習する。	18	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
4	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	19	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
5	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	20	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
6	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	21	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第3回中間発表を行う。		
7	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。第1回中間発表を行う。	22	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
8	研究テーマとその方向性から、研究の目的、仮説、方法について具体的に文章化しながら、その詳細を計画する。	23	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。		
9	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	24	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。卒業研究発表会に向けてのPPT作成及び論文作成に取り組む。第4回中間発表を行う。		
10	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	25	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
11	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	26	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
12	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。	27	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
13	研究目的から導かれる実験手続きを計画したり、目的に沿ったアンケート・質問紙を作成する。第2回中間発表を行う。	28	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
14	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。	29	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
15	データの集積と解析方法を検討しながら、実際のデータを解析する。	30	論文作成マニュアルに沿って論文を作成する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業までの1週間、研究グループ内での情報収集、予備調査・実験、本調査・実験、データの収集と分析を行う。(授業内で随時確認)				
教科書・テキスト	卒業研究論文作成マニュアル(竹花作成)				
参考書	研究テーマごとの論文				
評価方法・基準	評価の割合は卒業研究中間発表及び学科内最終発表、卒業研究制作の評価70%、授業内評価10%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物理学療法	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Animal Physiotherapy	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	理学療法はリハビリテーションの1項目として存在するが動物の理学療法はまだ未発展な分野であり、実施している病院も多くはない。しかし、その分の動物看護師の介入が大きく期待できる分野でもある。その為、動物理学療法の基礎を理解し適応症例の判断や基礎的なプログラムの作成を修得することで将来的に自身のアドバンテージとしてリハビリテーションを提案していく事が可能になる。また、動物理学療法を正しく理解する為には解剖学や生理学、疾患についての知識などの総合的な知識を得る事が必要となるため、将来的にリハビリテーションを行わない場合にも、必要な知識としてリハビリに関する総合的な知識を身につける。				
到達目標	リハビリに必要な基礎知識を理解し、基礎的なリハビリテーションを提案し、行えるようになる。理学療法を行ってはいけない症例や禁忌を理解し、判断できる知識を習得する。自分考えるリハビリテーションとはどのようなものかを明確に表現できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物理学療法について:理学療法とは何か?リハビリとはなにか?廃用と不動化について、リハビリテーションの必要性を理解する。	16	加温と冷却:温熱療法と寒冷療法・炎症についての基礎知識を理解し、実施できるようになる。		
2	骨学(前肢):前肢および上半身の骨格について理解し、触知できるようになる。	17	モダリティ:電気治療器やレーザー・超音波等の各モダリティの使用方法和用途を理解し、使用できるようになる。(学校にある道具の範囲で)		
3	骨学(後肢):後肢および下半身の骨格について理解し、触知できるようになる。	18	ダイエット:ダイエットについての基礎知識とリハビリにおいての必要性を理解し、ダイエットプログラムの作成を行えるようになる。		
4	関節学:関節の基本構造と各関節の仕組みを理解し、分類できるようになる。	19	水中療法:水中運動の適応とメリットデメリットを理解し、実際に行えるようになる。		
5	筋学(前肢):前肢および上半身の筋肉について理解し、触知できるようになる。	20	徒手療法:ストレッチやP-ROMの危険性と方法について理解し、基礎的な徒手療法の動きをできるようになる。		
6	筋学(後肢):後肢および下半身の筋肉について理解し、触知できるようになる。	21	バランスボール:バランスボールを使用しての、ストレッチやA-ROMの行い方を理解し、実施できるようになる。		
7	歩様について:正常な歩様と異常な歩様の歩様分類が可能になり歩行検査と跛行グレードの評価ができるようになる。	22	整形疾患1:代表的な整形外科疾患(膝蓋骨脱臼・前十字靱帯断裂・股関節形成不全)についての知識とそのリハビリについて理解し、説明できるようになる。		
8	周囲長:筋量測定の方法と周囲長について理解し、実際に測定できるようになる。	23	整形疾患2:代表的な整形外科疾患(レッグペルテス・骨折・前肢疾患)についての知識とそのリハビリについて理解し、説明できるようになる。		
9	関節可動域:関節可動域の必要性和測定方法を理解し、実際に測定できるようになる。	24	神経解剖学:神経の働きと考え方についての理解と神経学的異常を見極められるようになる。神経学的検査の方法を理解し、実施できるようになる。		
10	支持基底面:支持基底面と重心についての考え方を理解し、説明できるようになる。	25	神経疾患:代表的な神経疾患(椎間板ヘルニア等)についての知識とそのリハビリを理解し、実施・説明できるようになる。		
11	バランス運動について:バランス運動の必要性の理解と基礎的なバランス運動を行えるようになる。	26	高齢期リハ:シニア犬シニア猫の特徴と注意点を理解し、高齢期のリハビリプログラムを計画できるようになる。		
12	バランスボール:バランスボールの使い方を理解し、バランスボールを使った基礎的なバランス運動を行えるようになる。	27	プログラムの組み立て:実際のリハビリプログラムの組み立て方を理解し、実際の症例を想定してリハビリプログラムを提案出来るようになる。		
13	まとめ:前期で学習した内容のまとめと復習を行い、解剖学を理解した総合的な判断で基礎的な運動療法を行えるようになる。	28	まとめ:1年間で学習した内容のまとめと復習を行い基礎的な理学療法を理解した上で自分の考えるリハビリテーションを表現できるようになる。		
14	前期試験	29	後期試験		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。(カラーリングアトラスの色塗り)(リハビリプログラムの作成)(各疾患に対しての予習ノートの作成)				
教科書・テキスト	カラーリングアトラス(学窓社)・イラストで見る犬の病気(講談社)・イラストで見る猫の病気(講談社)・動物看護のコアテキスト				
参考書	授業中に適宜紹介				
評価方法・基準	筆記試験50%・授業内小テスト20%・出席点20%・平常点10%で最高点数を100点とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	エキゾチックアニマル	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Exotic Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。また勤務しながら夜間大学にて教員免許を取得しており、その後専門学校職員としての職に就いている。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。手掛ける分野はエキゾチックアニマル全般で、特にエキゾチックアニマルに造詣が深い。動物への多角的な視点で授業を行う。				
授業の概要・目的					
エキゾチックアニマルとはペット動物の中で犬と猫を除いたものと定義されることが多く、その対象種は多岐にわたる。これらの動物たちを理解するためには多角的な視点が必要である。授業ではハムスターやマウス、ハリネズミなどの小型哺乳類を基本とし、加えて爬虫類や両生類などのペット動物について、生態や分類などの飼育管理に応用できる知識を習得する。					
到達目標					
エキゾチックアニマルに対する正しい知識を持った飼育員となる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物の分類についての概要を学ぶ	16	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
2	ほ乳類の分類について体系的に学ぶ1	17	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
3	ほ乳類の分類について体系的に学ぶ2	18	雑食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
4	爬虫類両生類の分類について体系的に学ぶ1	19	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
5	爬虫類両生類の分類について体系的に学ぶ2	20	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
6	節足動物の分類について体系的に学ぶ	21	爬虫類の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
7	げっ歯類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する1	22	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する1		
8	げっ歯類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する2	23	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する2		
9	有袋類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する1	24	両生類の食餌について正しい知識と与え方を習得する3		
10	有袋類の飼育管理について正しい方法と知識を習得する2	25	餌動物の適正な取り扱い理論を理解する1		
11	肉食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1	26	餌動物の適正な取り扱い理論を理解する2		
12	肉食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2	27	エキゾチックアニマルにまつわる法規について理解する		
13	草食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する1	28	エキゾチックアニマルと社会との関りについて理解する1		
14	草食動物の食餌について正しい知識と与え方を習得する2	29	エキゾチックアニマルと社会との関りについて理解する2		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	動物に関するニュースに興味を持ち、各自で調べることを勧める。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	普段から飼育書や図鑑を読んでおくこと。インターネット上の情報を鵜呑みにせず学習に臨むことを期待する。				
評価方法・基準	合計100点とし、課題50%、出席率50%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ファーム演習	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Farm Animal Management	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	サファリパーク(秋吉台サファリランド)にて飼育員に従事、その後移動動物園を独立開業。				
授業の概要・目的	畜産飼養で学んだ知識をもとに、実際に畜産牧場や観光牧場において動物の飼育管理を行いながら、実践的に動物の取り扱いにおける技術を習得することを目的とする。また、乗馬施設において馬の飼育管理とともに騎乗技術も養う。 畜産・観光牧場業界の「ビジネスの仕組み」を理解し、マネージャーとして仕事をするための知識・技術を身につけ、次世代の観光牧場、畜産業界を担える人材の育成を目指す。				
到達目標	家畜動物の飼育管理における基礎知識・技術を習得し適正飼育することができるようになる。それに加え、基本的な乗馬知識を習得し騎乗できるようになる。 また、お客様に満足していただけるサービスや商品の開発について考えることができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	牧場施設の紹介	16	乗馬施設の紹介		
2	家畜動物の飼育管理(給餌)①	17	馬の給餌		
3	家畜動物の飼育管理(給餌)②	18	馬の健康管理		
4	家畜動物の飼育管理(健康管理)①	19	馬の衛生管理		
5	家畜動物の飼育管理(健康管理)②	20	厩舎の管理		
6	家畜動物の飼育管理(衛生管理)①	21	馬装の仕方		
7	家畜動物の飼育管理(衛生管理)②	22	騎乗訓練①		
8	家畜動物の飼育管理(飼育道具)	23	騎乗訓練②		
9	家畜動物の飼育管理(施設管理)	24	騎乗訓練③		
10	飼育管理作業①	25	騎乗訓練④		
11	飼育管理作業②	26	騎乗訓練⑤		
12	飼育管理作業③	27	騎乗訓練⑥		
13	サービス提案と商品開発①	28	騎乗訓練⑦		
14	サービス提案と商品開発②	29	接客とサービス		
15	これまでの学習内容の総括	30	これまでの学習内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	畜産飼養	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Feeding and Breeding Management for Domestic Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	獣医師として30年以上家畜の診療及び生産獣医療・予防獣医療に携わってきた。				
授業の概要・目的					
本講義の対象動物である家畜は、古代より最も密接にヒトと関わってきた動物であり、最も研究されてきた動物といっても過言ではない。したがって、家畜を学ぶことは全ての動物の飼育の基本につながるという。また、現在の畜産には、安全で栄養豊かな食料の生産に加え、生命とのふれあいや食体験などの学びの場としての役割も期待されていることから、家畜を正しく飼養し、健康を維持しながら生産性を向上させるための知識を修得する。					
到達目標					
家畜の飼育に必要な知識と技術を修得し、家畜の特性や飼育環境を理解するとともに、家畜の生産性の向上や合理的な家畜管理を図る能力を身につけ、実際の飼養管理に生かすことができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	家畜の定義・分類及び畜産の概要について理解する。	16	乳牛の特徴・身体各部の名称・発育と体形、体格・胃の構造と働き・栄養摂取のしくみについて理解する。		
2	馬の起源・仲間及び家畜としての利用について詳説できるようになる。	17	乳量と乳質・乳牛の生産サイクル・泌乳のしくみについて理解する。		
3	馬の主な品種とその特徴について理解する。	18	乳牛の性周期・生殖器の構造について説明できるようになる。		
4	馬の個体識別(毛色及び毛色の遺伝・白斑など)について説明できるようになる。	19	乳牛のエサの考え方・エサの種類・飼料作物・サイレージ・子牛の育成・糞尿の処理とその利用について理解する。		
5	馬の身体各部の名称・発育と体形、体格・栄養摂取のしくみについて理解する。	20	酪農家の一日の仕事・牛乳の処理と加工・乳質の改善と向上・牛舎の種類・経営形態とその特徴について概説できるようになる。		
6	馬のエサの考え方・エサの種類・子馬の育成並びに販売について理解する。	21	乳牛の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。		
7	馬の生産サイクル・生殖器の構造・繁殖障害・改良と選抜について理解する。	22	乳牛の改良と選抜・酪農の歴史・乳牛の品種・市乳の製造過程と流通経路を理解する。		
8	馬の飼育環境ときゅう舎・施設について詳説できるようになる。	23	肉牛の特徴・身体各部の名称・牛の扱い方・消化器の特徴と消化能力について詳説できるようになる。		
9	馬の歩様や馬特有の行動について説明できるようになる。	24	肉牛の生産サイクル・生殖器の構造・繁殖障害・肉牛の発育・肉質の決まり方・改良と選抜について理解する。		
10	馬の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について理解する。	25	肉牛のエサの考え方・エサの種類・繁殖牛の育成・素牛の選び方・糞尿の処理と利用について理解する。		
11	山羊の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	26	肉牛の管理・繁殖管理と肥育管理・牛舎の様式・経営形態とその特徴について説明できるようになる。		
12	綿羊の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	27	肉牛の健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。		
13	豚の特徴・身体各部の名称・品種・ライフサイクル・栄養摂取のしくみについて理解する。	28	胚移植とクローン技術について詳説できるようになる。		
14	豚のエサの特徴・改良と選抜・健康状態のチェック・病気の種類と症状、その治療法について説明できるようになる。	29	合理的な家畜管理を図るために自分の考えを述べることができるようになる。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	農学基礎セミナー(新版)家畜飼育の基礎 並河澄 著 農村漁村協会				
参考書	日本の家畜・家禽 小宮輝之 著 学研 その他授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率10%、受講態度10%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物園・水族館研究	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Study of Zoo & Aquarium	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園・水族館という博物館相当施設が成立した経緯について学び、それらがなぜ重要な社会インフラの一つとして現在も存在し続けているかを認識する。また、動物園・水族館で行わなければならない多岐にわたる業務内容の中でも、責任者として必ず身につけておかねばならない基礎知識を身につけることにより、動物園・水族館業務の即戦力となることを目指す。					
到達目標					
学生一人一人が各自の理想とする動物施設を構築し、そのために必要な業務を理解し、特に動物の福祉を念頭に置いた業務遂行ができるようになる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	世界の動物園の古代から現代に至るまでの歴史を理解する	16	過去の展示の歴史を学び、近代動物園において必要とされる展示方法を概説できるようになる。		
2	日本の動物園の現代にいたるまでの歴史を理解する	17	近代動物園の持つ社会的使命を全うするための展示計画の立案方法を身につけ解説できるようになる。		
3	世界の動物園と日本の動物園の社会における位置づけの違いを理解する	18	各テーマに基づいた展示方法を実施するうえで必要となる知識を理解し、説明できるようになる。		
4	天王寺動物園を例に日本の動物園の展示の歴史を理解する	19	展示を構成する動物たちが彼らの本来の生活に近い状況を飼育下環境で再現できる工夫を身につけ実践できるようになる。		
5	天王寺動物園で実施された展示計画を通して、具体的な展示形式について理解する	20	様々な展示技法を学び、それぞれのメリット、デメリットを上手に組み合わせる方法を概説できるようになる。		
6	天王寺動物園で実施されている展示を学び、展示におけるストーリー立ての重要性を理解する	21	環境エンリッチメントがこれまでどのようにして動物園の展示を充実させ、動物の福祉の向上に貢献してきたかを概説できるようになる。		
7	天王寺動物園で実施されている展示を通じて擬岩や擬木技術の重要性を理解する	22	環境エンリッチメントを分類し、それぞれのメリット、デメリットを十分に理解し概説できるようになる。		
8	天王寺動物園で実施されている展示を通じて動物生態学や植物生態学の知識の重要性を理解する	23	飼育環境改善の技法としての環境エンリッチメントを十分に理解し説明できるようになる。		
9	天王寺動物園で実施されている展示を通じて環境教育や環境エンリッチメントの重要性を理解する	24	飼育下環境という限られた環境の制約を軽減する手法としての環境エンリッチメントを概説できるようになる。		
10	天王寺動物園で行われている環境エンリッチメントを通して環境エンリッチメントを正しく理解する	25	展示室と比べると気づかれにくい寝室の環境エンリッチメントについてもしっかりと学習し概説できるようになる。		
11	動物園に関する国内法令や国際条約について学び、遵守すべき規制について理解する	26	環境エンリッチメントを実施するうえで衛生管理上の問題点を理解し概説できるようになる。		
12	現代における動物分類学を学び、展示に応用できるよう理解する	27	混合飼育、群れ飼育といった方法も環境エンリッチメントとなりえるが、それに伴うデメリットもしっかりと理解し、解説できるようになる。		
13	国際命名規約について学び、正しく展示に応用できるよう理解する	28	飼料を基にした環境エンリッチメントは効果的なものではあるが、実施する上で十分に理解しておかねばならないことを身につけ解説できるようになる。		
14	脊椎動物の分類について学び、展示に応用できるよう理解する	29	環境エンリッチメントを実施することにより可能となる定期的な健康診断ではあるがそれに伴うリスクを回避するための方法を理解し解説できるようになる。		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック動物園篇3概論・分類・生理・生態				
参考書	「動物園学」 文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物飼育演習Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Zoo Animal ManagementⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	約10年間ふれあい動物園にて運営及び飼育・トレーニングに携わる。2018年より理想のふれあいを目指し会社を設立し、動物カフェを経営。				
授業の概要・目的					
本開講科目では、実際に動物管理を行い、実践的に動物の取り扱いにおける知識・技術を得得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。					
到達目標					
動物の飼育管理における基礎知識・技術を得得し適正飼育することが出来るようになる。また、様々な動物種の飼育方法を、これまでの知見をもとに自分で考え工夫することが出来るようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育オリエンテーション(前期)	16	飼育オリエンテーション(後期)		
2	肉食動物の飼育管理全般 ※飼育管理全般:習性・給餌方法・健康管理・衛生管理・繁殖方法・保定・捕獲、飼育道具など	17	肉食動物の飼育管理全般		
3	肉食動物の飼育管理全般	18	肉食動物の飼育管理全般		
4	草食動物の飼育管理全般	19	草食動物の飼育管理全般		
5	草食動物の飼育管理全般	20	草食動物の飼育管理全般		
6	雑食動物の飼育管理全般	21	雑食動物の飼育管理全般		
7	雑食動物の飼育管理全般	22	雑食動物の飼育管理全般		
8	鳥類の飼育管理全般	23	鳥類の飼育管理全般		
9	鳥類の飼育管理全般	24	鳥類の飼育管理全般		
10	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	25	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
11	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	26	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
12	カメ類・両生類の飼育管理全般	27	カメ類・両生類の飼育管理全般		
13	カメ類・両生類の飼育管理全般	28	カメ類・両生類の飼育管理全般		
14	カメ類・両生類の飼育管理全般	29	カメ類・両生類の飼育管理全般		
15	学習内容のまとめと総括(前期)	30	学習内容のまとめと総括(後期)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物飼育演習Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Practice of Zoo Animal ManagementⅡ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	約10年間ふれあい動物園にて運営及び飼育・トレーニングに携わる。2018年より理想のふれあいを目指し会社を設立し、動物カフェを経営。				
授業の概要・目的					
動物飼育演習Ⅰで学習した動物種以外の動物を対象に、実際に動物管理を行い、実践的に動物の取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。					
到達目標					
動物の飼育管理における基礎知識・技術を習得し適正飼育することが出来るようになる。また、様々な動物種の飼育方法を、これまでの知見をもとに自分で考え工夫することが出来るようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育オリエンテーション(前期)	16	飼育オリエンテーション(後期)		
2	肉食動物の飼育管理全般 ※飼育管理全般:習性・給餌方法・健康管理・衛生管理・繁殖方法・保定・捕獲、飼育道具など	17	肉食動物の飼育管理全般		
3	肉食動物の飼育管理全般	18	肉食動物の飼育管理全般		
4	草食動物の飼育管理全般	19	草食動物の飼育管理全般		
5	草食動物の飼育管理全般	20	草食動物の飼育管理全般		
6	雑食動物の飼育管理全般	21	雑食動物の飼育管理全般		
7	雑食動物の飼育管理全般	22	雑食動物の飼育管理全般		
8	鳥類の飼育管理全般	23	鳥類の飼育管理全般		
9	鳥類の飼育管理全般	24	鳥類の飼育管理全般		
10	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	25	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
11	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般	26	トカゲ・ヘビ類の飼育管理全般		
12	カメ類・両生類の飼育管理全般	27	カメ類・両生類の飼育管理全般		
13	カメ類・両生類の飼育管理全般	28	カメ類・両生類の飼育管理全般		
14	カメ類・両生類の飼育管理全般	29	カメ類・両生類の飼育管理全般		
15	学習内容のまとめと総括(前期)	30	学習内容のまとめと総括(後期)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は課題50%、ノート50%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物繁殖生理	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Breeding and Physiology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	①サファリパークにて飼育動物全種の健康管理および診療(11年) ②JICA派遣:グアテマラ野生動物保護センターにて密猟野生動物の保護救護野生復帰の業務(2年) ③ 往診専門動物病院開業:展示動物動物、犬猫の診療および野生動物の不動化作業(12年目) ④岡山県家畜保健衛生所にて嘱託獣医師:家畜防疫作業および検査担当(15年目)				
授業の概要・目的					
希少動物の減少や野生動物の捕獲・導入が厳しくなっている現在、動物施設における展示動物の確保は急務の課題であり、飼育下での繁殖技術の向上が求められている。そのため、本授業では主に動物施設で飼育されている動物の繁殖に必要な知識を学ぶ。					
到達目標					
動物施設における繁殖業務の重要性を理解する。また、動物によって異なる繁殖技術と飼育技術を知り、動物繁殖の向上に貢献できる人材になる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物の生殖とメカニズム1	16			
2	動物の生殖とメカニズム2	17			
3	動物の繁殖行動1	18			
4	動物の繁殖行動2	19			
5	肉食動物の繁殖生理	20			
6	草食動物の繁殖生理	21			
7	有袋類の繁殖生理	22			
8	海洋動物の繁殖生理	23			
9	鳥類の繁殖生理	24			
10	人工繁殖1	25			
11	人工繁殖2	26			
12	人工哺育と人工孵化1	27			
13	人工哺育と人工孵化2	28			
14	栄養と飼料	29			
15	授業の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物の繁殖に関するニュースソースに目を通して理解し自分の考えをまとめる習慣をつける。				
教科書・テキスト	適宜資料を配付します。				
参考書	改定版 新・飼育ハンドブック 動物園編/水族館編				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験を100%とする。ただし、筆記試験結果が60点未満の場合、授業出席割合を勘案する場合もある。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物福祉	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Welfare	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	福祉に配慮した飼育・トレーニングをドッグトレーナーとして長年実践し、動物園・水族館の飼育員・トレーナーへの、動物福祉向上のための実践についての講義も多数行っている。				
授業の概要・目的					
近年、飼育動物の福祉に配慮した飼育・管理のあり方が、世界の動物関連施設で大きなテーマとなっており、日本でも例外ではない。本講義では、飼育動物の福祉(幸福)をテーマに、動物福祉をささえるサイエンスとしての行動分析学(応用行動分析)、行動分析学を応用したトレーニング(ハズバンドリートレーニング)、環境エンリッチメントについて正しい知識を身につけることを目的とする。					
到達目標					
福祉に配慮した飼育・管理について理解し、それを実践する上で必要な知識を身につける。応用行動分析に基づいた福祉実践とはどのようなものかについて、説明ができる。福祉の向上に必要な実践作業とはどのようなものかを理解し、それを説明できる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物福祉と応用行動分析	16	レスポナデント 応用編1		
2	行動の記述・三項随伴性	17	レスポナデント 応用編2		
3	正の強化・負の強化とその随伴性	18	ハズバンドアリー 1		
4	正の弱化・負の弱化とその随伴性	19	ハズバンドアリー 2		
5	消去と行動の原因	20	ハズバンドアリー 3		
6	正の弱化のリスク	21	行動的動物福祉 1		
7	弁別・般化・プロンプト	22	行動的動物福祉 2		
8	強化のスケジュールと行動連鎖	23	行動的動物福祉 3		
9	行動の記録 1	24	動物園における環境エンリッチメント(企画1)		
10	行動の記録 2	25	動物園における環境エンリッチメント(企画2)		
11	行動の機能と分化強化 1	26	動物園における環境エンリッチメント(実践1)		
12	行動の機能と分化強化 2	27	動物園における環境エンリッチメント(実践2)		
13	レスポナデント 基礎編1	28	動物園における環境エンリッチメント(実践3)		
14	レスポナデント 基礎編2	29	動物園における環境エンリッチメント(実践4)		
15	前期の総括・まとめ	30	後期の総括・まとめ		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	各回授業時に課題を配布する				
教科書・テキスト	各回授業時にパワーポイントを用いて説明する				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	・授業への積極的な参加(平常点)＋筆記試験の成績によって、総合的に評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物臨床検査演習	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Examination	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的					
動物施設で必要とされる様々な検査について理解し、スムーズに検査等の補助を行えるよう実践的に学ぶ。					
到達目標					
犬・猫を中心に様々な検査内容の基礎を理解し、多くの動物に応用できるようになる。また、検査結果から病態や疾患を推測できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物臨床検査とは(導入)	16			
2	カルテについて	17			
3	顕微鏡と使用方法	18			
4	血液検査演習	19			
5	尿検査演習	20			
6	便検査演習	21			
7	医療品と投薬	22			
8	身体検査(一般)	23			
9	身体検査(聴診)	24			
10	心電図(理論)	25			
11	レントゲン検査・保定1	26			
12	レントゲン検査・保定2	27			
13	レントゲンの評価法	28			
14	検査データの取り扱いと分析方法	29			
15	学習内容の復習と振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	各回授業時に課題を配布する				
教科書・テキスト	動物病院検査技術ガイド (チクサン出版社)				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	水生生物	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Biology of Aquatic Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	農学博士、現在本校の専任講師および近畿大学農学部水産学科非常勤講師。環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO2および農薬が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ラプラタ大学にてラプラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。				
授業の概要・目的					
海洋などの水圏には、イルカ等の哺乳類のみならず魚類、無脊椎動物、水生植物などが生息し、食物連鎖を通じて複雑な生態系を形成している。水族館などの水生生物に関係する業種で活躍するためには、水生生物全般の分類、進化、生理、生態などについての基礎的知識を習得する必要がある。本授業では、水生哺乳類を除く、魚類、無脊椎動物、藻類などの水生生物を取り扱う。					
到達目標					
水族館などでよく見かける代表的な水生無脊椎動物、魚類、水生植物の分類や興味深い生態について説明できるようになる。また別に学ぶ海洋哺乳類とあわせて水圏生態系について議論できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	総論、海綿動物・刺胞動物・有櫛動物	16			
2	軟体動物(多板類・巻貝類・ウミウシ類)	17			
3	軟体動物(頭足類・二枚貝類)	18			
4	節足動物(カブトガニ綱・鰓脚綱・顎脚綱・トゲエビ亜綱等)	19			
5	節足動物(オキアミ目、十脚目①旧異尾亜目)	20			
6	節足動物(十脚目②旧長尾亜目・旧短尾亜目)	21			
7	棘皮動物・半索動物・脊索動物	22			
8	無顎類	23			
9	軟骨魚類	24			
10	硬骨魚類(ウナギ目・ニシン目・コイ目)	25			
11	硬骨魚類(ナマズ目・サケ目・タラ目)	26			
12	硬骨魚類(スズキ目・フグ目)	27			
13	水生植物①(藍色・紅色・緑色・不等毛植物門)	28			
14	水生植物②(渦鞭毛・ユーグレナ・種子植物門)	29			
15	授業の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし。講師作成のパワポで学習する。				
参考書	写真でわかる磯の生き物図鑑(トンボ出版)。小学館の図鑑Z(ゼット)日本魚類館 中坊徹次編 小学館/魚類学 矢部 衛 他編 恒星社厚生閣。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	水族館飼育演習	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Aquatic Animal Management	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大阪コミュニケーションアート専門学校ドルフィントレーナー専攻卒業後、アクアワールド茨城県大洗水族館に5年間勤務し、主に水生生物の飼育業務やイルカショーの運営を担当した。その後、みさき公園に6年間勤務し、海洋哺乳類(イルカ・アシカ)やペンギン・カワウソの飼育業務に携わった。				
授業の概要・目的	1882年に初めて上野動物園に水族館が創設されて以降、現在までに大小300件を優に超える数の水族館施設が建設されてきた。近年においても水族館施設の建設の勢いは衰えておらず、水族館の形態は多様化し、各地に個性豊かな水族館が認められる。しかしながら、水族館の基本業務は、水生生物の飼育であることは不変である。たしかに、水生生物は多岐にわたりその飼育方法は、水族館や飼育員ごとにも違いは認められるが、基本は存在する。本授業では水族館で飼育業務を担当するにあたり必要な最低限の知識と技術を身につける。				
到達目標	水族館の飼育にかかわる活動が現場でどのように行われているのかを知る。飼育水の管理に始まり、水生生物の飼育・繁殖がどのように行われているのかを講義と演習を通じて理解する。魚類、サンゴ類、クラゲ類、水草などの水生生物の飼育の正しい専門知識を説明できるとともに、とくに魚類については飼育・管理できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	水族館の展示(展示形態、生体展示、補助的展示)、水族の収集と輸送	16	ライブロックの入手、作成について		
2	水族館の飼育・展示設備(飼育水管理設備)	17	サンゴ飼育にとって重要な水温と水流について理解する		
3	水族館の飼育・展示設備(水槽設備)	18	サンゴ飼育に必要な水質の管理について理解する		
4	水族館の飼育・展示設備(電気設備・照明設備)	19	サンゴ水槽に使用する照明について理解する		
5	水族館における飼育水の調達および人工海水の作成	20	クラゲ飼育に重要な水温と水流について理解する		
6	魚類の飼育における水槽および濾過フィルターの選択	21	クラゲ飼育に必要な水質の管理、給餌方法について理解する		
7	プロテインスキマーの機能、設置	22	飼育下におけるクラゲ類の繁殖		
8	殺菌灯の仕組み、ウォータークーラーの選定	23	タッチングプールの取り扱い、収容生物の選定		
9	その他の器材(砂・水温計・水流ポンプ)の使用について	24	水槽レイアウト(構図、デザイン)		
10	水質(アンモニア、亜硝酸、硝酸)の測定と管理	25	水族の病気の予防と対処について(ウィルス病)		
11	魚類の飼料・餌料について	26	水族の病気の予防と対処について(細菌病、その他の病気)		
12	水草の種類と飼育	27	水族館における水生哺乳類(イルカ類)の飼育の現状		
13	水草の飼育と繁殖	28	水族館における水生哺乳類(鯨脚類、カワウソ類)の飼育の現状		
14	飼育ノートの作成、飼育データの管理	29	水族館における鳥類(ペンギン類)の飼育の現状		
15	前期授業の総括	30	後期授業の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業最後にその時間の授業内容についての課題を与えるので、次の授業までに課題への回答を作る。授業中に書き留めたメモを元に授業ノートを作成する。				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 水族館編全5巻 公益社団法人 日本動物園水族館協会				
参考書	新版水族館学 鈴木克美・西源二郎著 東海大学出版会/研究する水族館 猿渡敏郎・西源二郎 東海大学出版会/大人のための水族館ガイド 錦織一臣監修・編著 養賢堂/その他適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は基本的に筆記試験80%、出席率20%で最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	潜水士対策講座	開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名	Seminar of Proffesioal Diving	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
国家資格である潜水士は、水中で作業することが多い水族館職員には必須の資格です。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることができない場合があります。本授業では、イメージしにくい水圧の影響や高気圧障害などを、具体的な事例や事故などを紹介しながら説明していきます。					
到達目標					
潜水士の国家試験に合格する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する。	16			
2	ボイルの法則、シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。	17			
3	アルキメデスの法則、パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する	18			
4	水中で利用するポンペに充填されている気体(酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど)の性質を理解する。	19			
5	潜水器(硬式潜水、軟式潜水)の特徴、潜水方法(トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水)などの特徴を理解する	20			
6	潜水方法(スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水)などの特徴、を理解する	21			
7	事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する	22			
8	送気系統、潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。	23			
9	潜水に関係する法律を理解する。本資格の実践+B19:F2問題の解説	24			
10	循環器、呼吸器、神経系などの器官が水圧の影響を受けたとき、どのような問題があるのかを理解する。	25			
11	水圧が関係する様々な高気圧障害(減圧症、窒素酔い、副鼻腔障害、酸素中毒、一酸化炭素中毒など)を理解する	26			
12	水温が高気圧障害にどのように影響を与えるかを理解する。	27			
13	潜水に関係する法律を理解する。本資格の実践問題の解説	28			
14	本資格の実践問題と解説	29			
15	前期の振り返りおよび本試験の試験対策(過去問)	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	過去問をたくさん解いて問題に慣れる。授業内で配布するまとめプリントを覚える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	潜水士テキスト(中央労働災害防止協会)、潜水士 過去問・解答解説集(TAKARA license)				
参考書	なし				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物関連法規Ⅱ	開講年度	2022	配当年次	4
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Related Laws and RegulationsⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	行政書士として人と動物に関する各種法律手続きなどに24年関わってきた。また並行して認定動物看護師、狩猟者免許を所持し狩猟を行う。				
授業の概要・目的					
家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について学ぶ。					
到達目標					
・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16			
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要□	17			
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病清浄国について	18			
4	狂犬病予防法(3) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など□	19			
5	狂犬病予防法(4) 狂犬病予防法の概要その2 対象動物、輸入禁止動物など	20			
6	狂犬病予防法(5) 狂犬病予防法の概要その3 飼い主と行政の義務□	21			
7	動物が亡くなった場合のルール(1)人と動物の埋葬ルールの違い□	22			
8	動物が亡くなった場合のルール(2)化製場法について□	23			
9	動物愛護法(1)動物愛護法制定・改正までの経緯□	24			
10	動物愛護法(2)目的・基本原則など	25			
11	動物愛護法(3)動物虐待に対する罰則 その1□	26			
12	動物愛護法(4)動物取扱業の概要 その1 □	27			
13	動物愛護法(5)動物取扱業の概要 その2□	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	前期学習内容の復習・振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからのートを作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	陸上動物	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Biology of Terrestrial Animals	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	本授業では、動物園/水族館で飼育されている代表的な陸上動物について、その生態・生理・特徴などについて学習する。それに加え、それらの種に関する給餌や展示、トレーニングなど飼育管理に応用できる知識を習得する。				
到達目標	主に動物園/水族館で飼育されている陸上動物に対する正しい知識を持ち、説明できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育動物と動物福祉	16	肉食動物の生理・生態		
2	犬の生理・生態	17	肉食動物の飼育管理と公衆衛生		
3	犬の飼育管理と公衆衛生	18	草食動物の生理・生態		
4	ネコの生理・生態	19	草食動物の飼育管理と公衆衛生		
5	ネコの飼育管理	20	雑食動物の生理・生態		
6	家畜動物の生理・生態	21	雑食動物の飼育管理と公衆衛生		
7	家畜動物の飼育管理と公衆衛生	22	猛禽類の生理・生態		
8	げっ歯類の生理・生態	23	猛禽類の飼育管理と公衆衛生		
9	げっ歯類の飼育管理と公衆衛生	24	トカゲ類の生理・生態		
10	オウム・インコの生理・生態	25	トカゲ類の飼育管理と公衆衛生		
11	オウム・インコの飼育管理と公衆衛生	26	ヘビ類の生理・生態		
12	動物のトレーニング	27	ヘビ類の飼育管理と公衆衛生		
13	動物の保護	28	動物の収集と輸送		
14	動物の飼育設備	29	動物の保管と展示		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	動物に関するニュースに興味を持ち、各自で調べることを勧める。				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編				
参考書	普段から飼育書や図鑑を読んでおくこと。インターネット上の情報を鵜呑みにせず学習に臨むことを期待する。				
評価方法・基準	合計100点とし、筆記試験50%、出席率50%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	海洋哺乳類	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Marine Mammal	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	本講義の対象種である海洋哺乳類は、日本近海にも多数生息し、水族館やホエールウォッチング、ドルフィンスイムなどでも身近な存在であり、様々な地域で重要な観光資源となっている。しかしながら、近年、野生動物の観光利用は厳しい立場に立たされつつある。また、人間活動などが原因で、過去に生息数を大きく減少したために保護を必要とする種や、絶滅してしまった種が存在する。こうした現状において、将来、水族館やホエールウォッチングの現場などを含め、野生動物と関わる職種への就職を目指す学生は、対象動物に対する知識を身につけ、一般客へそれを伝えられるようになる必要がある。本開講科目では、海洋哺乳類の分類、進化、体の構造、生理といった基礎情報に加え、生態、社会、行動、認知などについて習得する。また、保全や飼育に対する世論についても知識を深める。				
到達目標	水族館飼育員に必要な海洋哺乳類の基礎生態を説明できるようになる。具体的には、分類、進化および水中適応について概説できるようになる。また代表的な種について、分布、食性、繁殖、成長および社会などについて解説できるようになる。生息状況が悪化した海洋哺乳類を中心に、その原因や保全について論じることができるようになる。人と鯨類の関わり方の歴史や飼育などの観光利用に関する現状を説明できるとともに、それらについて自分の考えを述べるができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	鯨類の進化について概説できるようになる	16			
2	鯨類の分類について概説できるようになる	17			
3	鰐脚類の進化・分類について概説できるようになる	18			
4	海牛類やその他の海洋哺乳類の進化・分類について概説できるようになる	19			
5	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(外部形態、各部位の役割、計測、臓器)について理解する	20			
6	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(脳、嗅覚、触覚、視覚)について理解する	21			
7	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(骨格、筋肉、遊泳)について理解する	22			
8	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(皮膚、体温調整、体色)について理解する	23			
9	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(耳、聴覚、鳴音、エコーロケーション)について理解する	24			
10	海洋哺乳類の回遊や生息地利用について説明できるようになる	25			
11	海洋哺乳類の繁殖行動・戦略について理解する	26			
12	海洋哺乳類の回遊や生息地利用について説明できるようになる	27			
13	海洋哺乳類の繁殖生理(生殖器、生殖腺、排卵、妊娠)について理解する	28			
14	海洋哺乳類の生活史と社会の特徴を概説できるようになる	29			
15	前期授業のまとめ	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内容を整理し覚えておく。疑問点があれば書き出し、質問する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	海棲哺乳類大全 田島木綿子・山田格 監修 緑書房／イルカ概論 粕谷俊雄 著 東海大学出版／その他講義中に紹介する				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		キャリアデザインⅠ	開講年度	2022	配当年次	1
			開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名		Career DesignⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的		担任とクラスメイトとのコミュニケーションを図り、社会人となるコミュニケーション身構え・気構え・心構えを学ぶ。また、学校イベントの企画を行い、計画・実行・運営を実際に経験し、コミュニケーション力やチームワークを学ぶ。				
到達目標		最終学年で具体的に行う「就職活動」を経て、希望職種に付けるように、人間性や社会人基礎力を付ける。業界仕事内容を研究する。				
授業計画(テーマ・内容)						
1	大阪ECOで学ぶにあたり学生便覧を用いて説明する。(時間割・年間スケジュール・成績評価・単位認定など)		16	後期スケジュールや時間割の説明をする。		
2	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(目標設定など)		17	冬季インターンシップについての概要説明		
3	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(現地スケジュールなどの確認)		18	特別講義(観光牧場勤務の卒業生に聞く)		
4	クラス宿泊実習後の振り返り		19	特別講義(公立動物園勤務卒業生に現状を聞く)		
5	特別講義(動物園勤務卒業生に現状を聞く)		20	特別講義(公立水族館勤務卒業生に聞く)		
6	特別講義(水族館勤務卒業生に現状を聞く)		21	特別講義(アミューズメント施設支配人に現状を聞く)		
7	施設見学(展示・レイアウト方法)		22	スポーツフェスタの企画・運営		
8	施設見学(動物の行動観察)		23	スポーツフェスタの企画・運営		
9	夏季インターンシップガイダンス(概要説明1)		24	冬季インターンシップガイダンス(インターンシップに参加するにあたっての目標設定など)		
10	夏季インターンシップガイダンス(概要説明2)		25	卒業進級制作展の準備(役割分担・発表内容の打ち合わせ)		
11	夏季インターンシップガイダンス(目標設定など)		26	卒業進級製作展の準備(発表物の制作)		
12	夏季インターンシップの振り返り		27	卒業進級製作展の準備(発表物の制作)		
13	学園祭の企画・運営		28	特別講義(最新動物業界の現状を学ぶ)		
14	学園祭の企画・運営		29	特別講義(最新水族館業界の現状を学ぶ)		
15	前期授業統括		30	後期授業統括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		新聞を読み、説明をする練習を繰り返す。指定する書籍を読む(ソロモンの指輪・ひと いすに会う 等)				
教科書・テキスト		なし				
参考書		なし				
評価方法・基準		出席率50% レポート50%で評価する				
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		キャリア		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		キャリアデザインⅡ		開講年度	2022	配当年次	2
開講科目英名		Career DesignⅡ		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
業界研修や海外留学にむけたグローバル社会人としての一般常識を身に付ける。また 学校イベントも学校のリーダーとして企画・運営できる人物を育成する。							
到達目標							
最終学年で具体的に行う「就職活動」を経て、希望職種に付けるように、人間性や社会人基礎力を付ける。留学を意識して国際感覚とテクニカルタームを学ぶ。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	大阪ECOで学ぶにあたり2年次学生としての自覚と目標を促す。また便覧を用いて、改めて説明する。(時間割・年間スケジュール・成績評価・単位認定など)			16	後期スケジュールや時間割の説明をする。		
2	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(目標設定など)			17	冬季インターンシップについての概要説明		
3	クラス宿泊実習に向けての事前ガイダンス(現地スケジュールなどの確認)			18	特別講義(海外インターンシップ参加卒業生に当時の話を聞く)		
4	クラス宿泊実習後の振り返り			19	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ①)		
5	特別講義(動物園勤務卒業生に現状を聞く)			20	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ②)		
6	特別講義(水族館勤務卒業生に現状を聞く)			21	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ③)		
7	施設見学(展示・レイアウト方法)			22	特別講義(海外インターンシップで使う専門用語を学ぶ④)		
8	施設見学(動物の行動観察)			23	スポーツフェスタの企画・運営		
9	夏季インターンシップガイダンス(概要説明1)			24	冬季インターンシップガイダンス(インターンシップに参加するにあたっての目標設定など)		
10	夏季インターンシップガイダンス(概要説明2)			25	卒業進級制作展の準備(役割分担・発表内容の打ち合わせ)		
11	夏季インターンシップガイダンス(目標設定など)			26	卒業進級製作展の準備(発表物の制作)		
12	夏季インターンシップの振り返り			27	卒業進級製作展の準備(発表物の制作)		
13	学園祭の企画・運営			28	特別講義(最新海外動物業界の現状を学ぶ)		
14	学園祭の企画・運営			29	特別講義(最新海外水族館業界の現状を学ぶ)		
15	前期授業統括			30	後期授業統括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)		新聞を読み、説明をする練習を繰り返す。指定する書籍を読む(ソロモンの指輪・ひと イヌに会う 等)					
教科書・テキスト		なし					
参考書		なし					
評価方法・基準		出席率50% レポート50%					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザインⅢ	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Career DesignⅢ	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	業界研修や海外留学を通じて身に付けた経験を情報共有して、プレゼンテーション力の向上と業界への知見を広げる。				
到達目標	国内や海外で身に付けてた知識・技術・マインドなどをアウトプットできる技法を学び、本格的な就職活動準備を始める。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	導入:本科目の目的と、授業計画の解説。通過点であることの確認。	16			
2	就職するということは?社会について:各人にとって「働く(お金を稼ぐ)」意義 目的の確認・共有。学生から社会人へ、学校という組織と社会のしくみについ て。	17			
3	専門学校生とは:「今までの学校」～「専門学校」の選択を振り返る。	18			
4	自己分析について:過去の棚卸と自己PRを見つける。得意な科目や、習得 に努力している知識・技術の明確化を行い、自らの強みを明確化する。	19			
5	動物(ペット)業界の研究:ペットビジネスの市場規模、歴史、業種、職種の理 解。	20			
6	動物(ペット)業界のこれから:過去10年を振り返り、5年先を考える。ペット 飼育頭数の減少や「人口減」についての理解。求められる人材・人物像を明 確化する。	21			
7	企業研究:企業研究の方法とポイント、選び方。例えば動物病院の場合、規 模で分類する方法や診療内容での分類方法などについて。	22			
8	先輩から学ぶ:動物病院勤務の先輩を迎え、就活のポイントや経験(失敗・成 功)談から学ぶ。	23			
9	就活の流れ:専門学校生(本校)の就活の流れとスケジュールについて。SNS に潜む危険性について。	24			
10	履歴書(エントリーシート)について:必要性の理解と自己分析に基づく学校 指定履歴書への反映。	25			
11	ビジネスマナーについて:敬語やビジネスマナーの実際。	26			
12	就活における筆記試験:SPI・一般常識・計算問題・四字熟語・ペットの食材 についてなど。	27			
13	コミュニケーションの基本:ペアで学ぶことと、グループでの共有、プレゼン テーションの必要性。	28			
14	グループからチームへ:人の集まりから、同じ理念を共有し目標をそれぞれ の立場で設定。ベクトルを合わせる必要性の理解。	29			
15	まとめ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。またSUCCESS FILEにプリントやレポートをファイルし適宜見返すこと。				
教科書・テキスト	SUCCESS NOTE(大阪ECOオリジナル)、プリントなど				
参考書	とくになし				
評価方法・基準	選択、記述を合わせた筆記試験を行い、50点満点とする。また授業への出席率を50点満点(=100%)とし、合計を評価点数とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	キャリアデザインⅣ	開講年度	2022	配当年次	4
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Career DesignⅣ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
将来の仕事位における自分自身のキャリア設計をについて具体的に考える。そのキャリア設計に沿って就職対策を学び、実際の就職活動に役立てる。					
到達目標					
第1希望職種に内定を取ること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	後期の授業計画について:就活中盤を迎え、授業計画の確認と、最終目標の再確認。導入:本科目の目的と、授業計画の解説。通過点であることの確認。	16	後期の授業計画について:就活中盤を迎え、授業計画の確認と、最終目標の再確認。		
2	就活における面接試験:第一印象の大切さ、服装・身だしなみ・心得について。	17	内定式準備:第一印象の大切さ、服装・身だしなみ・心得について。		
3	求人票について:Web就職システムとサクセスナビ。求人票の見方、社会保険などについて。専門学校生とは:「今までの学校」～「専門学校」の選択を振り返る。	18	業界人としての心得① 会社に入ることとは		
4	合同企業説明会について:来校企業の求人情報、研究と企業へのアプローチ(質問事項について)の方法。	19	業界人としての心得② 組織の中で働くということとは		
5	企業へのエントリー:インターンシップや就職応募エントリーについて。	20	業界人としての心得③ 自分を成長させるキャリアパスについて		
6	インターンシップについて(導入):全体の流れ(研修前・研修中・研修終了後)の理解。SNSによる過去の失敗事例の共有。	21	業界人としての心得④ 社会人基礎力を高める		
7	インターンシップについて(実施内容):「新入社員」のように2週間体験する際の注意とアドバイス。	22	業界人としての心得⑤ 社会人基礎力を高める		
8	インターンシップについて(まとめ):インターンシップの振り返り(クラス内での発表)。	23	業界人としての心得⑥ 社会人基礎力を高める		
9	インターンシップについて(業界の評価):インターンシップの業界の評価に基づき、できていたところと今後必要なことの確認と理解。	24	業界人としての心得⑦ 社会人基礎力を高める		
10	仕事をもう一度考える:インターンシップを終え、社会に貢献することの理解と重要性、やりがいの確認。	25	業界人としての心得⑧ 業界人として遵守すべき規範について		
11	社員とフリーター、フリーランスについて:社会保障・給与・待遇の違い・職務責任についてビジネスマナーについて:敬語やビジネスマナーの実際。	26	業界人としての心得⑨ 業界人としての自分を守り高めることとは		
12	就活における筆記試験:SPI・一般常識・計算問題・四字熟語・ペットの食材についてなど。	27	業界研究① 内定先報告プレゼン		
13	キャリアアップについて:卒業(就職後の)セミナーや学会、社内研修などを通じての成長。	28	業界研究② 内定先報告プレゼン		
14	社会人基礎力について:最新年度版の配布と内容確認・卒業後の支援制度の紹介	29	キャリア開発 卒業後のキャリアマップシート作成		
15	まとめ	30	総括:今までの自分とこれからの自分の生き方報告会		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。またSUCCESS FILEにプリントやレポートをファイルし適宜見返すこと。				
教科書・テキスト	SUCCESS NOTE(大阪ECOオリジナル)、プリント、イラスト英会話.新社会人の基礎力109など				
参考書					
評価方法・基準	選択、記述を合わせた筆記試験を行い、50点満点とする。また授業への出席率を50点満点(=100%)とし、合計を評価点数とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ビジネスマナー	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Business Manner	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	人間関係が希薄になってきているといわれ、コミュニケーションのツールも様々である。 社会人として必要なコミュニケーションスキルとマインドを学ぶことで、対面でのコミュニケーションがきちんと取れることを目指す。				
到達目標	マナーについて理解し、社会人としての基本的な考え方を身につける。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	コミュニケーションの土台としてのマナーの必要性について。 コミュニケーション能力とは。 コミュニケーションの種類について。	16	コミュニケーション実践。実際に正しい挨拶・自己紹介が出来るようにする。		
2	コミュニケーションのプロセスを理解する。 聴くときの心がけ、方法を学ぶ。	17	基本的対話スキル「話す」の重要性を理解する。		
3	質問の種類や場面に応じた使い方があることを理解する。 話すときの心がけ、相手に伝わりやすい話し方を学ぶ。	18	基本的対話スキル「聴く」の重要性を理解する。		
4	「グループ」とはどのようなものか。 グループでの会話ではどのような心がけが必要なのかを学ぶ。	19	グループでの会話の基本と心がけを学ぶ。自己表現の仕方を学ぶ。		
5	自己紹介の3つの目的を意識して、印象に残る自己アピールをしてみる。 「伝える力」を身につける。	20	ビジネスにおける表現技術「交渉」について学ぶ。		
6	何気ない一言の影響や、自分の言葉遣い、話し方のクセを知る。 「温かい言葉」について。	21	ビジネスにおける表現技術「説得」について学ぶ。		
7	適度な「自己主張」はバランスの良い人間関係が続けられることを理解する 「怒りの感情」を理解する。他者から「怒り」を向けられた時の対処法。	22	アンガーマネジメント「怒りの感情」について理解する。		
8	「報告・連絡・相談」の機能や心がけ、注意事項について。 分かりやすく伝える方法を学ぶ。	23	社会的スキル「挨拶・敬語・電話応対」について学ぶ。		
9	ビジネスに求められるマナーについて学ぶ。 敬語、接客応対を身につける。	24	社会的スキル「接客・訪問」について学ぶ。		
10	電話応対、上座の知識、名刺の取り扱い方、紹介のマナーについて。	25	社会的スキル「クレーム・謝罪」について学ぶ。		
11	社内文書・社外文書の特徴、種類、形式について。	26	サービスの心得、サービスの基本要素について理解する。		
12	社交文書について。手紙の書き方。	27	サービス環境、プロセスについて考え理解する。		
13	サービスマインドの定義 「サービス」の意味を理解し、サービスの基本「相手の立場に立つ」とこと サービスを作る3つの要素を見直す。	28	接客ロールプレイング。サービスをする側、される側それぞれの立場を理解し、行動できるようになる。		
14	テキストの事例を通して具体的に提供できる サービスと自分自身のサービスマインドを活かす行動を考える。	29	コミュニケーションの必要性やサービスマインドについての総括。		
15	学習内容の総括を行う。	30	学習内容の総括的な振り返り。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	各回でオンデマンドコンテンツを配布するので視聴する				
教科書・テキスト	コミュニケーションスキルアップ、Hand-book of Life style				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験70%、出席率20%、平常点10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	キャリア	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ホスピタリティ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Hospitality	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
ホスピタリティとは何かを理解し、サービスとホスピタリティの違いを学び、ホスピタリティのスキルとマインドを身に付け、各業界で活躍する人材を養成する。					
到達目標					
理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。日本ホスピタリティ推進協会「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネーター(AHC)」資格取得する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション:講義概要説明	16	ホスピタリティ概念とサービス概念の比較①		
2	ホスピタリティとはどういう概念なのか、起源や歴史を知る	17	ホスピタリティ概念とサービス概念の比較②		
3	ホスピタリティとサービスの違いと語源	18	ホスピタリティの実践③(笑顔・身だしなみ・立ち振る舞い)		
4	ホスピタリティの実践①(笑顔・身だしなみ・立ち振る舞い)	19	ホスピタリティの実践④(傾聴姿勢・対応力)		
5	ホスピタリティの実践②(会話力・傾聴姿勢・言葉遣い・対応力)	20	ホスピタリティの実践⑤(会話力・言葉遣い)		
6	ホスピタリティの歴史と文化 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性	21	ホスピタリティの実践⑥(会話力)		
7	「相手の立場に立つ」ことの理解① 心のバリアフリー	22	ホスピタリティ産業研究(動物園系)		
8	「相手の立場に立つ」ことの理解② 外国人へのホスピタリティ	23	ホスピタリティ産業研究(水族館系)		
9	ホスピタリティの定義 組織と社員のホスピタリティ	24	ホスピタリティ産業研究(他分野)		
10	顧客ロイヤリティとホスピタリティ	25	ホスピタリティマネジメント①		
11	ゴールデン・サークル理論から学ぶ従業員満足度につながるリーダーシップ	26	ホスピタリティマネジメント②		
12	クレーム対応	27	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア①(ディスカッション形式)		
13	アフターフォローこそホスピタリティ	28	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア②(ディスカッション形式)		
14	ホスピタリティを将来の現場で生かす企画・アイデア①(ディスカッション形式)	29	ホスピタリティマインドの育て方と啓蒙		
15	前期総括	30	後期総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	各回にオンデマンドコンテンツを配布するので視聴する				
教科書・テキスト	ホスピタリティ・コーディネーター教本				
参考書					
評価方法・基準	ホスピタリティ実践レポート2000字以上 の提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅠ	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Global communicationⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。 リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。				
到達目標	<リスニング> 直接自分につながりのあること(家族等)に関してよく使われる語句を聞いて、理解することができる。 <リーディング> 短い簡単な私信を理解する事ができる。日常生活における簡単な文章(広告等)の中の特定の情報を見つけることができる。 <スピーキング> 簡単なフレーズを使って家族や他人について話すことができる。 <ライティング> and, but, becauseのような語でつながらながら、簡単な文を書くことができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介 個人情報	家の周辺 旅行について尋ね答える			
2	ホテルへのチェックイン	電話でのニュース共有 ブログの読み書き			
3	プロフィールの読み書き	スキル能力			
4	友人・家族・年齢・生年月日	仕事・学校でできること、できないこと 自分やアイデアを表現する			
5	友人の写真 場所を表現する前置詞	自身の意見をオンラインでコメントする			
6	家・家具	旅行や休暇 旅行の予定			
7	ドリンクやスナックの依頼・受け取り シェアルームについてのメールの読み書き	さらなる情報要求 反復のお願い 場所の表現について読み書			
8	好きなこと	週末のアウトドアプラン			
9	テクノロジーの活用 コミュニケーションの取り方	旅行で着るべき服			
10	製品レビューの読書き	夜の活動 オンライン招待			
11	平日・休日の活動、日課	過去の人物・場所・もの			
12	同意・共通点・頻度 活動報告レポートの読み書き	色・記憶、映画・俳優			
13	街の場所 道案内	昔から続けていること			
14	情報確認 ファクトシートの読み書き	レストランレビューの読み書き			
15	前期のまとめ	後期のまとめ			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 1,2				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅡ	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Global communicationⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。TOEIC400点を取得し、短期留学・専門留学に活かせる英語力を身につける。リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。				
到達目標	<リスニング> 直接自分につながるの事(家族等)に関してよく使われる語句を聞いて、理解することができる。 <リーディング> 短い簡単な私信を理解する事ができる。日常生活における簡単な文章(広告等)の中の特定の情報を見つけることができる。 <スピーキング> 簡単なフレーズを使って家族や他人について話すことができる。 <ライティング> and, but, becauseのような語でつながらながら、簡単な文を書くことができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	知人・家族	一番好きな食べ物 キッチンカーのデザイン			
2	会話のスタート、驚きや関心の表現	レストランで頼みたいもの			
3	自己紹介、職場でのフォーマルなメールの読み書き	自分の町			
4	習慣 職場	過去の旅行 提案			
5	ポッドキャスト	海外生活			
6	スポーツ	お店とお店での売り物を比較 写真			
7	情報収集 サービス業界の会社へのメッセージ読み書き	広告			
8	将来のプラン	職場での危険回避 将来の予想			
9	招待 過去のイベント	健康問題 未来の自分へのメール			
10	自分の意見 お祝いの言葉	したことがあること・ないこと			
11	新しい場所	ソーシャルメディア(ネット)			
12	賛成・反対	依頼 インフォグラフィック			
13	買い物	天気			
14	新しい商品 Vlog(ビデオブログ)	道を聞く、教える			
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 1.2				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅢ	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Global communication Ⅲ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。TOEIC500点を取得することが目標。日常生活での情報・説明や、まとまりのある内容が理解できるようになる。また日常生活の話題について、出来事の説明、用件を伝えることができる。複雑なトピックではなければ、意見交換をすることができる。各技能の学習成果は以下のとおりとする。				
到達目標	<リスニング>職場や学校、休暇中における、よく知っている事柄であれば要点を理解することができる。 <リーディング>毎日の出来事や専門分野に関係する文章を理解することができる。 <スピーキング>経験や出来事、夢について簡単にフレーズを繋げて話することができる。 <ライティング>自分の関心のある分野について、簡単なつながりのある文章を書くことができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	流行の食べ物				
2	お金と時間				
3	道案内				
4	意見を述べる、予定を立てる				
5	これまでの復習				
6	過去の驚いたこと				
7	問題と解決				
8	歌・テレビ・映画				
9	最近の出来事				
10	学校と仕事				
11	理由の説明と表現の詳細化				
12	成功と想像				
13	アクシデントと感情				
14	復習				
15	プレゼンテーション				
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 3・4				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	グローバル	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	グローバルコミュニケーションⅣ	開講年度	2022	配当年次	4
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Global communication Ⅳ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	ユニット毎のトピックに応じたシチュエーション別ロールプレイならびにプレゼンテーションを実施する。 授業内でビデオ視聴やリスニング理解度チェック、ライティング練習、多読、ペア・グループワークでのスピーキング練習を実施する。グループでのアクティビティやプレゼンテーションを実施する。米国大学入学に必要な英語力を身につける(TOEIC730点)。自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないでやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。				
到達目標	<リスニング>自分の専門分野での技術的な議論を含めて標準語での話であれば、抽象的・具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。 <リーディング>書き手が特定のスタンスや視点を取り入れている現代の問題に関する記事やレポートを読むことができ、現代の文学的な散文を理解することができる。 <スピーキング>興味のある分野に関連する幅広い主題について明確で詳細な説明をすることができる。 <ライティング>エッセイやレポートを書いたり、情報を伝えたり、特定の観点に対して同意・あるいは反対をする理由を説明することができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	挑戦や過去の困難	賛成と反対についてのエッセイ			
2	エッセイの読み書き	サイドプロジェクト			
3	自然界での人間の活動や動物	他人のアイディア			
4	フリータイムでのアクティビティ	クレームの手紙			
5	ライフスタイル	発見と発明			
6	個人の性格や感情	人生を違うものにすること、失敗について			
7	職場での会話	アドバイス			
8	長所や短所	人々の性格、習慣、印象			
9	グループやチームワーク	公的なプロフィールの読み書き			
10	現在・未来のテクノロジー	偽の商品、また誤情報			
11	翻訳アプリなどの記事	信じている事、信じていない事			
12	予想外の出来事や落胆した経験	才能、目標			
13	価値のある経験	パフォーマンスに対するレビュー			
14	買い物	プレゼンテーション①			
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション②			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	オンライン英会話				
教科書・テキスト	Evolve 5				
参考書					
評価方法・基準	Monthly Assessment 60%、TOEIC Scores中間20%・期末20%、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		テクノロジー		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		コンピュータ演習		開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名		Practice of Computer		開講期間	通年	必選区分	必修
				授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習は、社会人にとって必須となるPCオフィスツール(エクセル・ワード・パワーポイント)のスキルを身につけることを目的とする また、Microsoft Azure AI900の資格取得を目指す							
到達目標							
パワーポイントを使用したプレゼンテーションデータの作成およびAI900資格の取得							
授業計画(テーマ・内容)							
1	概要 目的・目標の説明			16	概要 目的・目標 説明 AIとは		
2	エクセル基礎①			17	Microsoft Azure AI900とは		
3	エクセル基礎②			18	AI900資格試験対策①		
4	エクセル基礎③			19	AI900資格試験対策②		
5	エクセル応用①			20	AI900資格試験対策③		
6	エクセル応用②			21	AI900資格試験対策④		
7	ワード基礎①			22	AI900資格試験対策⑤		
8	ワード基礎②			23	AI900資格試験対策⑥		
9	ワード応用			24	AI900資格試験対策⑦		
10	パワーポイント基礎①			25	AI900資格試験対策⑧		
11	パワーポイント基礎②			26	AI900資格試験対策⑨		
12	パワーポイント応用①			27	AI900資格試験対策⑩		
13	パワーポイント応用②			28	AI900資格模擬試験①		
14	プレゼンテーションデータ作成①			29	AI900資格模擬試験②		
15	プレゼンテーションデータ作成②			30	AI900資格振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		課題50% レポート50%で評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名		テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	テクノロジー演出		開講年度	2022	配当年次	4
			開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Spatial Presentation by Technology		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的						
本演習は、施設の魅力を最大限に活かすための演出技術を学び、人間心理、人の五感を刺激する音・光・映像演出を創り出す事を目的とします						
到達目標						
Adobeソフトを中心にデザインや動画オペレーションの実践及び作品完成						
授業計画(テーマ・内容)						
1	授業概要・目標・目的 説明		16			
2	映像デザイン基礎①		17			
3	映像デザイン基礎②		18			
4	デザイン企画構成①		19			
5	デザイン企画構成②		20			
6	デザイン企画構成③		21			
7	デザイン制作 ①		22			
8	デザイン制作 ②		23			
9	デザイン制作 ③		24			
10	映像制作実践①		25			
11	映像制作実践②		26			
12	映像制作実践③		27			
13	映像制作実践④		28			
14	個人制作提出		29			
15	個人作品の総評		30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。使用ツールの復習				
教科書・テキスト		なし				
参考書						
評価方法・基準		レポート50% 課題50%で評価する				
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	デジタルコンテンツ演習		開講年度	2022	配当年次	2
			開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Digital Contents		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名						
実務経験概要						
授業の概要・目的						
本演習は、IT技術を活用しデジタルコンテンツの制作を行うスキルを修得することを目的とする また、AIの理解を深める						
到達目標						
動画撮影や編集・演出を行いSNSなどで情報発信する。また、AIに						
授業計画(テーマ・内容)						
1	オリエンテーション 概要 目的・目標		16			
2	SNSの歴史と取り巻く環境		17			
3	SNSとソーシャルメディアの違いについて		18			
4	SNSの種類について		19			
5	カメラの仕組みと使用方法について		20			
6	一眼レフカメラでの撮影実習		21			
7	スマートフォンでの撮影実習		22			
8	SNSの歴史と取り巻く環境		23			
9	SNSとソーシャルメディアの違いについて		24			
10	SNSの数値分析について		25			
11	SNSマーケティングの手法		26			
12	SEOについて(検索エンジンの仕組みや具体的施策)		27			
13	AI学習 動物業界におけるAIの重要性について		28			
14	AI学習 機械学習について		29			
15	授業の振り返り		30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト		なし				
参考書						
評価方法・基準		レポート50% 課題50%で評価する				
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	テクノロジー	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ドローン演習	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Dorone Operation	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	遠隔操作ができる無人航空機ドローンは近年エンターテインメント、公安・公共サービス、農業、漁業、不動産、および物流などの多くの分野で活用されている。国内のドローンビジネスの市場規模は、2015年の175億円から2022年には2116億円に達することが推測されている。水族館や動物園では、飼育動物の撮影をはじめ、施設の点検、動物の調査などで活用できることが容易に推察され、今後多くの園館がドローンを導入すると考えられる。しかしながら、ドローンを操縦できる人材はまだ少ないのが現状であり、動物園や水族館においてもこうした人材が今後歓迎されることは間違いない。本授業ではドローンに関する基礎的な知識と操縦の技術を修得することを目的とする。				
到達目標	ドローンの種類、操縦、飛行にかかわる法令やドローンの活用事例について説明できるようになる。ドローンの基本的な操縦ができるようになる。ドローンを使用して航空写真・動画を撮影できるようになる。ドローンの飛行に必要な各種規制を理解し、飛行のための各種手続き、申請ができるようになる。飛行中、飛行前後によく起こるトラブルに対処できるようになる。ドローンの新しい活用について提案できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ドローンの種類、機体の動きについて理解する	16			
2	各種法規(電波法、民法、改正航空法)、ドローンの飛行制限について理解する 国土地理院地図による標高の確認する	17			
3	ドローン産業の概要と民生活用について理解する	18			
4	ドローンの操縦①(飛行前の点検、各種設定)	19			
5	ドローンの操縦②(前進、後進、前進対面飛行)	20			
6	ドローンの操縦③(斜め前進、後退、90°回転前進)	21			
7	ドローンの操縦④(2点間での離着陸)	22			
8	ドローンの操縦⑤(サークル飛行)	23			
9	ドローンの操縦⑥(クローバー飛行)	24			
10	ドローンの操縦⑦(上限高度150mからの下降、リターントゥホーム)	25			
11	ドローンの操縦⑧(撮影テクニック、画像の管理)	26			
12	ドローンの保管とメンテナンス	27			
13	ドローンの飛行に関する各種手続き、申請についてについて理解する	28			
14	ドローンの新しい活用について考える	29			
15	授業の振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	毎回の授業内で指示する				
教科書・テキスト	最初の授業で配布する				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技試験、筆記試験で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	クリエイティブAquarium	開講年度	2022	配当年次	4
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Co-operative Project Study with Aquarium	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	本授業は、1～3年で学んだすべてのスキルを現場で発揮し、ユーザーの満足度を得る様々なクリエイティブを企業プロジェクトを通して 体現する事を目的とする。本講義ではDMM かりゆし水族館と共に授業を展開する				
到達目標	ユーザー満足度を得るため求めるモノ・コトを理解し、様々な商品・サービスを提供する				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 概要、目的・目標	16			
2	プロジェクトオリエン①(イベント企画)	17			
3	コンセプトワーク	18			
4	中間プレゼンテーション	19			
5	コンセプトワーク	20			
6	プレゼンテーション	21			
7	プロジェクトオリエン②(商品企画)	22			
8	コンセプトワーク	23			
9	中間プレゼンテーション	24			
10	コンセプトワーク	25			
11	プレゼンテーション	26			
12	プロジェクトオリエン③(飼育展示)	27			
13	コンセプトワーク	28			
14	プレゼンテーション	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		クリエイティブZoo		開講年度	2022	配当年次	4
				開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名		Co-operative Project Study with Zoo		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習は、1～3年で学んだすべてのスキルを現場で発揮し、ユーザーの満足度を得る様々なクリエイティブを企業プロジェクトを通して体現する事を目的とする。本講義は神戸どうぶつ王国と共に授業を展開する							
到達目標							
ユーザー満足度を得るため求めるモノ・コトを理解し、様々な商品・サービスを提供する							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 概要、目的・目標			16			
2	プロジェクトオリエン①(イベント企画)集客戦略			17			
3	コンセプトワーク			18			
4	中間プレゼンテーション			19			
5	コンセプトワーク			20			
6	プレゼンテーション			21			
7	プロジェクトオリエン②(商品企画)売上			22			
8	コンセプトワーク			23			
9	中間プレゼンテーション			24			
10	コンセプトワーク			25			
11	プレゼンテーション			26			
12	プロジェクトオリエン③(飼育展示)飼育			27			
13	コンセプトワーク			28			
14	プレゼンテーション			29			
15	振り返り			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		レポート プレゼンテーションで評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		チームマネジメント演習Aquarium		開講年度	2022	配当年次	4
				開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名		Team Management of Aquarium		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本授業は、人と関わり施設を運営していくためのチームマネジメントを実際の現場で体现し、1～3年で学んだスキルを企業プロジェクトを通して発揮する事を目的とする。本講義はDMMかりゆし水族館と共に授業を展開する							
到達目標							
チームとして行動し、立てた組織目標を達成すること							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 概要 目的・目標			16			
2	プロジェクトオリエンテーション①(広報)情報発信			17			
3	行動計画			18			
4	中間プレゼンテーション			19			
5	計画実践			20			
6	プレゼンテーション			21			
7	プロジェクトオリエンテーション②(販売接客)売上			22			
8	行動計画			23			
9	中間プレゼンテーション			24			
10	計画実践			25			
11	プレゼンテーション			26			
12	プロジェクトオリエンテーション③(飼育展示)接客			27			
13	行動計画			28			
14	行動計画・実践			29			
15	振り返り			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		レポート プレゼンテーションで評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	チームマネジメント演習	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Team Management	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
本演習は、産学連携企業プロジェクトを通して動物関連施設におけるマネージャーとしての資質を習得します。					
到達目標					
チームメンバーの特性や個性を効果的・効率的に活用し、組織の目指す短期的・中期の実現に向けたマネジメントが実践できる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 演習の概要	16			
2	マネジメントサイクル(計画→組織化→指示→統制＋調整)を学ぶ	17			
3	「計画」→目標設定の手法	18			
4	「組織化」→業務割り当ての際に考慮すべき条件	19			
5	「指示」→効果的な手法	20			
6	「統制」→セルフコントロールの重要性	21			
7	「調整」→マネージャーの統合した調整手法	22			
8	的確な作業振り分けを行うための工数計算を学ぶ	23			
9	人間行動が与える影響について(クルト・レヴィンの公式)	24			
10	積極的傾聴について学ぶ	25			
11	内発的動機付けと、外発的動機付け	26			
12	ロールプレイング(メンバーでビジョンを設定して議論する)	27			
13	ロールプレイング(メンバーに作業を割り当てる)	28			
14	ロールプレイング(メンバーから作業報告を受ける)	29			
15	学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題50% レポート50%で評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		チームマネジメント演習Zoo		開講年度	2022	配当年次	4
				開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名		Team Management of Zoo		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本授業は、人と関わり施設を運営していくためのチームマネジメントを実際の現場で体現し、1～3年で学んだスキルを企業プロジェクトを通して発揮する事を目的とする。本講義は業界と共に授業を展開する							
到達目標							
チームとして行動し、立てた組織目標を達成すること							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 概要 目的・目標			16			
2	プロジェクトオリエンテーション①(広報)情報発信			17			
3	行動計画			18			
4	中間プレゼンテーション			19			
5	計画実践			20			
6	プレゼンテーション			21			
7	プロジェクトオリエンテーション②(販売接客)売上			22			
8	行動計画			23			
9	中間プレゼンテーション			24			
10	計画実践			25			
11	プレゼンテーション			26			
12	プロジェクトオリエンテーション③(飼育展示)接客			27			
13	行動計画			28			
14	行動計画・実践			29			
15	振り返り			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		レポート プレゼンテーションで評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	ヒューマンマネジメント	開講年度	2022	配当年次	4
開講科目英名	Communication and Leadership	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
本演習は、チームで仕事をする上で必要なスキルとリーダーシップについて学びます。					
到達目標					
リーダーシップに必要なスキルを理解し、メンバーが活性化してモチベーションを維持して目標達成することへ導くことができる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 授業の概要	16	ゲストスピーカー講演(職場内におけるリーダーシップについて)		
2	組織におけるリーダーの定義と役割	17	指示の種類(命令・依頼・相談・暗示・募集)		
3	リーダーシップとマネジメントの違い	18	ピラミッド・ストラクチャーを用いた伝え方		
4	対人コントロールの要素を学ぶ	19	経験学習モデル理論に基づく人材育成プロセス		
5	ヒューマンマネジメントの土台となるリテラシーを学ぶ	20	リーダーシップの機能(目的達成機能と集団維持機能)		
6	積極的傾聴について学ぶ	21	リーダーシップの種類(専制型・民主型・放任型)		
7	職場内コミュニケーション手法を学ぶ	22	優れたリーダー事例からノウハウを学ぶ		
8	リーダーシップの要素(目標設定能力)	23	リーダーの行動(タスクを定義する)		
9	リーダーシップの要素(学習能力)	24	リーダーの行動(チームの活性化)		
10	リーダーシップの要素(判断力)	25	リーダーの行動(効率化する)		
11	リーダーシップの要素(コミュニケーション能力)	26	リーダーの行動(動機付けする)		
12	リーダーシップの要素(育成能力)	27	リーダーの行動(組織化する)		
13	リーダーシップの要素(業務実行力)	28	グループワーク(チーム内コンセンサスを図る)		
14	リーダーシップの要素(モチベーション管理能力)	29	グループワーク(目標に向けてチームを統率する)		
15	学習内容の総括を行う	30	学習内容の総括を行う		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題 レポートで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		マーケティング演習		開講年度	2022	配当年次	3
				開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名		Practice of Marketing		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習では、商品やサービスを生み出すには、その前提として市場を知ることが大切である。そのために必要なマーケティングの基本知識・技能を、今後の専門的、総合的な学習・実習を行うための基礎素養として身につける							
到達目標							
・商品やサービスを企画する際のマーケティングの役割とプロセスを理解すること ・マーケティングにおける企画検討と市場調査の方法を理解し、実践できること ・市場調査結果を踏まえたマーケティングプランの作成を行えること							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 授業の概要			16			
2	マーケティングの基礎			17			
3	マーケティングの理論とビジネスモデル			18			
4	商品・サービスの企画検討(アイデア創出)			19			
5	商品・サービスの企画検討(コンセプト立案)			20			
6	コンセプト立案(続き)、市場調査の基礎			21			
7	定性市場調査の基礎			22			
8	定性市場調査の実践(インタビュー)			23			
9	定量市場調査の理論と実践(アンケート設計)			24			
10	定量市場調査の理論(アンケート結果分析)			25			
11	企業見学			26			
12	定量市場調査の実践(アンケート結果分析)			27			
13	ゲストスピーカー講演			28			
14	マーケティングプランの再検討、発表準備			29			
15	マーケティングプラン発表会・総括			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		毎回の授業内容の復習と課題の実施					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		課題50% レポート50%で評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		マネジメント		開講年度	2022	配当年次	1
				開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名		Management		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習では、マネジメントの基礎知識を学びます。動物園や水族館をはじめとした動物関連施設の運営に必要な知識を学ぶと共に組織社会における役割を理解する							
到達目標							
組織の一員として働く意味を知り、経営資源を理解し説明できるようになる。企業、施設の中でマネージャーとしての役割を理解し実践できるようになる							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 演習の概要			16			
2	マネジメントとは 定義を理解する			17			
3	マネージャーのミッション			18			
4	人と組織のマネジメントとは			19			
5	チームマネジメント(コミュニケーション)			20			
6	業務マネジメントとは			21			
7	事業管理・戦術と戦略			22			
8	環境の変化に対応する			23			
9	リスクマネジメント(コンプライアンス)			24			
10	動物施設におけるマネジメント			25			
11	動物園におけるマネジメント① グループワーク			26			
12	動物園におけるマネジメント② プレゼンテーション			27			
13	水族館におけるマネジメント① グループワーク			28			
14	水族館におけるマネジメント② プレゼンテーション			29			
15	学習内容の総括を行う			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		プレゼンテーション レポートで評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		リスクマネジメント		開講年度	2022	配当年次	4
				開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名		Risk Management		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習では、施設・組織内で起こりうるリスクを事前に防ぐための知識を学び、また、有事の際の対応ができるようになる事を目的とする							
到達目標							
リスクマネジメントのプロセスを理解し、高いリスク感度をもって状況に応じた最適なリスク管理を提案(実践)することができる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 授業の概要			16	ヒアリングシートの作成		
2	クライシスマネジメントとリスクマネジメントの違い			17	動物園にて担当者より業務内容／運営内容をヒアリング		
3	ISO規格でのリスクマネジメントの取り組みを学ぶ			18	水族館にて担当者より業務内容／運営内容をヒアリング		
4	リスクの種類を学ぶ(純粹リスクや投機的リスクなど)			19	リスク管理表の作成準備(項目の洗い出し)		
5	業界別でリスクマネジメントの特性を学び各アプローチを理解する			20	リスク管理表の作成①		
6	リスクの評価指標			21	リスク管理表の作成②		
7	リスクマネジメントにおけるPDCAサイクル			22	リスク管理票の修正		
8	リスクマネジメントのプロセス(リスク管理方針策定)			23	リスクの発生可能性と影響度について		
9	リスクマネジメントのプロセス(リスクの洗い出し)			24	リスク評価表の作成①		
10	リスクマネジメントのプロセス(リスクの分析評価)			25	リスク評価表の作成②		
11	リスクマネジメントのプロセス(リスク対応対策の準備)			26	リスク評価表の修正		
12	リスクマネジメントのプロセス(リスク対応策の実行)			27	リスク対応策の検討①		
13	リスクマネジメントのプロセス(リスクの監視・管理)			28	リスク対応策の検討②		
14	グループワーク(実例に基づいたリスク管理を実践)			29	ヒアリング対象の担当者から評価を受ける		
15	学習内容の総括を行う			30	学習内容の総括を行う		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		レポート 課題で評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	マネジメント	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	企画プランニング演習	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Business Planning	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	240(16)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
本演習は、動物園・水族館、動物施設の収益における集客につながるイベントや商品企画・立案の方法を産学連携にて実践的に学びクリエイティビティを習得する					
到達目標					
顧客満足(ユーザーの欲求・欲望を理解)を第一に考え、問題解決に取り組み期待を超えるクリエイティビティを発揮する事を目的とする					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 企画とは何か?	16	商品企画プロセス、コンセプト開発課題提示		
2	顧客満足とは	17	環境・資源分析、STP分析、目標設定		
3	顧客価値の創造①	18	コンセプト、顧客調査		
4	顧客価値の創造②	19	環境・資源分析、STP、目標設定 (ワークショップ)		
5	ビジネスの着眼点①	20	中間プレゼンテーション(環境・資源・目標)		
6	ビジネスの着眼点②	21	顧客調査 (ワークショップ)		
7	ブルーオーシャン戦略①	22	中間プレゼンテーション(顧客調査知見)		
8	ブルーオーシャン戦略②	23	コンセプトの修正、プロトタイプ作成		
9	利益モデル①	24	企画書作成①		
10	利益モデル②	25	企画書作成②		
11	戦略立案①	26	中間プレゼンテーション		
12	戦略立案②	27	企画書修正①		
13	プランニンググループ演習①	28	企画書修正②		
14	プランニンググループ演習②	29	最終プレゼンテーション		
15	プランニング発表、前期のまとめ	30	まとめ(振り返り)		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	課題 レポート プレゼンテーションで評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名		マネジメント		開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名		施設マネジメント演習		開講年度	2022	配当年次	3
				開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名		Practice of Management		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名							
実務経験概要							
授業の概要・目的							
本演習は、産学連携企業プロジェクトを通して動物園・水族館、動物関連施設の運営について学び実践することを目的とします							
到達目標							
施設運営における必要項目を理解して、それに付随する書類の作成ができるようになる。							
授業計画(テーマ・内容)							
1	オリエンテーション 演習の概要			16			
2	運営種別を学ぶ(直営・指定管理者・民間移譲など)			17			
3	動物園見学			18			
4	水族館見学			19			
5	運営企画書の作成			20			
6	サービスマニュアルの作成			21			
7	見学施設での運営を想定してマニュアルを作成(項目の洗い出し)			22			
8	見学施設での運営を想定してマニュアルを作成(完成)			23			
9	来場者誘導演習			24			
10	Private-Finance-Initiative(通称:PFI)は			25			
11	サステナブル施設の概念を学ぶ			26			
12	防火管理・安全管理・備品管理について学ぶ			27			
13	財政状況に応じた施設マネジメント計画をプランニング			28			
14	プランニングに添削を行い、フィードバックする			29			
15	学習内容の総括を行う			30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)		授業中に適時課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを基にノートを作成する					
教科書・テキスト		なし					
参考書							
評価方法・基準		課題50% レポート50%で評価する					
成績評価		評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。					

授業科目名	留学	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	海外留学	開講年度	2022	配当年次	3
		開講期間	前期	必選区分	選択
開講科目英名	Study Abroad	授業形態	演習	時間数(単位数)	450(30)
講師名	-				
実務経験概要	-				
授業の概要・目的					
これからの若者たちは、さらに変化の激しい、答えのない時代を生きることになる。そのような中で充実した人生を過ごすには、新しい環境に柔軟に適応し、問題があれば自身で考え、チャレンジ精神を持って解決していく必要がある。海外留学は、語学力・コミュニケーション力の向上に加え、生活様式の違いや異文化体験を通してこのような能力を身につけることを目的とする。					
到達目標					
海外の文化や知識に触れることで、語学力・国際感覚を身につけ、将来グローバルに活躍できる人材となる。					
授業計画(テーマ・内容)					
出国前	オリエンテーションガイダンス 出国半年前より、オリエンテーションやガイダンスを行い、留学に対しての心構えと学校生活や普段の生活を理解できるようになる。				
1～4週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
5～8週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
9～12週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
13～16週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
17～20週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
21～24週目	現地提携校にて、4週間の英語授業(1日4時間)を履修。 スピーキング、リーディング、ライティング、リスニングの授業を繰り返し行う。 ※レベルに変更があった場合も、上記内容にて、英語授業を履修する。				
帰国後	留学の振り返りとフィードバック				
レベルチェックテストの結果を踏まえて、下記レベル分けに応じてレベルアップしていく。 Elementary → Pre-Intermediate → Intermediate Low → Intermediate High → Upper Intermediate → Advanced					
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	アクティビティ				
教科書・テキスト	現地語学学校のテキスト				
参考書					
評価方法・基準	現地の成績表を基に、大阪ECO動物海洋専門学校の評価基準に基づき評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	業界研究	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	業界研修	開講年度	2022	配当年次	3
開講科目英名	Business internship	開講期間	前期	必選区分	選択
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	450(30)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
学生が目指す業界の企業またはそれに準ずる組織・施設・個人等(以下企業という)で研修(インターンシップ)を行う。 このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標の前に、社会人とは何かを実際の現場で学ぶことを目的としている。					
到達目標					
①学生の業界へのイメージと現実とのギャップを軽減させる。 ②実際の業界現場での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを学ぶ。 ③社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学ぶ。 ④自らの「キャリア」をデザインできる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1-4	講義:インターンシップとは、参加の意義を知る	61-64	インターンシップ参加		
5-8	インターンシップに参加	65-68	インターンシップ参加		
9-12	10月初旬から将来の目指す業界でのインターンシップに参加する 8時間×17日=136時間の研修を基準に1termとする	69-72	インターンシップ参加		
13-16	10月1日から1月末までに合計3termの業界研修を行う(計408時間)	73-76	インターンシップ参加		
17-20	業界研修導入授業及び中間発表、報告会の講義を行う(計42時間)	77-80	インターンシップ参加		
21-24	インターンシップ参加	81-84	インターンシップ参加		
25-28	インターンシップ参加	85-88	インターンシップ参加		
29-32	インターンシップ参加	89-92	インターンシップ参加		
33-36	インターンシップ参加	93-96	インターンシップ参加		
37-40	インターンシップ参加	97-100	インターンシップ参加		
41-44	インターンシップ参加	101-104	インターンシップ参加		
45-48	インターンシップ参加	105-108	インターンシップ参加		
49-52	インターンシップ参加	109-112	インターンシップ参加		
53-56	インターンシップ参加	113-116	インターンシップ参加		
57-60	中間報告会	117-120	報告会		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	企業研究、業界研修(インターンシップ)希望先の選定活動やレポート作成など				
教科書・テキスト	業界研修日報、業界研修ノートなど配布資料による。				
参考書	キャリアセンターの参考情報				
評価方法・基準	研修先業務の完全遂行、講義参加、報告会での発表、レポート提出が単位取得の条件となる。 【成績評価】レポート内容、報告会、インターンシップ先企業の評価を総合して評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	アニマルヒストリー	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	History of Animals and Human	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	我々が地球と共存していく上で、他の動植物を無視することは出来ない。地球創世時～人が文明を持つまでの流れを理解し、動物の進化を知ることは現存する生物たちの生態、行動を理解する上で、とても重要である。生命の無い場所からの生物誕生～現在までの理解を深める。				
到達目標	地球の生い立ち、生物の発生、生物の進化、ヒトと地球の関係、環境破壊と保全を理解することができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	概論 講義の内容と進め方	16			
2	宇宙Ⅰ 成り立ちと銀河系	17			
3	宇宙Ⅱ 地球	18			
4	生命の誕生 原核生物～爬虫類	19			
5	魚類 魚類の発生と淡水への適応	20			
6	昆虫類 昆虫類の上陸作戦	21			
7	両生類 両生類の重力対策	22			
8	ロープワーク ロープワーク	23			
9	爬虫類 恐竜	24			
10	哺乳類 恐竜と獣弓類	25			
11	哺乳類と鳥類 互いの覇権争い	26			
12	ヒト 類人猿からヒトまでの進化	27			
13	ヒト ヒトの未来と環境	28			
14	地球の生い立ちから生物の進化、現在の地球環境について説明でき、自分の考えを述べるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	アニマルヒストリー				
参考書	なし。				
評価方法・基準	ノート提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	アニマルベーシック	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Basic Animal Study	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	生物はどのようなしくみで生命を維持しているのかを理解し、その基礎的知見を習得することを目的とする。				
到達目標	動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の生理生態を理解できる人材を養成することを目指す。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	【授業概略】これから学ぶアニマル・ベーシックの概要を紹介する。	16			
2	【生命の誕生】最初に生命が誕生したときの地球環境について理解する。	17			
3	【生物の進化-1】生命誕生から生物の進化の過程について理解する。	18			
4	【生物の進化-2】海で誕生した生物が陸上で生活できるようになるために体のしくみがどのように適応して行ったかについて理解する。	19			
5	【血液成分と血液の役割】地球の生命は海で誕生したため、血液成分は海水成分と密接な関係がある。その血液の成分や機能について理解する。	20			
6	【血液検査-1】赤血球数と白血球数の検査方法とその結果の意味を理解する。また、白血球の免疫機能のしくみを理解する。	21			
7	【血液検査-2】ヘマトクリット値とヘモグロビン濃度の検査方法とその結果の意味を理解する。	22			
8	【ズー・ノーシス】動物由来の感染症(ズー・ノーシス)に対する取り扱い方法を理解する。	23			
9	【遺伝】遺伝のしくみを理解し、近年の目覚ましい遺伝子操作技術について学ぶ。	24			
10	【保全とは】保全の定義(保存と保護との違い)について説明。	25			
11	【生物多様性とは】生物多様性の意味とその役割について説明。	26			
12	【生物多様性とは】保全の立場で作られた生物多様性条約の役割と問題点について。	27			
13	【野生動物保護に関する関連法規-1】ワシントン条約など関連法規の種類と内容について説明。	28			
14	【野生動物保護に関する関連法規-2】関連法規の続き。	29			
15	【総括授業】前期の総括授業を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前にテキスト「基礎生物」を読んでおくこと。授業では、白板に板書を行わないいため、授業中は説明したことをメモし、受講後、メモを整理し授業内容をまとめること。				
教科書・テキスト	基礎生物				
参考書	授業内で参考資料を随時紹介				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	インタープリテーション	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Interpretive Training	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	ネイチャーガイドや動物園・水族館のスタッフは、自然環境とそこに棲む生物や地域特性について、お客様に楽しみながら理解してもらうことが重要です。そのためには、全く興味がない人から関心が高い人まで、お客様のニーズにあった解説テクニックが必要です。本授業では、まず解説者本人がインタープリテーションへの理解を深め、より多くの人を楽しんでもらえる解説方法を実践的に学びます。				
到達目標	対象地域の自然環境や地域特性について分析できるようになる。 お客様のニーズに合わせたガイド内容を企画することができるようになる。 想定外の事態にも臨機応変に対応できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	インタープリテーションとは(定義と原則)について理解する	16	インタープリテーション体験Ⅱ①		
2	インタープリターの役割	17	インタープリテーション体験Ⅱ②		
3	参加者の特徴とニーズ①	18	インタープリテーション体験Ⅱ③		
4	参加者の特徴とニーズ②	19	インタープリテーション体験Ⅱ④		
5	インタープリテーション体験Ⅰ①	20	テーマの選び方・分析【実践】①		
6	インタープリテーション体験Ⅰ②	21	テーマの選び方・分析【実践】②		
7	インタープリテーション体験Ⅰ③	22	プログラム内容の作成・調査【実践】①		
8	テーマの選び方・分析方法【練習】①	23	プログラム内容の作成・調査【実践】②		
9	テーマの選び方・分析方法【練習】②	24	プログラム内容の作成・調査【実践】③		
10	プログラムの作成方法【練習】①	25	プログラム内容の作成・調査【実践】④		
11	プログラムの作成方法【練習】②	26	プログラム内容の作成・調査【実践】⑤		
12	プログラム内容の作成・調査方法【練習】①	27	ツアー実践①		
13	プログラム内容の作成・調査方法【練習】②	28	ツアー実践②		
14	安全管理・対処方法	29	ツアー実践③		
15	これまでの総括と振り返り	30	ツアー評価と振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。発表内容の多くは授業外で準備する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	インタープリテーション入門／小学館				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験40%、実技試験(プレゼンテーション)40%、出席率20%で、最高評価点は100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	環境教育	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Environmental Study	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	本講義では、人間社会における野生動物の問題を知り、動物園や水族館等の様々な動物施設で提供できる環境教育プログラムや自然観察・野外活動等の教育活動について体験を通して学び、将来の現場において教育プログラムの企画・担当ができる人材となることを目指す。				
到達目標	様々な環境教育や自然体験プログラムを経験しており、現場の特徴に併せて企画・指導することができる。 生き物を題材にした環境教育プログラム「プロジェクトワイルド」を体験を通して指導法等を学び習得する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	様々な環境問題の概要理解、SDGs等の解決に向けた活動の紹介等	16	生き物を題材にした環境教育プログラムの体験1		
2	人間関係構築プログラムの体験と理解1	17	生き物を題材にした環境教育プログラムの体験2		
3	人間関係構築プログラムの体験と理解2	18	生き物を題材にした環境教育プログラムの指導実践1		
4	野草を活用した自然体験・食育プログラムの体験と習得	19	生き物を題材にした環境教育プログラムの指導実践2		
5	環境教育や自然体験の必要性や体験学習法についての理解	20	野生動物の被害事例1		
6	ネイチャーゲームなどの自然体験プログラムの体験1	21	野生動物の被害事例2		
7	ネイチャーゲームなどの自然体験プログラムの体験2	22	野生動物対策方法1		
8	グローイングアップワイルド等の環境教育プログラムの体験	23	野生動物対策方法2		
9	里山保全と利活用についての理解と実践1	24	野生動物との共存1		
10	里山保全と利活用についての理解と実践2	25	野生動物との共存2		
11	里山保全と利活用についての理解と実践3	26	野生動物の痕跡トラッキング実習1		
12	里山保全と利活用についての理解と実践4	27	野生動物の痕跡トラッキング実習2		
13	様々な環境問題の概要理解、体験型の環境教育プログラムの体験1	28	これからの動物園で必要される教育や環境教育についての考察と企画1		
14	様々な環境問題の概要理解、体験型の環境教育プログラムの体験2	29	これからの動物園で必要される教育や環境教育についての考察と企画2		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	沈黙の春 レイチェルカーソン著 新潮文庫 / むすんでみよう子どもと自然 井上美智子等 編著 / その他授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は試験評価80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2022	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Health Care	授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的					
本講義は哺乳類と鳥類が対象である。先ず様々な動物と解剖生理学および生態、つまり、体のつくりや仕組みににどのような違いがあるのか、野生では何を食べているのか、どのような暮らしをしているのかについて理解を深める。その上で、動物を心身共に健康に飼育するには、どのような食べ物や環境を提供してやればよいのかを学ぶ。また、動物分類、学名、関連する法律について、動物学の基本的な事を学ぶ。					
到達目標					
動物を心身ともに健康に飼育するには、飼育員が正しい知識を持っていることが必須である。この授業を通して、将来自分が担当する動物種に関する解剖生理学や生態学を身につけ、適切に飼育できるようになることを目標とする。さらに自分でウェブサイトや文献を調べて知識を深めることができるよう、代表的な動物学英単語も学ぶ。また、工作上必要になる動物分類や学名、関連する法律について理解できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	哺乳類の解剖生理学1:哺乳類の基本的骨格を学ぶ。	16			
2	哺乳類の解剖生理学2:代表的な動物の骨格を比較する。基本的な骨の名称を学ぶ。骨の構造と役割を知る。	17			
3	動物の分類と学名1:動物園研究でも学ぶ動物分類について理解を深め、国内や海外の動物園で問題となっている亜種間雑種の課題などについて見識を深める。	18			
4	動物の分類と学名2:学名の作り方、見方について学ぶ。専門書や海外文献での学名表示の意味を知る。CITESなどで使われる動物種の学名表示について知る。	19			
5	肉食動物1:食肉目に含まれる科、属、種の動物の解剖生理学的特徴、食性、生態を知る。	20			
6	肉食動物2:純粋な肉食性であるネコ科動物の栄養学的特徴を学ぶ。食肉目を飼育する上での注意事項を学ぶ。	21			
7	有蹄類1:有蹄類に属する科、属、種を知る。蹄とは何か、構造、各部の名称、役割を知る。角の分類、構造、役割を知る。	22			
8	有蹄類2:前胃発酵有蹄類の胃の解剖生理学、食べ物の消化吸収の仕組み、反芻とは何かを学ぶ。	23			
9	有蹄類3:後腸発酵有蹄類の腸の解剖生理学、食べ物の消化吸収の仕組みを学ぶ。	24			
10	生殖器:哺乳類の雄、雌の生殖器の位置、相棒生理学を学ぶ。	25			
11	鳥類1:飛翔の仕組み 翼、筋肉、肺など哺乳類とは異なる特徴を学ぶ。	26			
12	鳥類2:鳥類の感覚器、羽の構造、発色の方法について学ぶ。	27			
13	鳥類3:鳥類の消化器、泌尿生殖器について学ぶ。	28			
14	授業の総括	29			
15	授業の振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園などの動物展示施設や博物館に見学に行き、授業で学んだ座学を復習するようにする。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)、哺乳類の生物学(東京大学出版会)、鳥類学(新樹社)、BONES(早川書房)その他、授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験を100%とする。ただし、筆記試験結果が60点未満の場合、授業出席割合を勘案する場合もある。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2022	配当年次	1
開講科目英名	Anatomy and Physiology of Animals	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	動物園など動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の解剖学的・生理学的要因を学ぶ。動物の体のしくみについての基礎的知識を習得し、これから実施していく動物園などでの業界研修のときに必要とする知識を習得することを目標とする。				
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、動物を仕事で扱う際に何か問題が起きたとき、その動物がなぜそのようなになっているのか？ その問題の根底にある原因を考えられるようになることを目標とする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	【骨格系1】 骨格の構造と機能を理解する。	16			
2	【骨格系2】 Caイオンと骨の関係を理解する。	17			
3	【骨格系3】 動物たちの行動と骨格のしくみの関係を理解する。	18			
4	【循環器系1】 心臓構造と血液循環について理解する。	19			
5	【循環器系2】 循環系の検査方法(心拍数・血圧・心電図)について理解する。	20			
6	【中枢神経系】 脳の役割と検査方法(脳波)について理解する。	21			
7	【視覚1】 眼の構造と機能について理解する。	22			
8	【視覚2】 色覚のしくみについて理解する。	23			
9	【視覚3】 動物たちの行動と色覚との関係を理解する。	24			
10	【視覚4】 眼以外の視覚(松果体・赤外線感知)	25			
11	【聴覚1】 動物の聴覚のしくみを理解する。	26			
12	【聴覚2】 動物のエコロケーションのしくみを理解する。	27			
13	【嗅覚】 動物の聴覚のしくみを理解する。	28			
14	【味覚】 動物の味覚のしくみを理解する。	29			
15	【総括授業】総括授業を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業前にテキスト「動物の体のしくみ」を読んでおくこと。授業では、白板に板書を行わないいため、授業中は説明したことをメモし、受講後、メモを整理し授業内容をまとめること。				
教科書・テキスト	動物の体のしくみ				
参考書	授業内で随時参考資料を紹介				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係	開講学科	エコ・テクノロジー科		
開講科目名	動物関連法規Ⅰ	開講年度	2022	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Related Laws and RegulationsⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	野生動物を中心として、人と動物が関わる法律について学ぶ。				
到達目標	・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16			
2	ワシントン条約(1) 日本語と英語の正式名称、発効までの背景など	17			
3	ワシントン条約(2) レッドリストとの違い□	18			
4	ワシントン条約(3) 留保など □	19			
5	ワシントン条約(4) 附属書1、附属書2、附属書3	20			
6	種の保存法(1) 制定の背景、法律の概要	21			
7	種の保存法(2) 国際希少野生動植物種など	22			
8	種の保存法(3) 国内希少野生動植物種、罰則など	23			
9	外来種と外来生物(1) 外来種と外来生物の違いなど□	24			
10	外来種と外来生物(2) 意図的導入と非意図的導入の実例 その1□	25			
11	外来種と外来生物(3) 意図的導入と非意図的導入の実例 その2□	26			
12	外来生物法の概要(1) 施行年、目的など□	27			
13	外来生物法の概要(2) 特定外来生物の規制内容	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	前期学習内容の復習・振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからの一を作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				